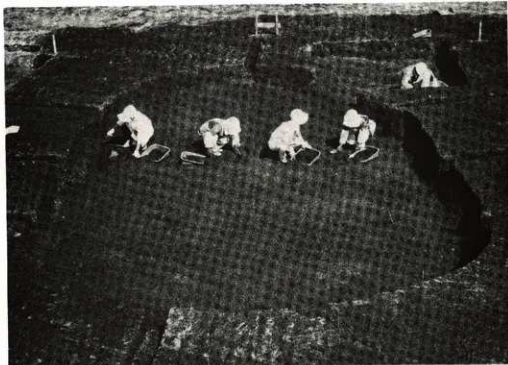


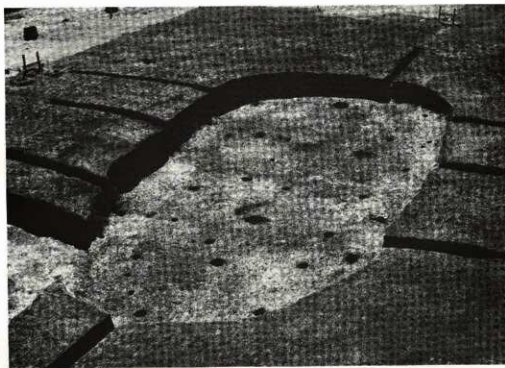
IV 美々5遺跡

- 1 遺跡の概要
 - 2 遺構・遺物出土の遺物
 - 3 包含層出土の遺物
 - 4 まとめ
- 資料編

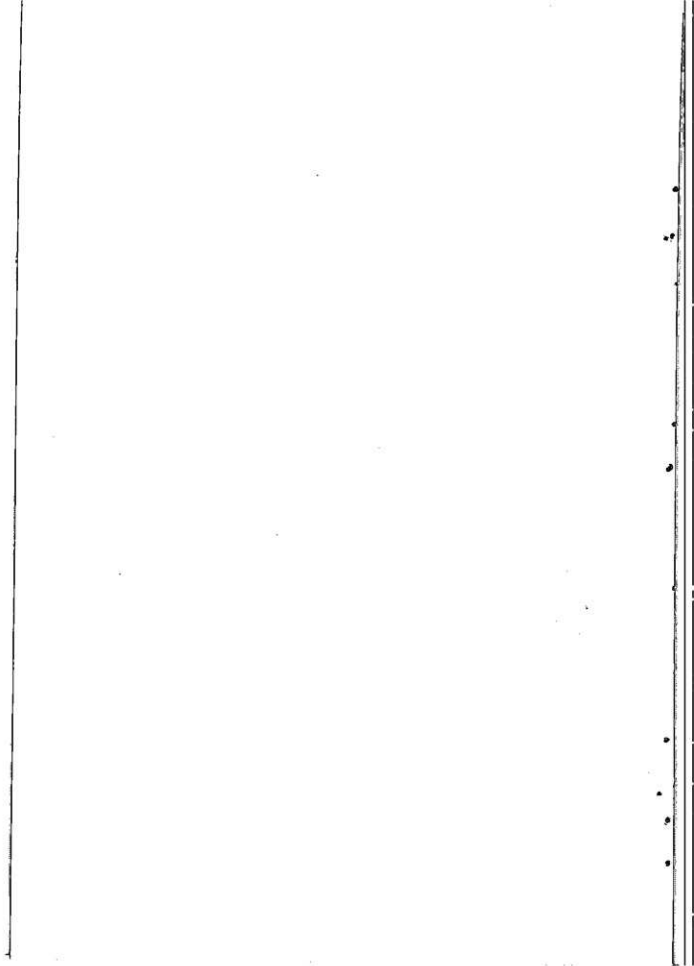
美々5遺跡西側斜面のTピット群。

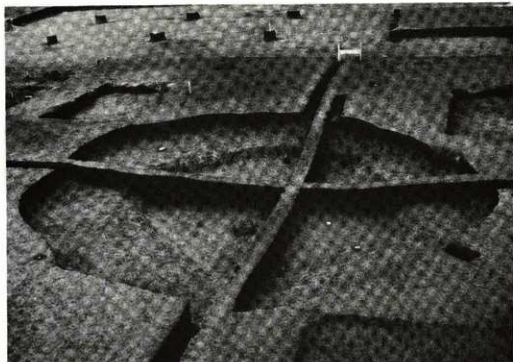


MBH-1 調査風景

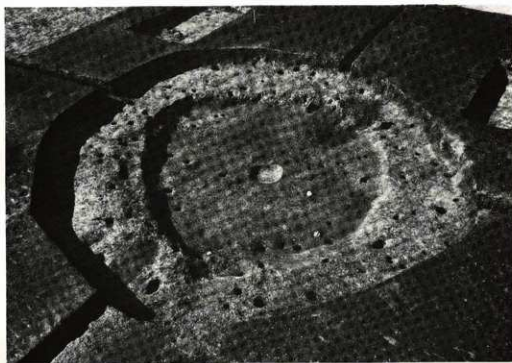


MBH-1 全景

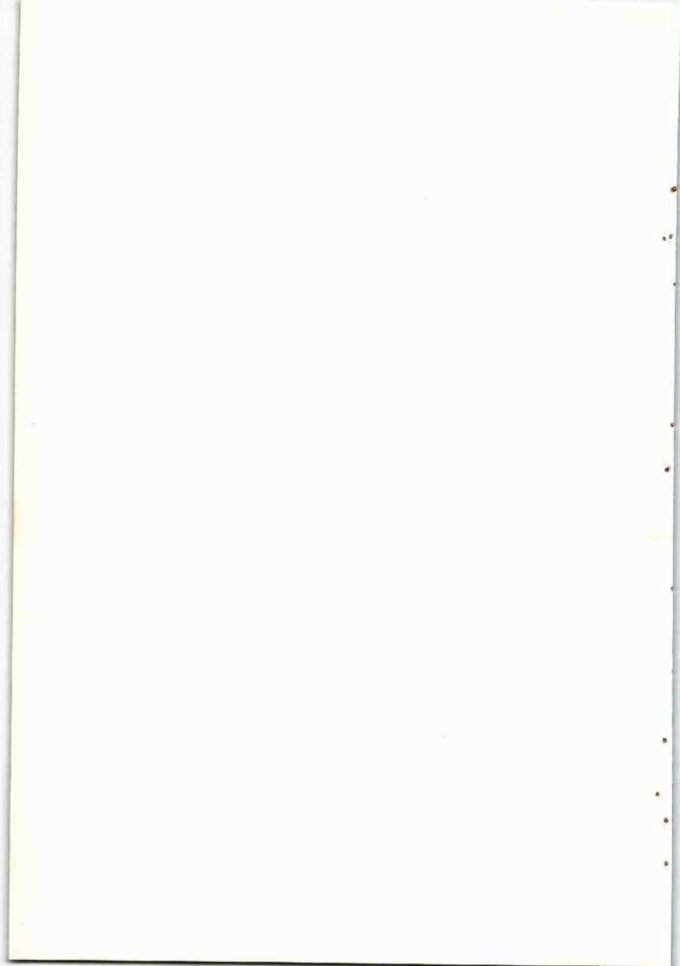




MBH-2 調査状況



MBH-2 全景





MBH-1 出土土器



MBH-1 出土土器



MBH-1 出土石器



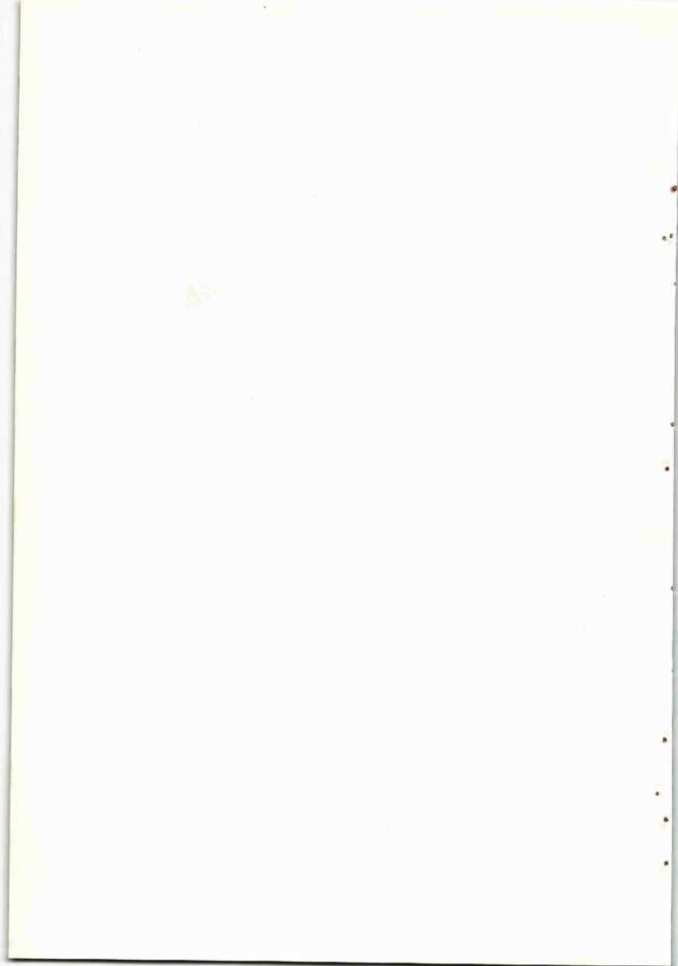
MBH-2 出土土器

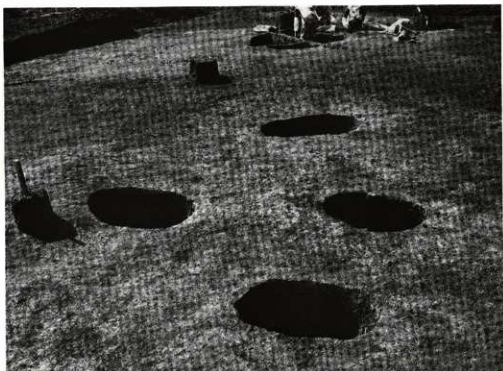


MBH-2 出土土器



MBH-2 出土石器





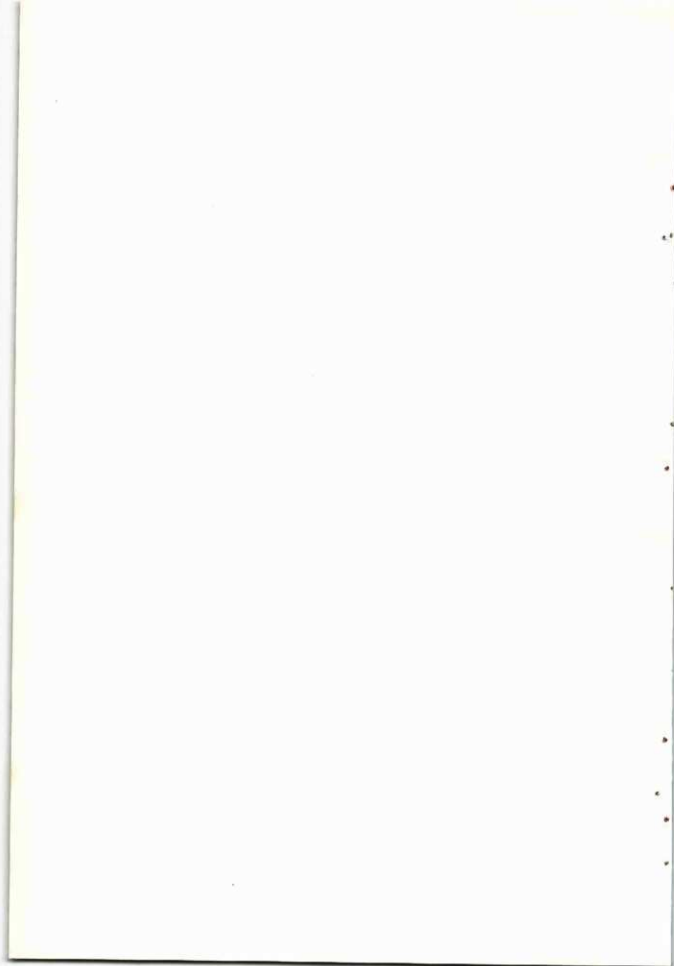
土坑墓 (MP-35~MP-38)



MP-36



MP-38





MP-43 (左) MP-49 (右)



块状耳飾出土状況



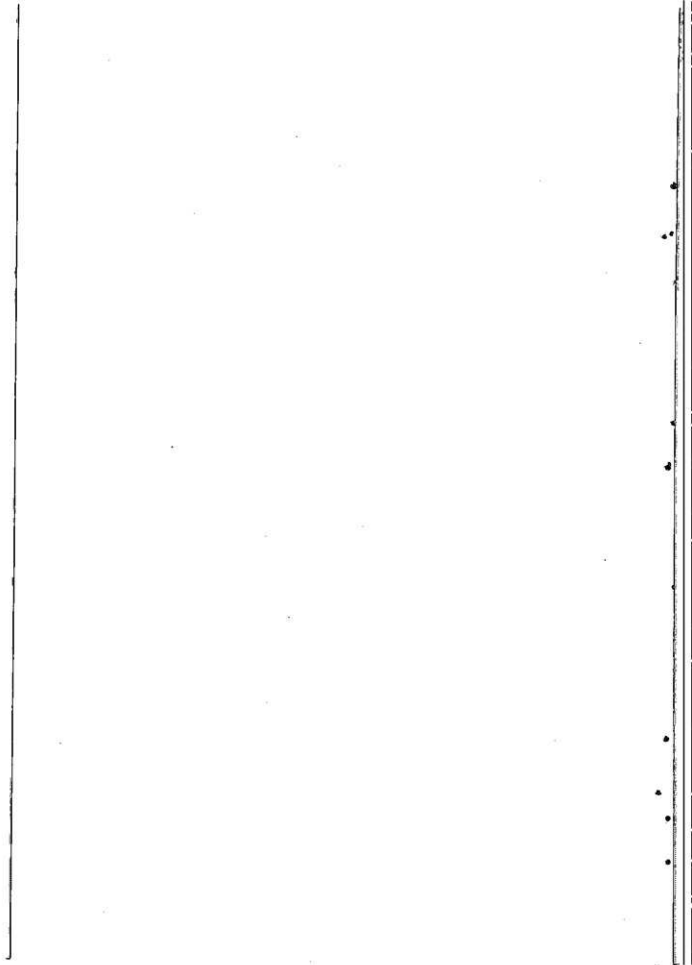
块状耳飾

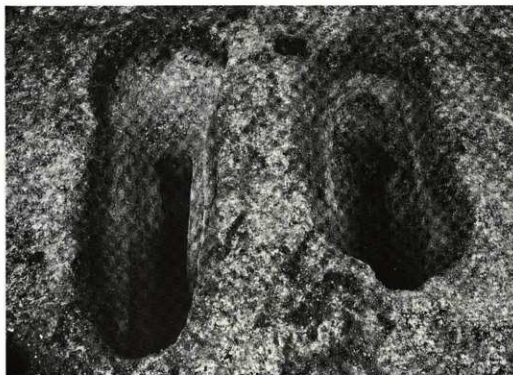


MP-49 遺物出土状況



MP-49 出土遺物





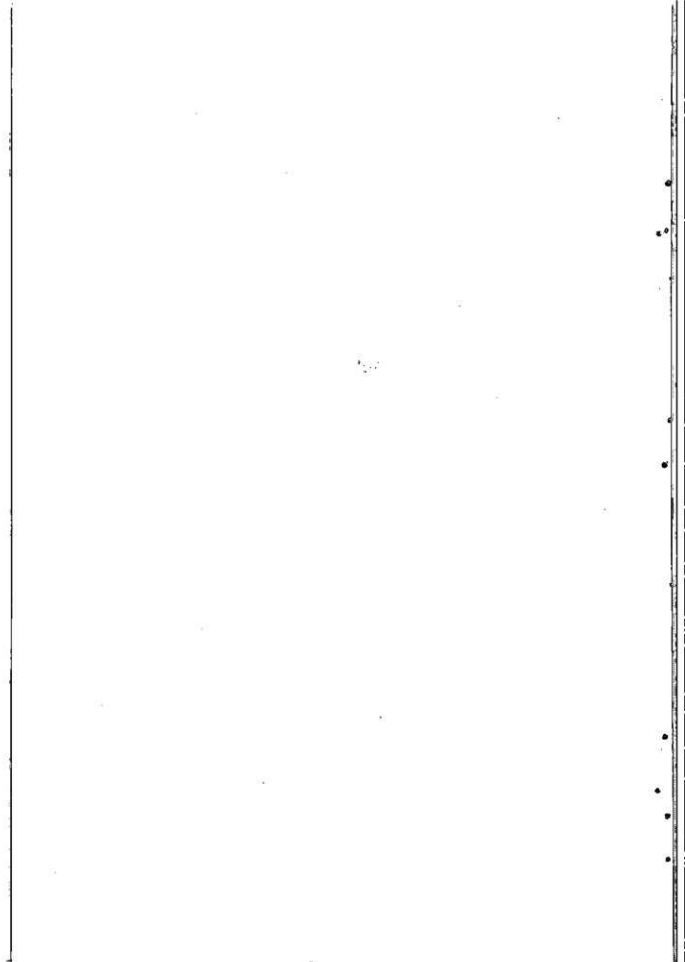
TピットMP-4 (左) MP-5 (右)



MP-17



MP-7





MH-2 出土土器

包含層出土土器

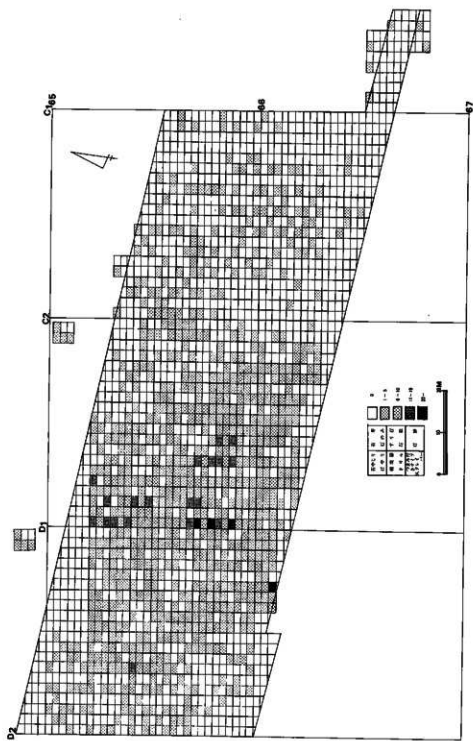


包含層出土土器



LP-4 出土土器

包含層出土土器



美々 5 遺跡出土石器分布図



やじり・石やり



ドリル・刺突器



つまみ付きナイフ・スクレイパー



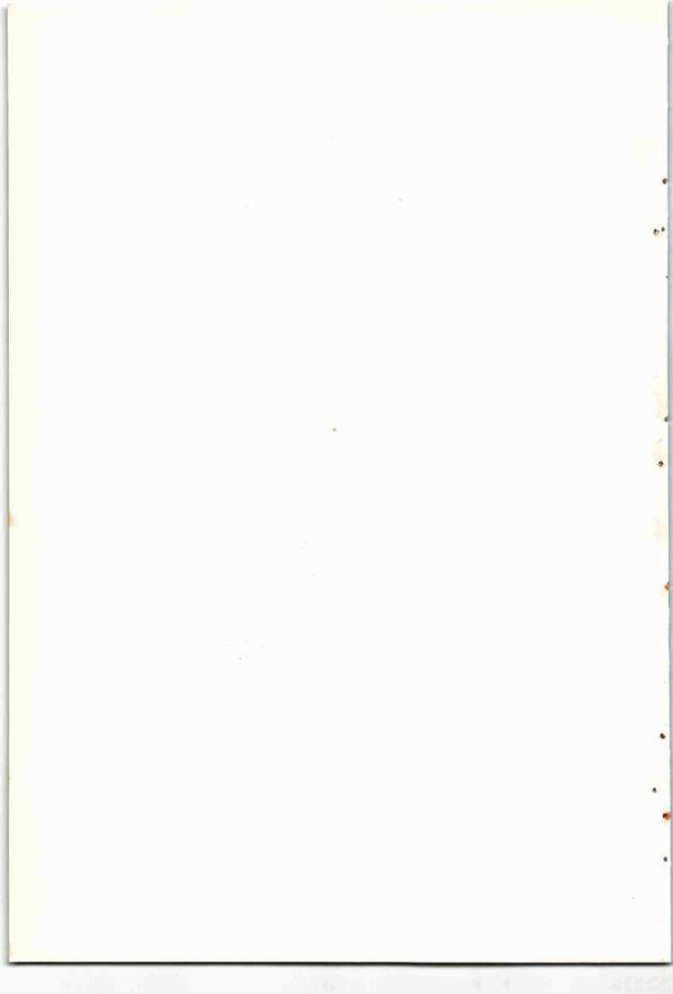
石斧



石 錘



すり石・たたき石等



IV 美々5遺跡

1. 遺跡の概要

遺跡は美沢川左岸の標高約 25 m の台地上から南西斜面にあり、西斜面下で美々4遺跡と接している。本遺跡はすでに昭和 51 年、53 年、54 年度に一部発掘調査を実施しており、本年は最終年である。とくに 53 年度の調査では、本年度調査地区の南側、標高 8~15 m 間に縄文時代早期と前期の住居跡が 74 か所、また、西側、標高 22~23 m の台地の先端では住居跡、周堤墓、土墳墓、T ビットなどが発見されている。

本年度の調査面積は、I 黒層が 1,050 m²、II 黒層が 8,450 m² で計 9,500 m² である。なお、調

表 1 美々5遺跡出土遺物一覧

名 称	分 類	数	量	名 称	分 類	数	量	名 称	分 類	数	量
		I 黒層 出土点数	計			I 黒層 出土点数	計			I 黒層 出土点数	計
土 器	I b-1	72	72		I A 6-	12	12		III B 1		104
	I b-2	4	4		I A	3	2	石 磨	IV A 1		14
	I b-3	18	18		I A 2-		3		IV A 2		88
	I b-4	59	9,557		I A 3-		4		IV A 3		20
	II a 1	242	242		I A-	1	203		IV A 4		5
	II a-2	6,417	6,417	石 やり	I B 1 a		29		IV A 5	1	7
	II a-	80	80		I B 1 b		9		IV A-	2	62
	II b	306	306		I B 1-		1		IV B		8
	II-	13	13		I B 2 a		3		IV A 1	2	17
	III a	24	24		I B 2 b		4		IV A 2	1	49
	III b-1	827	827		I B-		18		IV A 3		6
	III b-2	185	185	新 突 器	II A 1		42		IV A 4		1
	III b-3	1,625	1,625		II A 2		79		IV A-		33
	III b-	752	752		II-		4	石	IV B 1		6
	III-	33	33		II A		6		IV B 3		6
	III a-1	1	1	リ ン	III B 1		57		IV B-		2
	III b-4	1	1		III B 2		40	すり石	IV A 1		67
	IV a	1,399	1,399		III B-		12		IV A 2		11
	IV b	852	852	つぎの付	III A 1 a		103		IV A 3		97
	IV c	11	512		III A 1 b		90		IV A 4		15
	IV-	2	5		III A 1 c		63		IV A-		71
	V a		63		III A 1 d		21	石 座	IV B 1		46
	V b		80		III A 1-		10		IV B-		20
	V c	386	45		III A 2		12	石 磨	IV A		7
	V-	1	1		III A 3		4	砥 石	IV B 1		3
	不明	15	15		III A 4		2		IV B 2		63
石 やり	I A 2 a	17	17		III A-		99		IV B-		56
	I A 2 b	55	55	スクリュー	III B 1 a		5		IV A 1	1	10
	I A 2 c	19	19		III B 1 b		12		IV A 2		42
	I A 3 a	218	218		III B 2 a		19		IV A 3		2
	I A 3 b	1	170		III B 2 b	1	4		IV A-		96
	I A 3 c		1		III B 2-		1	石 珠	IV		19
	I A 3 d		4		III B 3	1	9	変形鉄の 片と銅片	X	3	226
	I A 4 a	2	90		III B 4		50		曜	10	8,147
	I A 4 b	1	17		III B 5		31		フレイク	62	14,869
	I A 5 a		4		III B 6	1	23		石 製 品		5
	I A 5 b		5		III B 7		240		土 製 品		2

査にあたっては、大グリットの南北のC₂線を境として東側をL地区、西側をM地区とした。

土層は図版2に示した柱状図と基本的に同じである。台地上ではI黒層、II黒層ともほぼ同じ厚さで堆積しているのに対して、M地区の縁辺部ではII黒層は比較的薄く、斜面の下位に進むにしたがって厚くなっている。遺構・遺物はI黒層、II黒層から検出されている。

I黒層では552点の遺物が出土している。そのうち土器は459点で、V群C類に属するものが84%を占めている。遺構は検出されなかった。

II黒層では、台地上および西斜面にかけて遺構が発見されている。しかし、美々4遺跡のように遺構が集中する傾向はみられなかった。

遺構は住居跡4か所、土壌墓8か所、Tビット35か所、その他のビット17か所、焼土1か所が検出されている。(付図2)

住居跡なすべてM地区において発見された。大形で隅丸方形を呈するもの(MBH-1)、同じく円形で内部にベンチをもつもの(MBH-2)、規模の小さい円形のもの(MH-1)と円形のもの(MH-2)がある。MBH-1及び2は、いずれも縄文時代中期後半に属するもので、IはIII群b-2類(柏木川式)、2はIII群b-3類(北筒式)をともなっている。また、MH-2の床からI群b-4類の完形土器が出土している。MH-1は時期不明である。

土壌墓は、台地の西寄り(D₁線付近)から7か所発見されている。(MP-34~38、43、49)。MP-36では、頭骨の残りが比較的良く、その周囲から焼けた人骨が検出された。鑑定の結果、少なくとも2体合葬されていることが判明している。

焼骨の埋葬例は、美沢川流域の遺跡群のこれまでの調査では、はじめての発見である。MP-49からは、瑛状耳飾、石斧、つまみ付きナイフなどが出土している。

Tビットは、細い溝状のもの、幅の広い円形のもの、だ円形のもので底に小ビットをもつものなどがある。これらは、西斜面、台地縁辺部、平坦部の三つの地域にまとまりがあり、形状、配列などからいくつかのグループに分けることが可能である。(参照P-〇)。時期は、いずれも不明であるが、MP-24は、MBH-2を切ってつくられており、MBH-2(北筒式)よりも新しいことが判明している。

II黒層では49,348点の遺物が出土している。土器は早期から晩期まで(I群~V群)、23,143点出土している。土器片のうちで最も多いのがI群で約42%、次いでII群が約30%を占めている。I群ではb-4類が最も多い。早期(I群)の土器は発掘区の東側の平坦部から縁辺部にかけて、前期(II群)はC₂線を境として西側の平坦部から斜面下位にかけて集中している。中期(III群)は出土量は少ないがII群の分布と似ている。後期(IV群)、晩期(V群)は、全体には淡いが、部分的に集中している。

石器は、剥片石器と礫石器、それにフレイク・チップ・礫片など合わせて24,227点出土しており、その割合は、剥片石器が約9%、礫石器が約4%、フレイク・チップ・礫片が約87%である。剥片石器では、やじり、つまみ付きナイフ、スクレイパーの三種で約85%を占めている。礫石器では、石斧、すり石、石錐が約65%を占め、次いで砥石、たたき石となっている。

石器の分布は、平坦部から台地縁辺部（C₂線とD₁線の間）にかけて比較的密である。これは土器片のⅡ群、Ⅲ群の分布と一致している。

調査区のほぼ中央部で、旧石器時代文化層の確認調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかった。

2. 遺構・遺構出土の遺物

発見された遺構は、住居跡が4か所、土壌墓が8か所、Tピットが35か所、その他のピット17か所、焼土1か所となっている。（付図2）

住居跡（図1～8）

発見された住居跡は、早期のもの1か所、中期のもの2か所、時期不明のものが1か所ある。早期の住居跡、MH-2（図8）は南側台地縁辺部に近い標高が24mのところにある（C₂-66-32、42）。だ円形を呈しⅡ黒層中から掘り込まれている。壁はほぼ垂直に立ち上り、床はE₀-aの面にあり、平坦である。長径2.6×短径1.7mの床の北壁に近いところからⅠ群b-4類の小型の完形土器が出土している。

中期の住居跡は2か所ありいずれも大型のものである。

MBH-1（図1～3）：発掘区の西側斜面に近い台地上にある。Ta-c除去後、Ⅱ黒層上面から確認された。隅丸長方形を呈する長径11.3m×短径6.1mの大型の住居跡である。Ⅱ黒層中に掘り込まれており、ほぼ垂直に立ち上る。床は壁近くでは平坦であるが中央部ではわずかにくぼんでいる。炉跡は床のやや南側部分から検出された。炉の掘り込みは浅い。柱穴は、壁際と住居の内側から検出されている。覆土中および床から土器、石器などが出土しているが、出土土器片のうち約83%がⅢ群のものであった。なかでもⅢ群b-2類（柏木川式）が最も多く、床面からも36点出土している。

MBH-2（図4～6）：台地の中央部からやや西寄りのところにある。本跡も、MBH-1と同様、Ta-c除去後、Ⅱ黒層上面から確認されている。中央部がすでにくぼんでおり円形を呈している。最大径8.6mの大型の住居跡である。Ⅱ黒層中から掘り込まれ、En-a上面に床をもつ住居内部にベンチをもつ。ベンチが作られている層はTa-d₂である。床のほぼ中央部に炉跡があり、炉は床を10cmほど掘り込んで作られている。ベンチ部分から床面までの高さは20cmぐらいである。柱穴はベンチ部およびベンチ縁辺部から検出されており一周するものと思われる。出土土器の約81%がⅢ群b-3類（北筒式）のものである。覆土中から焼土が検出されているが本跡とは関係ないものである。

土壌墓（図9～12）

土壌墓は、台地の西寄り（D₁線付近）から7か所発見されている（MP-34～38、43、49）。MP-35～38はまとまっており、頭位方向はいずれも北にある。MP-36では人骨が墳底から検出されている。残っている人骨から埋葬状態は屈葬と考えられる。焼けた人骨とそうでない人骨が混在している。頭骨のまわりに焼骨および炭化物が密着するような状態で検出されている。

これらが同体のものか否かは不明である。また、玉が1点出土している。MP-49からは块状耳飾と石斧、つまみ付きナイフなどが出土している。MP-43によって切られており、MP-49は43よりも古い。

Tビット (図13-26)

Tビットには、溝状のもの、だ円形のもの、だ円状で底に小ビットのあるものなどが発見されている。西斜面から発見されたもの、台地上から発見されたものはいくつかの配列を示すものと考えられる。①、西側の台地縁辺部の北から南へ配列する一群、MP-20、3、17、5、4、1、②、台地縁辺部に沿って弧状に配列するもの、MP-9、10、11、13、14、16、③、台地上にあり南北に配列するもの、MP-46、26、17、18、29、24、④、台地上にあり、東の浅い沢に向かって配列していくもの、LP-5、6、10-13、16などがある。これらはほとんどが溝状のものである。また、LP-1-3は等高線に直行しながらさらに東へ配列していく可能性があり、美々6遺跡のTビットと関連づけられるかもしれない。前後するが、①、②の配列を示すTビット群は、美々4遺跡の台地上にある二つの配列を示すTビット群と関連づけられそうである。西斜面下位にあるMP-7、8は、いずれも底面に小ビットをもつもので、美々遺跡のBP-11、53と近似しており、これら4か所のTビットは関連性があるものと考えられる。

その他のビット (図27-31)

その他のビットは17か所発見されている。円形のもの、だ円形のものがあるが、その用途、機能、時期については不明である。

3. 包含層出土の遺物

本遺跡ではI黒層、II黒層あわせて23,602点の遺物が出土している。出土した遺物はすべて縄文時代に属するもので、早期から晩期の各時期にわたっている。

(1)土器 (図32-37)

I黒層から土器はI群、III群、IV群、V群のものが、459点出土した。V群c類が主体であるが、美々4遺跡と同様、本来II黒層中にあるI群、III群などの土器が混入している。

II黒層から、土器はI群～V群のものが、23,602点出土した。別に示した分類の内訳(表-1)のとおり、I群が最も多く、次いでII群、III群、

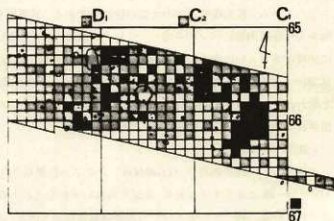


図8 出土土器分布図(早期)

IV群、V群の順となる。分布をみると(図a~e)、I群は台地上(C₁-65区、C₁-66区、C₂-65区)に多く、II群、III群、IV群は台地上(C₂-65区、C₂-66区)と美々4遺跡寄りの台地縁辺から斜面にかけて片寄っている。

I 黒層出土の土器 (図32)

V群c類(1~12): 斜行縄文が施され、口唇上に縄圧痕、縄文、あるいは棒状のものを押捺した刻みをもつものがある。12は浅鉢、他は深鉢の器形をとるものと思われる。1は口縁部にすり消し部があり、刺突文が施される。

II 黒層出土の土器 (図33~

37)

I 群 (1~24)

b-1類(2~4): 東銅路

III式に類似するものである。

2は口縁部で、角形の口唇断面を呈し、4の底部は張り出して、縄の圧痕をもつ。

b-4類(1・5~24): 5は微隆起線文の間に縄の圧痕が施されたもので、吉野V式に相当する。6・7は魚骨回

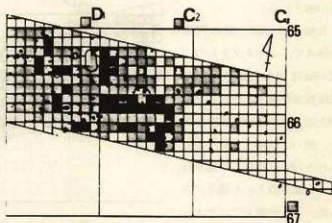
転圧痕文が施されたもの。9~13・15は刺突をもつもので、13は棒状工具によるもの、他は細端を折り曲げて突いたものである。17は折り曲げた縄の側面圧痕がつけられる。1・8~23は、より糸文が施されたもので、23は普通の縄文を併用して羽状の文様がつけられている。24は縄文が施されたもので、口縁部の縄の圧痕がみられる。20・21・23・24の文様構成はII群a-1

類の一部に通じるものである。

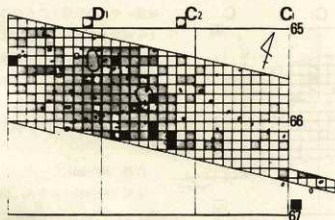
II 群 (25~65)

a-1類(25~28): 一般に網文土器とされるものである。25・27の口唇断面は角形を呈する。

a-2類(29~42): 口唇断面が角形のものといふものがある。角形になるものは口唇上を平らに調整している。29~40は斜行縄文が施さ



図b 出土土器分布図 (前期)

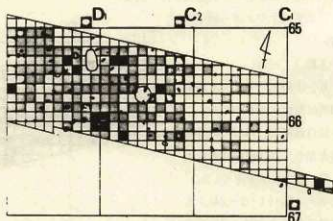


図c 出土土器分布図 (中期)

れたもので、そのうち36~39は口縁部内面にも縄文が施される。39は外側からの刺突が施されているが、瘤は内面に施文された縄文によって痕跡をとどめるにすぎない。40は口唇の角に刻み目をもつ。41は結節のある羽状縄文、42には沈線が施されている。

a類(43~61): 石川野出土資料に相当するもの。43~48・51~56は、それぞれ同一個体に属すると思われるものである。口縁は波状で小突起をもち、底部はやや丸みを帯びた平底である。半さい竹管状の工具によって沈線が引かれ、その間に刺突が施される。55・56・61はコンパス文がみられる。65は底面に文様が施される。

b類(62~65): 62は円筒下層式で、より糸文をもつ。62~64は四本丸組ひもの回転圧痕文が施されたもので、胎土に多量の植物性繊維を含む。63・64は縄文と組み合わせられる。64は組ひもが施されている部分の上にも縄文がみられ、上下を縄文ではさまれている。



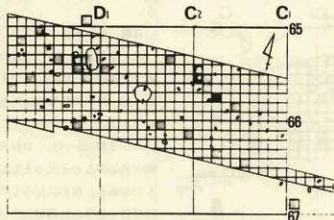
図d 出土土器分布図(後期)

III群(66~85)

b-1類(66~68): 天神山式に相当するもの。半さい竹管状の工具による文様が顕著である。67・68は同一個体に属するもので、大形の突起、隆帯がつけられている。

b-2類(69): 斜行縄文が施されたもので、口唇上に突起をもつ。

b-3類(70~85): 北筒式に類似するもの。図示したものでは79を除き、口縁部に突刺文が施される。70は半さい竹管状の工具による沈線と刺突がある。71~75は口唇上、あるいは口



図e 出土土器分布図(晩期)

縁部に半さい竹管上のものによる刺突がある。75は他に比して刺突が大きい。74は縄端による刺突。76・77・79・80は押し引き文が施され、82~85は縄文だけのものである。

IV群(86~93)

a類(86~88): 糸市式に相当するものである。口唇断面は角形で肥厚帯をもつ。88は二

本の隆帯が貼付されている。

b類 (89-90): 89は平行沈線をもつもの、90は縄文だけのもので、体部にくびれをもつ。

C類 (91-94): 91は平行沈線をもつもので小突起がある。93-94は内面からの突瘤がある。

(2)石器等 (図38-41)

I黒層からは、剥片石器・礫石器あわせて17点、ほかにフレイク・チップ・礫が76点出土している。剥片石器は8点出土し、石やじり、スクレイパーがある。礫石器は6点出土し、石斧・たたき石などがある。この他に、使用痕・加工痕のある剥片・礫が3点出土している。

II黒層からは、剥片石器・礫石器あわせて3,120点、ほかにフレイク・チップ・礫が約2000点出土している。剥片石器は約2,000点出土し、石やじり、スクレイパー、つまみ付きナイフが多く、石やりは少ない。礫石器は約950点出土し、すり石、石斧、石錘が多く、石のみ、たたき石、石鋸は少ない。剥片石器と礫石器の出土点数比は約2:1である。石材は、剥片石器では黒曜石、礫石器では緑色泥岩・片麻岩などが多い。この他に、石製品・土製品あわせて7点出土しているが、ほとんどが破損している。

I黒層出土の石器 (図38)

石やじり (1-4): 4点出土している。有茎のもの (2-4) と無茎のもの (1) がある。いずれも細かな二次加工が施されている。2は頁岩、その他は黒曜石である。

スクレイパー (5-6): 3点出土している。5はラウンド・スクレイパー、6は長円形のものであり、片面に細かな二次加工が施されている。5・6とも黒曜石。

石斧 (7): 3点出土している。細かな敲打によって整形されているもの (7) が1点、他は破損している。石斧の石材は、緑色泥岩である。

たたき石 (8): 3点出土している。棒状の一端もしくは両端にたたき痕がみられるもの (8) と扁平礫の周縁をたたいたものがある。8は両端を一部欠損し、緑色泥岩でつくられている。

II黒層出土の石器 (図38-41)

石やじり (9-28): 829点出土している。有茎のもの (23-28)、無茎のもの (9-18)、細身で薄いもの (19-22) がある。いずれも、細かな二次加工が両面に施されている。12・16は先端部が欠損している。石やじりは剥片石器の中ではもっとも多く出土し、約40%を占める。また、石やじりの半数は無茎である。11は頁岩、他は黒曜石である。

石やり (29-35): 64点出土している。剥片石器の中では、もっとも少ない。有茎のものでなく、ひし形をしている。石やりの石材は、黒曜石が多い。

穿孔具類 (36-47): 240点出土している。剥片に刺突部をつくっているもの (36-44)、棒状のもの (45-47) がある。43・44は、つまみがつくりだされている。38・40は両面加工である。45-47は、先端部が摩耗して丸くなっている。45は珪岩、他は黒曜石。

つまみ付きナイフ (48-62): 404点出土している。剥片石器の約20%を占める。つまみ付

きナイフには縦形のもの(48-61)と横形のもの(62)がある。縦形のは、さらに両面加工のもの(56)と片面加工のもの(48-55-57-61)にわかれる。つまみ付きナイフの中では、右側縁に急角度の刃部をもつもの(52・55・59・60)が103点と多い。つまみ付きナイフの石材は、黒曜石、頁岩、珪岩などがあり、他の剥片石器に比べて黒曜石の割合が少ない。

スクレイパー(63-74)： 499点出土している。石やじりに次いで出土が多く、剥片石器の中では約25%を占めている。不定形の剥片に刃部をつくったもの(65・68)が240点と、最も多い。この他に、ラウンド・スクレイパー(63)、棒状のもの(69・71)、エンド・スクレイパー(64・66・67)、長円形のもの(70・72-74)がある。71は片面周縁に細かな二次加工が施されている。スクレイパーの石材は、黒曜石が多く、他に頁岩がある。

石斧(75-78)： 199点出土している。礫石器の中では、約20%を占め最も多い。擦り切り手法によるもの(75)、全体に研磨されているもの(76・78)、細かな敲打によって整形されているもの(77)がある。この他、破損品が64点と多い。石斧の石材は、緑色泥岩、黒色泥岩などが多い。

石のみ(79・80)： 8点出土している。棒状のものを粗く加工したもの(79)と全体に研磨されているものがある。79は片岩、80は緑色泥岩。

たたき石(81・82)： 109点出土している。扁平礫の周縁にたたき痕がみられるもの(81・82)が50点と大半を占めている。81は周縁全体が使用されている。82は、一部欠損している。81・82は、かんらん岩である。

すり石(83-86)： 261点出土している。礫石器の中では最も多く、約30%を占める。すり石には、いわゆる北海道式石冠と称されるもの(83・84)、断面が隅丸三角形の礫の稜をすったもの(86)、扁平礫の側縁をすったもの(85)がある。83・84・85のようなタイプは、164点出土し、すり石の中では約63%を占める。83・85は安山岩、84は花崗岩、86は片麻岩。

石錘(87-101)： 51点出土している。打ち欠きが4か所あるもの(87)と、2か所あるもの(88-100)がある。2か所のものの中には、打ち欠きが長軸の両端にあるもの(89-100)と、短軸の両端にあるもの(88)がある。前者が42点で石錘の中では、最も多い。101は、形状が隅丸三角形で、他より大形である。石錘の石材は、片麻岩、砂岩、蛇紋岩がある。

石製品・土製品(102)： 石製品5点、土製品2点が出土しており、いずれも形態がわからない程、破損している。102は垂飾の破損品と思われる。全体に研磨され、石材は黒色泥岩。

4. まとめ

本遺跡は、昭和53、54年度にそれぞれ一部の発掘調査を実施している。両年度の調査では、遺跡の南斜面から70数か所の住居跡が発見され、ほとんどが前期のものであった。本年度調査地区は、この斜面に続く台地の部分で、中期の住居跡が2か所、早期の住居跡が1か所、時期不明の住居跡が1か所、計40か所発見された。過去の調査では、中期の住居跡は発見されておらず、今回の調査でのみ発見されている。美沢川流域の台地上から中期の住居跡が発見されて

いるのは、美沢2遺跡の円筒上層式のもののみである。

本遺跡のMBH-1(柏木川式)とはほぼ同じ時期にある住居跡は美沢1遺跡の低地部分から発見されており、平面形、規模など類似する点が多い。

MBH-2(北筒式)と同時期の住居跡は今までの調査では発見されていない。住居の構造で内部にベンチを持つものは美沢1遺跡の低地の部分でも発見されているが柏木式相当の土器が出土している。

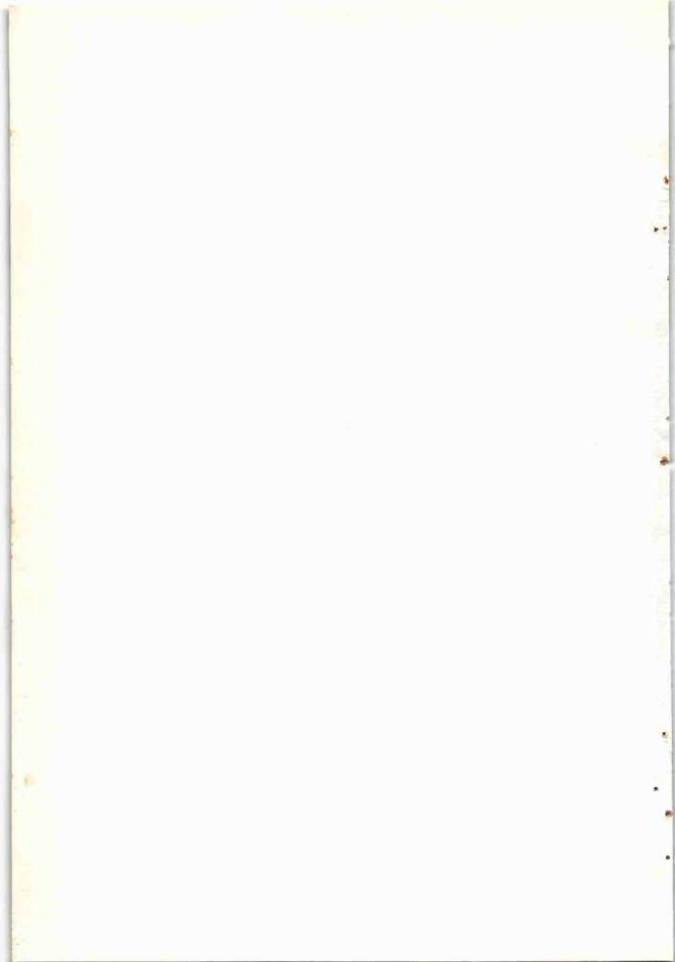
早期の住居跡(MH-2)は、規模も小さく住居跡が否か疑問がもたれる。ただし、床から小型の完形土器(I群b-4類)が1点出土していることから住居跡として取り扱った。美沢川流域の遺跡群では、標高20~24mの台地上で、早期(I群)の土器が多く出土する場合があるが、今のところ住居跡は確認されていなかった。

墓は、昭和53年の調査では小尾根のところから前期のものと後期のものが発見されている。前期の墓では幼児の足形付土版を出土しており、後期の墓は周堤墓1か所である。美沢1遺跡では、周堤墓は2か所か1つのまとまりをもって存在する傾向にあることから本遺跡で53年度に発見されている周堤墓と組み合わせられる周堤墓が検出される可能性があると考えたが、本年度の調査では発見されなかった。調査区の南西部でいくつかまとめて土墳墓が検出されており、形態、規模、埋土の状態などが美々4遺跡の土墳墓と類似している。埋葬状態は、美々4遺跡の例から屈葬と思われる。周堤墓の墓境と断定することは困難である。この土墳墓群のなかには焼けた人骨と炭化物を混合して埋葬したものが一例ある(MP-36)。なお、この墓境のなかには焼けていない人骨も埋葬されており、この両者が同一のものかどうかは不明である。

Tピットは、台地上に、ほぼ南北に配置されたもの、西斜面部の等高線と直交するように配置されたものがあり、このような埋葬様式をもつ墓は、美沢川流域の遺跡群のなかでは初めての例である。

遺物は、早期(I群)の土器が圧倒的に多い。このことは美沢川流域遺跡群の台地上での土器のあり方と共通している。I群の土器は主として調査地区の東側に集中している。また、前期(II群)、中期(III群)、後期(IV群)の土器が若干出土している。これらの土器は台地中央部から西斜面にかけて分布している。53年度調査地区と関連して考えてみると、本年度調査地は、住居の後背地として生活の場利用されていたと推定される。

資料編



MBH-1

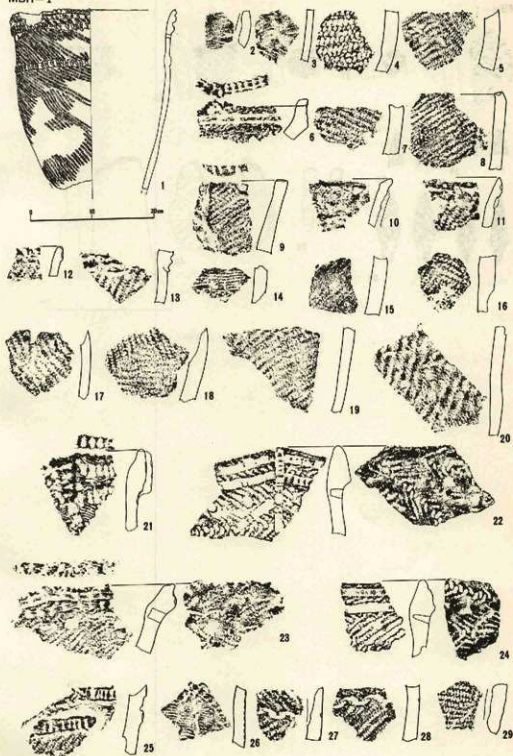


図2 MBH-1 出土遺物

MBH-1

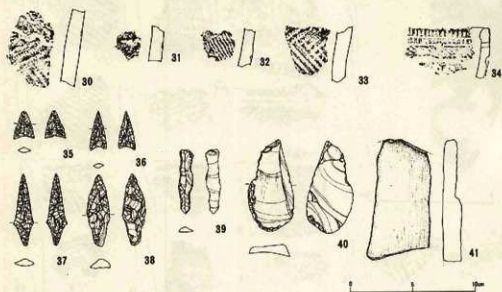


図3 MBH-1 出土遺物

MBH-2

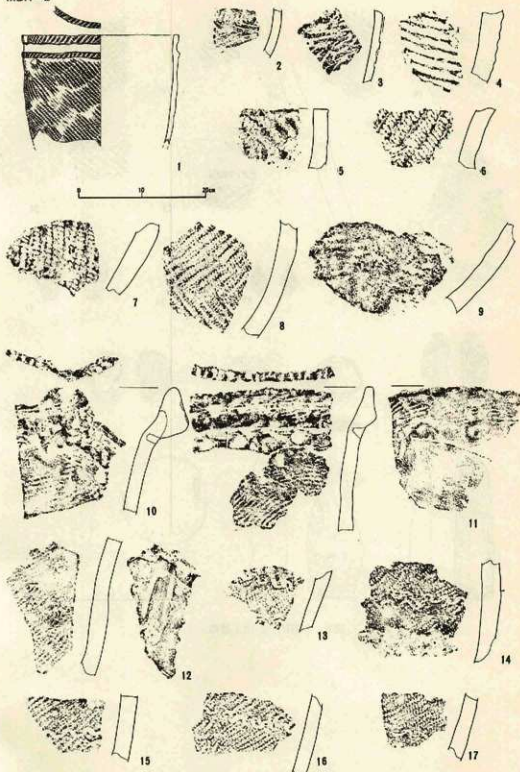


圖5 MBH-2 出土遺物

MBH-2

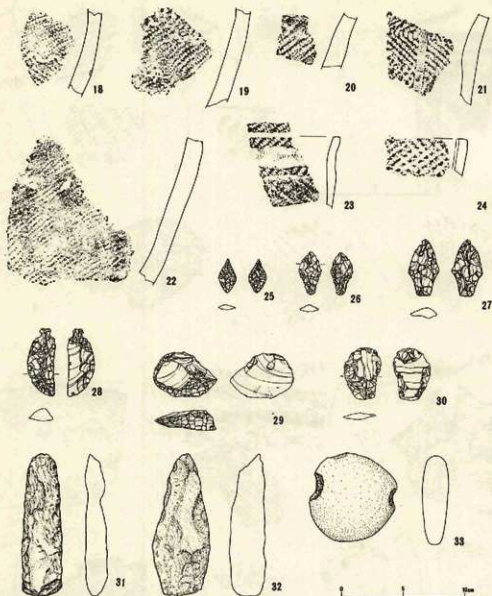
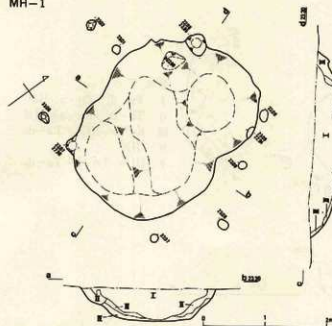


図6 MBH-2 出土遺物

MH-1



層位

- I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
 II Ta-d₂+En-a>II黒+Ta-d₁
 III II黒+Ta-d₂>Ta-d₁
 IV III黒+En-a
 V En-a>III黒

遺物 計28点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	2		2	石器	IA3a	1		1	石器	VI A 1	1		1
"	III b-2	5		5	"	IA3b	1		1	"	硯	5		5
"	IV c	1		1	"	IA4b	1		1	"	フレイク	11		11

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	I b-4	覆土	2	III b-3	覆土	3	III-	覆土			

石器

番号	番号	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
4	IA3a	(0.6)	覆土	Oba	5	IA3b	(0.7)	覆土	Oba	6	IA4b	(1.1)	覆土	Che
7	VI A 1	(540)	"	Sa										

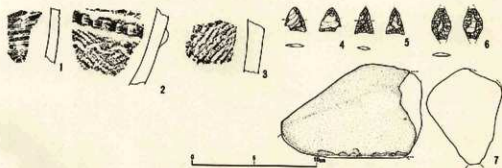


図7 MH-1

MH-2

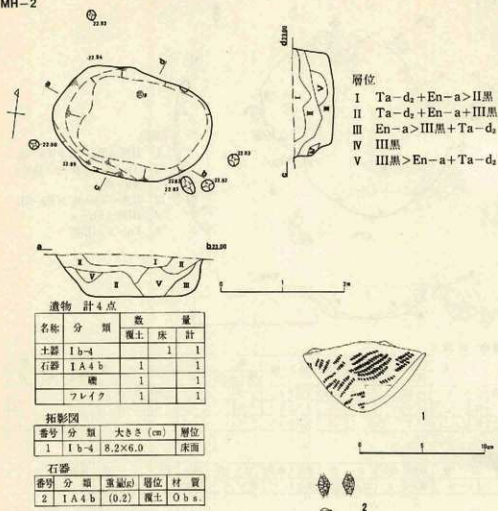
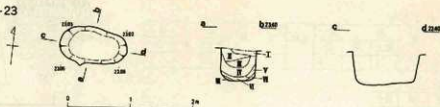


図8 MH-2

墓

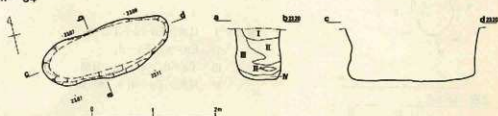
MP-23



- 層位 I En-a > Ta-d₂
 II En-a > Ta-d₁ + Ta-d₂
 III En-a + Ta-d₂ > Ta-d₁ + II黒
 IV En-a + Ta-d₂ + II黒 > Ta-d₁

- V En-a + II黒 > Ta-d₂
 VI Tn-d₂ > En-a
 VII En-a

MP-34



- 層位 I II黒 > Ta-d₁ + Ta-d₂ + En-a
 II En-a > Ta-d₁ + Ta-d₂

- III II黒 > Ta-d₂ + Ta-d₁ + En-a
 IV Ta-d₂ + En-a > II黒

遺物 計8点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	I b-4	3	計	土器	I A4 a	1	計	土器	I b-4	3	計
"	III b-	1	計	"	"	"	計	"	"	"	計

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	IA4 a	1.1	床	Ob s.					



MP-35



- 層位 I En-a + III黒 > Ta-d₂
 II III黒 > Ta-d₂
 III II黒 + En-a > Ta-d₂
 IV II黒 > En-a + Ta-d₁ + Ta-d₂
 V II黒 > Ta-d₁ + Ta-d₂
 VI II黒 + Ta-d₂ + En-a

図9 MP-23、34、35

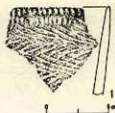
IV 美々5遺跡

遺物 計5点

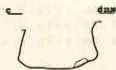
名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	5		5					

拓影図

番号	分類	層位
1	I b-4	覆土



MP-36



- 層位 I II黒>En-a+Ta-d₂
 II En-a>Ta-d₂
 III Ta-d₂>En-a+II黒
 IV II黒>Ta-d₁+Ta-d₂

遺物 計2点

名称	分類	数		
		覆土	床	計
土器	IV b		1	1
玉			1	1

拓影図

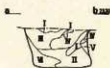
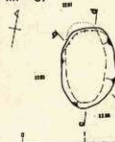
番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	IV b	覆土			

土製品・石製品等

番号	分類	大きさ(mm)	重量(g)	層位	材質
2	玉		0.4	床	Ta



MP-37



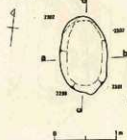
- 層位 I II黒
 II En-a>Ta-d₂
 III En-a>Ta-d₂
 IV En-a+Ta-d₂+II黒
 V En-a+III黒
 VI En-a+II黒>Ta-d₂

遺物 計2点

名称	分類	数			名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
石器	碑		1	1	フレイク		1		1					

図10 MP-36、37

MP-38

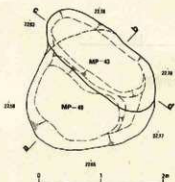


- 層位 I En-a > Ta-d₂
 II Ⅱ黒 > Ta-d₂ + Ta-d₁
 III Ⅱ黒 > Ta-d₂

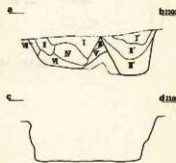


- IV En-a > Ta-d₂
 V Ⅱ黒 > En-a + Ta-d₂
 VI Ⅱ黒 + Ta-d₂ > En-a

MP-43 MP-49



- 層位 I Ⅱ黒 > Ta-d₁ + Ta-d₂ + En-a
 I' Ⅱ黒 + Ta-d₁ > Ta-d₂ + En-a
 II En-a > Ⅱ黒
 II' En-a > Ⅱ黒 + Ta-d₂
 III Ⅱ黒 + Ta-d₁ > Ta-d₂



- III Ⅱ黒 + En-a > Ta-d₂ + Ta-d₁
 IV Ta-d₂ + Ⅱ黒 > Ta-d₁ + En-a
 V En-a > III黒 + Ta-d₂
 VI Ⅱ黒 + Ta-d₂ + En-a
 VII Ta-d₂ > En-a

遺物 計8点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
石器	IB1b		1	1	石器	ⅢB7		1	1		フリック		1	1
"	ⅢA1c		1	1	"	ⅣA2		3	3	石製品			1	1

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	IB1b	(6.9)	床	Obs.	3	ⅢB7	1.2	床	Ch a.	5	ⅣA2	66	床	G r. Mud.
2	ⅢA1c	34.7	"	Ch a.	4	ⅣA2	45.1	"	G r. Mud.	6	ⅣA2	60.8	"	"

土製品・石製品等

番号	分類	大きさmm	重量(g)	層位	材質	番号	分類	大きさmm	重量(g)	層位	材質	番号	分類	大きさmm	重量(g)	層位	材質
7	焼状瓦		14.2	覆土	Agd.												

図11 MP-38、43、49

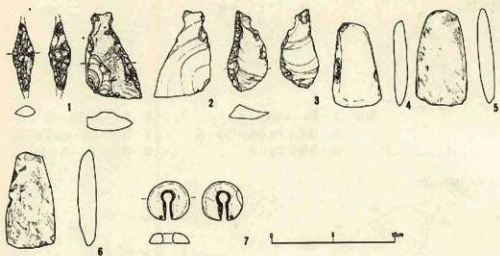
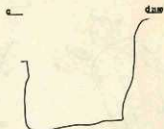
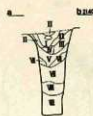
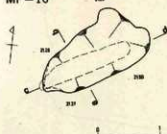


圖 12 MP-49 出土遺物

Tピット

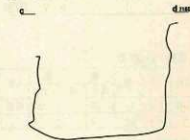
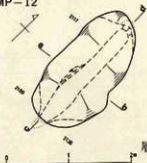
MP-16



- 層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
 II II黒>Ta-d₁+Ta-d₂+En-a
 III Ta-d₂+En-a>Ta-d₁+II黒
 IV Ta-d₂+II黒>Ta-d₁

- V Ta-d₂>Ta-d₁+II黒
 VI III黒
 VII En-a
 VIII II黒+En-a+Ta-d₂

MP-12



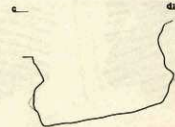
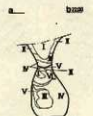
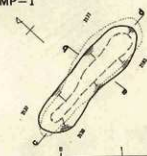
- 層位 I II黒>Ta-d₂+Ta-d₁
 II II黒+Ta-d₁>Ta-d₂
 III II黒+En-a+Ta-d₂
 IV Ta-d₂>Ta-d₁+II黒
 V III黒+En-a>Ta-d₂

- VI III黒
 VII En-a
 VIII Ta-d₂>III黒+En-a
 IX En-a+II黒>Ta-d₂

遺物 計2点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IIa-2	1		1	フレイク		1		1					

MP-1



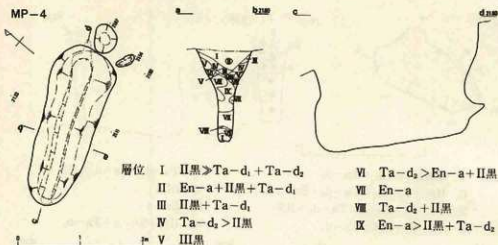
- 層位 I II黒>Ta-d₁
 II Ta-d₁+II黒
 III II黒+Ta-d₁>
 Ta-d₂+En-a

- IV En-a
 V II黒
 VI Ta-d₂>II黒+Ta-d₁

遺物 計6点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IIa-2	4		4	土器	IIb	2		2					

図13 MP-1, 12, 16



遺物 計39点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	II a-1	26	26	石器	IA 4 b	1	1				
#	II a-2	4	4								

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	II a-1	覆土	2	II a-1	覆土	3	II a-1	覆土	4	II a-1	覆土
5	II a-2	#	6	II a-2							

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
7	IA 4 b		覆土	3.2	O b s.									

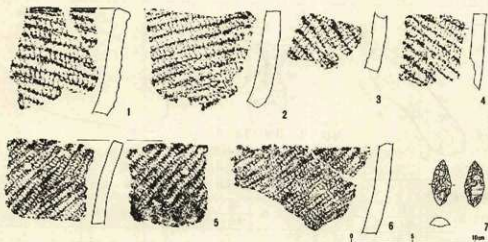
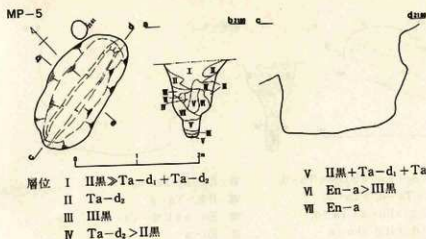


図14 MP-4

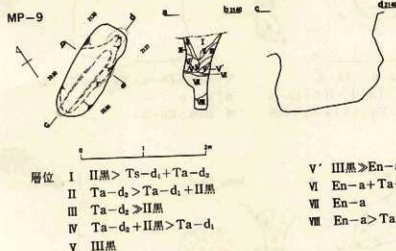


遺物 計7点

名称	分類	数量		名称	分類	数量	
		覆土	床			覆土	計
土器	II a-1	7				7	

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	II a-1	覆土			



遺物 計2点

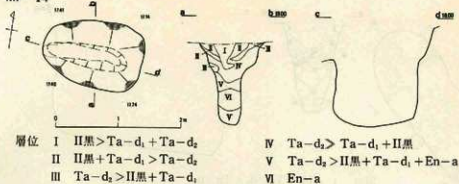
名称	分類	数量		名称	分類	数量	
		覆土	床			覆土	計
土器	III b-2	2				2	

拓影図

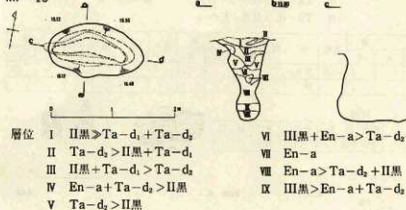
番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	III b-2	覆土			

図15 MP-5、9

MP-14



MP-15



MP-17

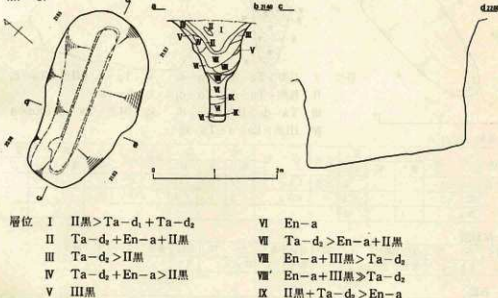
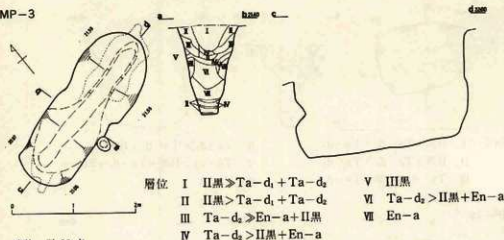


図17 MP-14、15、17

MP-3



遺物 計23点

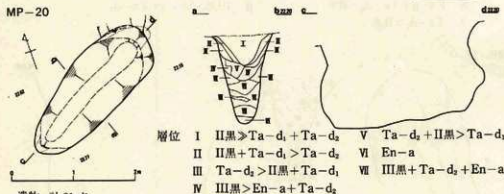
名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	覆土	分類	数	量
土器	Ib-4	6		石器	石A-	1	1		フレイク	12	12
石器	IA3a	1	1	礎		3	3				

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	産地(α)	層位	材質
1	Ib-4	覆土	2	IA3a	1.8	覆土	Oba



MP-20



遺物 計21点

遺物 計 21点											
名称 分 類		数		名称 分 類	数		名称 分 類		数		
		覆土	床 計		覆土	床 計			覆土	床 計	
土器	I b-4	2	2	石器	IA-	1	1	礎	4	4	
#	II a-2	5	5	#	VB 1	1	1	フレイク	7	7	
#	IV a	1	1								

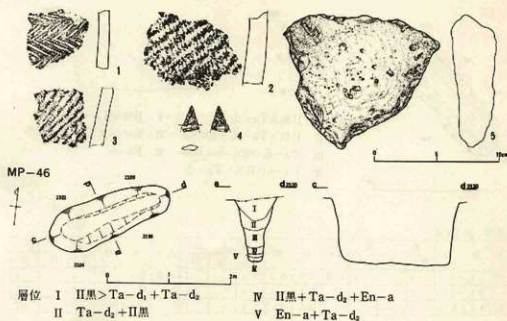
拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	Ib-4	覆土	2	IIa-2	覆土	3	IIa-2	覆土			

石器

番号	分類	産地(α)	層位	材質	番号	分類	産地(α)	層位	材質	番号	分類	産地(α)	層位	材質
4	IA-	(0.7)	覆土	Oba	5	VB1	3,200	覆土	And.					

図18 MP-3、20



遺物 計11点

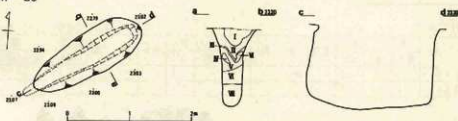
名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IIa-2	4		4	石器	X	1		1	フリイク		4		4
石器	IA3a	2		2										

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	IA3a	(1.0)	覆土	Obs	2	IA3a	(0.5)	覆土	Obs



MP-26

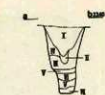
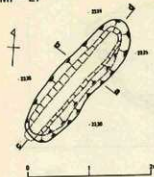


遺物 計3点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IIa-2	1		1	礎		1		1	フリイク		1		1

図19 MP-20、26、46

MP-27



- 層位 I II黒>Ta-d₂ V II黒>Ta-d₂
 II II黒>Ta-d₂+En-a VI En-a>Ta-d₂+II黒
 III Ta-d₂>En-a+II黒 VII En-a
 IV En-a>II黒+Ta-d₂

遺物 計25点

名称	分類	数			名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	4		4	石器	I A 3 b	1		1	石器	III A-	1		1
"	II a-2	2		2	"	II A 2	1		1	"	III A-	2		2
石器	I A 2 b	1		1	"	III A 1 b	1		1	フレイク		12		12

MP-18



- 層位 I II黒>Ta-d₂ V En-a
 II II黒+En-a>Ta-d₂ VI En-a>Ta-d₂+II黒
 III Ta-d₂>II黒+En-a VII II黒
 IV III黒+En-a

遺物 計5点

名称	分類	数			名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	II a-2	2		2	碑		1		1	フレイク		1		1
石器	I A 3 a	1		1										

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	II a-2	覆土			

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
2	I A 3 a	0.6	覆土	Obs.

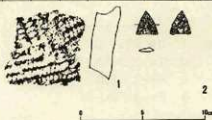
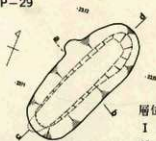


図20 MP-18、27

MP-29



層位

- I II黒>Ta-d₂ IV Ta-d₂+En-a>II黒 VII II黒>Ta-d₂+Ta-d₂
 II II黒>Ta-d₂ V En-a
 III Ta-d₂>En-a VI En-a>II黒+Ta-d₂
 +II黒

遺物 計40点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	22		22	礎		1		1	フレイク		15		15
石器	III A-	2		2										

MP-24



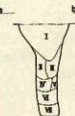
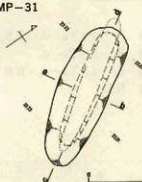
層位

- III En-a>II黒+Ta-d₂ VI En-a
 I Ta-d₂>II黒 IV En-a>II黒+Ta-d₂ VII II黒>Ta-d₂
 II II黒>Ta-d₂ V II黒>Ta-d₂

遺物 計1点

名称	分類	数量		
		覆土	床	計
土器	II a-2	1		1

MP-31



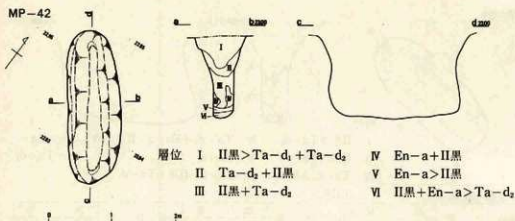
- 層位 I II黒+Ta-d₂+En-a V En-a>II黒
 II Ta-d₂>II黒 VI En-a
 III II黒>Ta-d₂ VII II黒
 IV II黒+En-a>Ta-d₂

遺物 計14点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IV c	1		1	礎		3		3	フレイク		9		9
石器	IV A 1	1		1										

図21 MP-24、29、31

IV 美々5遺跡

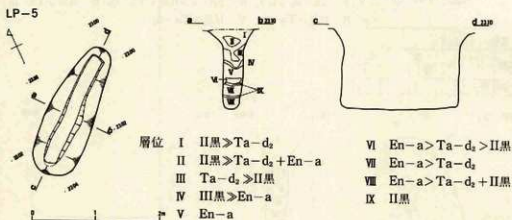


遺物 計9点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	3		3	礎		3		3	フレイク		3		3

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	I b-4	覆土	2	I b-4	覆土			



遺物 計3点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	2		2	フレイク		1		1					

図22 MP-42・LP-5

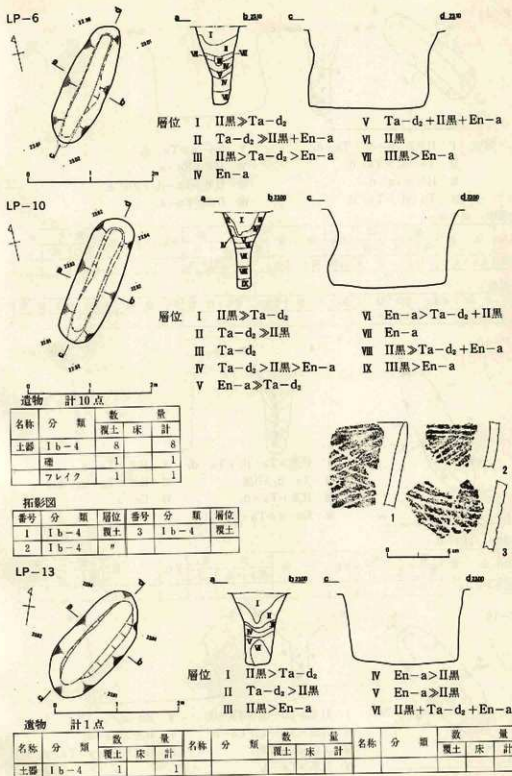
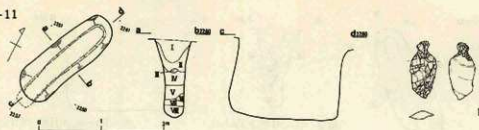


図23 LP-6、10、13

LP-11

層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂V En-a>Ta-d₂II Ta-d₂>Ta-d₁

VI II黒+En-a

III II黒>Ta-d₂VII II黒>Ta-d₂+En-aIV Ta-d₁>Ta-d₂

VIII II黒>En-a

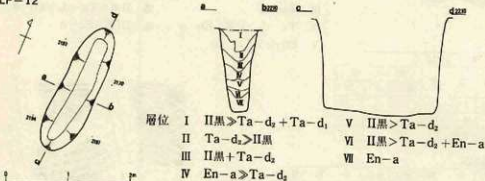
遺物 計5点

名称	分類	数			名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	4		4	石器	III A-1 b	1		1					

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	III A1b	2.9	覆土	Sh.										

LP-12

層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂V II黒>Ta-d₂II Ta-d₂>II黒VI II黒>Ta-d₂+En-aIII II黒+Ta-d₂

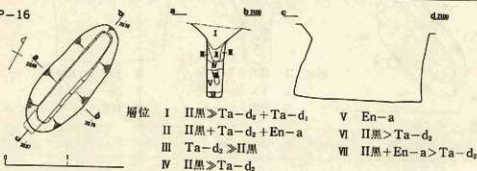
VII En-a

IV En-a>Ta-d₂

遺物 計17点

名称	分類	数			名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	17		17										

LP-16

層位 I II黒>Ta-d₂+Ta-d₁

V En-a

II II黒+Ta-d₂+En-aVI II黒>Ta-d₂III Ta-d₂>II黒VII II黒+En-a>Ta-d₂IV II黒>Ta-d₂

図24 LP-11、12、16

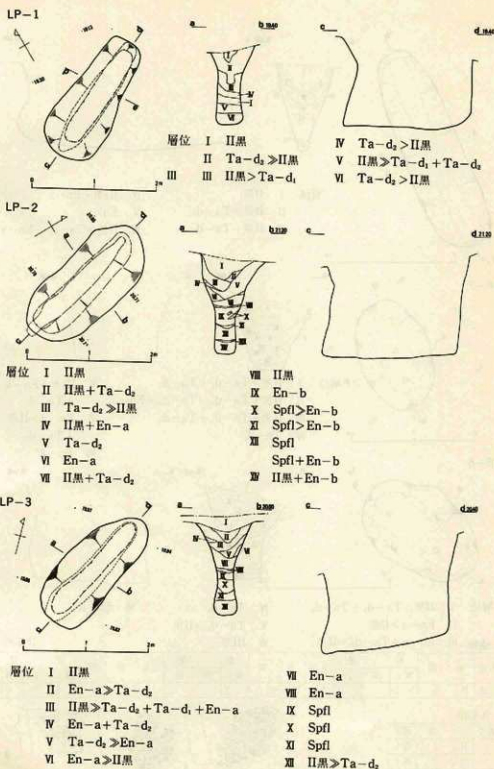
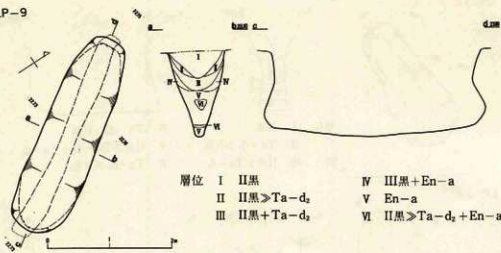
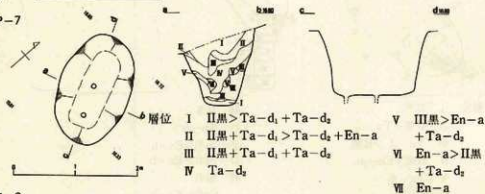


圖25 LP-1、2、3

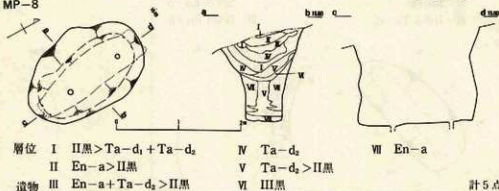
LP-9



MP-7



MP-8



名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	II a-2	2		土器	III b-2	2	2	礎		1	1

拓影図

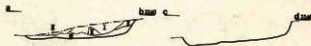
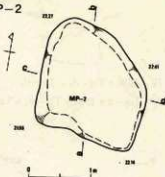
番号	分類	層位
1	II a-2	覆土
2	II a-2	覆土
3	III b-2	覆土



図26 LP-9・MP-7、8

その他のビット

MP-2

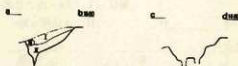
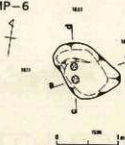


- 層位 I II黒+Ta-d₂>Ta-d₁+En-a
 II Ta-d₂>II黒+En-a
 III II黒>En-a

遺物 計2点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
		覆土	床	計		覆土	床	計		覆土	床
	フレイク	2		2							

MP-6



- 層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
 II Ta-d₂>II黒+Ta-d₁
 III Ta-d₂

遺物 計1点

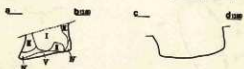
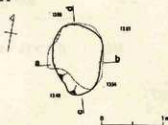
名称	分類	数	量
		覆土	床
	石器 II b	1	1

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	II a-2	覆土			



MP-11



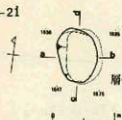
- 層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂ IV III黒
 II II黒+En-a>Ta-d₂ V En-a
 III Ta-d₂>II黒+En-a

遺物 計8点

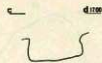
名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
		覆土	床	計		覆土	床	計		覆土	床
	石器 II a-2	7		7	石器 IV b	1		1			

図27 MP-2、6、11

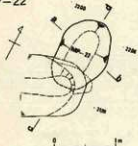
MP-21



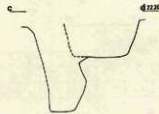
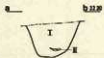
層位

I II 黒+Ta-d₁>Ta-d₂II Ta-d₂+Ta-d₁>II 黒III Ta-d₂+II 黒>Ta-d₁IV II 黒+Ta-d₁>Ta-d₂V En-a+II 黒>Ta-d₁+Ta-d₂

MP-22

層位 I Ta-d₂>II 黒+Ta-d₁

II 火山灰+砂



遺物 計5点

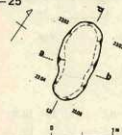
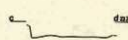
名称	分類	数		計	名称	分類	数		計	名称	分類	数		計
		覆土	床				覆土	床				覆土	床	
石器	瓦 A 1	2		2		フレイク	3		3					

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	瓦 A 1	1,290	覆土	A n d.	2	瓦 A 1	1,700	覆土	S a.					



MP-25

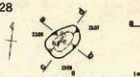
層位 I II 黒>Ta-d₂

遺物 計2点

名称	分類	数		計	名称	分類	数		計	名称	分類	数		計
		覆土	床				覆土	床				覆土	床	
土器	II a-2	1		1	土器	III b-3	1		1					

図 28 MP-21、22、25

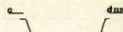
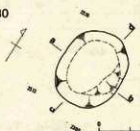
MP-28

層位 I Ta-d₁+II黒

遺物 計24点

名称	分類	数量		名称	分類	数量		名称	分類	数量	
		数	量			数	量			数	量
土器	I b-4	20	20	礎		3	3	フレイク		1	1

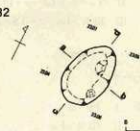
MP-30



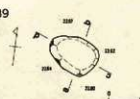
層位 I II黒>Ta-da

IV Ta-d₂>II黒+En-aII En-a>Ta-d₂+II黒V Ta-d₂+II黒III II黒+En-a+Ta-d₂

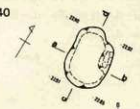
MP-32

層位 I II黒>Ta-d+Ta-d₂II Ta-d₂>II黒III *II黒>Ta-d₂

MP-39

層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂II Ta-d₂>II黒+En-aIII En-a+III黒>Ta-d₂

MP-40



層位 I En-a>III黒

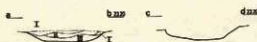
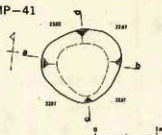
II Ta-d₂>En-a

遺物 計1点

名称	分類	数量		名称	分類	数量		名称	分類	数量	
		数	量			数	量			数	量
礎		1	1								

図29 MP-28、30、32、39、40

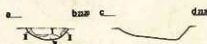
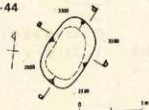
MP-41

層位 I II 黒+Ta-d₁>Ta-d₂II II 黒>Ta-d₁+Ta-d₂III Ta-d₂>II 黒+Ta-d₁

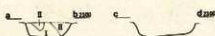
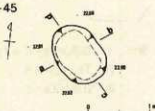
遺物 計5点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	III b-3	1	1	礎		1	1	フレイク		3	3

MD-44

層位 I II 黒+Ta-d₂>Ta-d₁II Ta-d₁>En-a+III 黒III III 黒>En-a+Ta-d₂

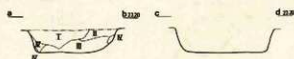
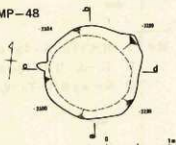
MP-45



層位 I En-a

II III 黒>En-a

MP-48

層位 I II 黒>Ta-d₁+Ta-b₂II II 黒+Ta-d₁>Ta-d₂+En-aIII Ta-d₂>II 黒+Ta-d₁+En-aIV Ta-d₂>En-a

LP-4

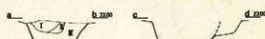
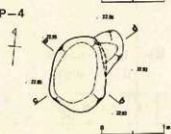
層位 I II 黒>Ta-d₂II Ta-d₂>II 黒III Ta-d₂>II 黒

図30 MP-41、44、45、48・LP-4

遺物 計20点

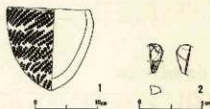
名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	II a-2	19		19	石器	IV B-1	1		1					

土器実測図

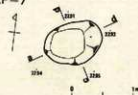
番号	分類	大きさ (cm)	層位
1	II a-2	12.5×12.8	覆土

石器

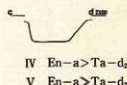
番号	分類	重量(g)	層位	材質
2	III B-1	1.6	覆土	O b a.



LP-7

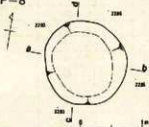


層位 I II黒>Ta-d₂
II II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
III Ta-d₂>En-a

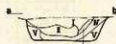


IV En-a>Ta-d₁
V En-a>Ta-d₂

LP-8



層位 I II黒>Ta-d₂
II II黒>Ta-d₂
III Ta-d₂>II黒

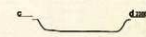
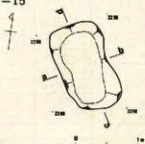


IV II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
V Ta-d₂>II黒

遺物 計1点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	III b-3	1		1										

LP-15



層位 I II黒>Ta-d₂
II Ta-d₂>En-a
III En-a>Ta-d₂

図31 LP-4、7、8、15

IV 美々5遺跡

包含層出土の遺物

(1) 土器

I 黒層出土の土器

番号	分類	発掘区	発掘区 (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)
1	VC	C ₁ -66-52	—	5	VC	C ₁ -66-44	—	9	VC	C ₁ -66-53	—
2	#	C ₁ -66-14	—	6	#	C ₁ -66-62	—	10	#	C ₁ -66-33	—
3	#	C ₁ -66-41	—	7	#	C ₁ -66-42	—	11	#	C ₁ -66-44	—
4	#	C ₁ -66-41	—	8	#	C ₁ -66-32	—	12	#	C ₁ -66-41	—

II 黒層出土の土器

番号	分類	発掘区	大きさ (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)
1	I b-4	C ₁ -65-73	16.2×11.5	33	II a-2	D ₁ -65-85	—	64	II b	C ₁ -66-60	—
2	I b-1	C ₁ -65-67	—	34	#	C ₁ -65-67	—	65	#	D ₁ -65-36	—
3	#	C ₁ -65-67	—	35	#	C ₁ -65-97	—	66	III b-1	D ₁ -65-94	—
4	#	C ₁ -65-67	—	36	#	D ₁ -65-85	—	67	#	C ₁ -65-93	—
5	I b-4	D ₁ -65-36	—	37	#	D ₁ -65-65	—	68	#	C ₁ -65-79	—
6	#	C ₁ -65-73	—	38	#	C ₁ -65-78	—	69	III b-2	C ₁ -65-79	—
7	#	C ₁ -65-37	—	39	#	C ₁ -66-71	—	70	III b-3	C ₁ -65-92	—
8	#	C ₁ -67-99	—	40	#	D ₁ -65-65	—	71	#	C ₁ -66—	—
9	#	C ₁ -65-96	—	41	#	D ₁ -66-20	—	72	#	D ₁ -66-00	—
10	#	C ₁ -65-83	—	42	#	D ₁ -65-64	—	73	#	C ₁ -66-21	—
11	#	C ₁ -65-99	—	43	II a	C ₁ -65-98	—	74	#	C ₁ -66-21	—
12	#	C ₁ -65-65	—	44	#	C ₁ -65-88	—	75	#	C ₁ -65-67	—
13	#	C ₁ -65-75	—	45	#	C ₁ -65-88	—	76	#	C ₁ -66-21	—
14	#	C ₁ -65-37	—	46	#	C ₁ -65-88	—	77	#	C ₁ -65-86	—
15	#	D ₁ -66-10	—	47	#	C ₁ -65-98	—	78	#	C ₁ -65-47	—
16	#	C ₁ -65-84	—	48	#	C ₁ -65-98	—	79	#	D ₁ -66-30	—
17	#	D ₁ -65-48	—	49	#	D ₁ -65-61	—	80	#	C ₁ -66-21	—
18	#	C ₁ -65-05	—	50	#	C ₁ -65-98	—	81	#	C ₁ -66-21	—
19	#	C ₁ -65-84	—	51	#	D ₁ -65-36	—	82	#	C ₁ -66-21	—
20	#	C ₁ -65-66	—	52	#	C ₁ -65-98	—	83	#	C ₁ -65-99	—
21	#	C ₁ -65-87	—	53	#	C ₁ -65-38	—	84	#	C ₁ -66-21	—
22	#	D ₁ -65-48	—	54	#	D ₁ -65-48	—	85	#	C ₁ -65-83	—
23	#	C ₁ -66-40	—	55	#	C ₁ -65-98	—	86	IV a	C ₁ -66-90	—
24	#	C ₁ -65-66	—	56	#	C ₁ -65-98	—	87	#	C ₁ -66-90	—
25	II a-1	D ₁ -65-63	—	57	#	D ₁ -65-09	—	88	#	C ₁ -66-90	—
26	#	D ₁ -65-64	—	58	#	C ₁ -65-97	—	89	IV b	D ₁ -65-91	—
27	#	C ₁ -65-77	—	59	#	C ₁ -65-97	—	90	#	D ₁ -65-91	—
28	#	C ₁ -65-78	—	60	#	C ₁ -65-87	—	91	IV c	D ₁ -65-75	—
29	II a-2	C ₁ -65-98	—	61	#	C ₁ -65-88	—	92	#	D ₁ -65-33	—
30	#	C ₁ -65-87	—	62	II b	C ₁ -65-58	—	93	#	D ₁ -65-05	—
31	#	C ₁ -65-78	—	63	#	D ₁ -65-86	—	94	#	C ₁ -66-70	—
32	#	C ₁ -65-77	—				—				—

(2) 石器等

I・II黒層出土の石器等

番号	分類	発掘区	重量(g)	材質	番号	分類	発掘区	重量(g)	材質	番号	分類	発掘区	重量(g)	材質
1	IA3b	C ₁ -66-52	12.0	Obs.	35	IB1a	D ₁ -65-93	13.3	Obs.	69	IB4	D ₁ -65-03		Obs.
2	IA4b	C ₁ -66-40	3.0	Sh.	36	IIA1	D ₁ -65-51	4.0	"	70	IB2b	C ₂ -65-42		Sh.
3	IA4a	C ₁ -66-43	0.5	Obs.	37	IB2	C ₂ -65-77	2.8	"	71	IB4	D ₁ -65-15		Obs.
4	"	C ₁ -66-42	0.7	"	38	"	C ₂ -65-96	4.0	"	72	IB2a	表採		"
5	IB3	C ₁ -66-31		"	39	IIA2	C ₂ -65-89	4.3	"	73	"	C ₂ -66-71		"
6	IB2a	"		"	40	IB2	C ₂ -65-48	9.3	"	74	"	D ₁ -65-37		"
7	IIA5	"	(150.0)	Gr-Mud.	41	IIA2	D ₁ -65-49	3.1	"	75	IIA1	C ₂ -66-80	48.0	Gr-Mud.
8	IIA1	"	315.0	Gr-Mud.	42	IIA1	D ₁ -65-62	6.1	"	76	IIA2	D ₁ -65-74	90.0	Gr-Mud.
9	IA3a	D ₁ -65-81	0.8	Obs.	43	IB2	C ₂ -65-36	8.5	"	77	IIA5	D ₁ -65-23	132.0	Gr-Mud.
10	IA3b	C ₂ -65-39	0.4	"	44	"	C ₂ -65-39	3.5	"	78	IIA2	D ₁ -65-74	270.0	"
11	"	C ₂ -65-73	0.6	Sh.	45	IB1	C ₂ -65-58	2.0	Ches.	79	IB-	C ₂ -65-47	40.0	Sh.
12	"	D ₁ -65-04	(2.0)	Obs.	46	"	"	"	Obs.	80	"	C ₂ -65-75	13.2	Gr-Mud.
13	"	C ₂ -65-87	0.6	"	47	"	C ₂ -65-73	"	Ches.	81	IIA2	D ₁ -65-13	300.0	Per.
14	"	D ₁ -65-06	0.9	"	48	IIA1c	C ₁ -65-95	3.3	Obs.	82	"	C ₂ -66-2	(180.0)	"
15	"	C ₂ -65-83	1.0	"	49	IIA1a	C ₂ -65-96	4.0	Agas.	83	IIA1	C ₂ -65-26	(128.0)	And.
16	"	D ₁ -65-53	1.5	"	50	IIA1b	C ₂ -65-49	6.5	Obs.	84	"	D ₁ -65-15	(875.0)	Gran.
17	"	D ₁ -65-92	1.6	"	51	"	D ₁ -65-37	16.0	Ches.	85	IIA4	C ₂ -65-83	(800.0)	And.
18	"	D ₁ -65-83	1.5	"	52	IIA1a	C ₁ -65-67	14.5	"	86	IIA3	D ₁ -65-96	(360.0)	Gni.
19	IA2b	D ₁ -65-48	0.3	"	53	IIA1b	D ₁ -65-39	21.3	Sh.	87	IIA1	C ₂ -65-05	220.0	"
20	"	C ₂ -65-82	"	"	54	"	D ₁ -65-04	14.5	"	88	IIA3	D ₁ -65-06	20.0	Sa.
21	"	C ₂ -65-73	0.5	"	55	IIA1a	C ₂ -65-98	16.0	Ches.	89	IIA2	C ₂ -66-90	178.0	Gni.
22	"	C ₂ -65-87	2.0	"	56	IIA1d	D ₁ -65-74	18.0	Obs.	90	"	C ₂ -65-86	150.0	"
23	IA4b	C ₂ -65-83	1.2	"	57	IIA1b	C ₁ -65-97	5.5	"	91	"	C ₂ -65-76	151.0	"
24	IA4a	D ₁ -65-64	0.9	"	58	"	D ₁ -65-05	8.0	Sh.	92	"	C ₂ -65-76	140.0	Sa.
25	IA4b	C ₂ -65-58	0.8	"	59	IIA1a	C ₁ -65-68	12.0	Obs.	93	"	C ₂ -66-90	210.0	Gni.
26	IA4a	D ₁ -65-72	(1.2)	"	60	"	C ₂ -65-97	25.6	"	94	"	C ₂ -65-87	140.0	"
27	"	D ₁ -65-66	1.1	"	61	IIA1b	C ₂ -65-49	6.7	"	95	"	C ₂ -65-86	163.0	Sa.
28	"	D ₁ -65-72	1.2	"	62	IIA2	C ₂ -65-76	6.5	"	96	"	C ₂ -65-46	(130.0)	"
29	IB2b	D ₁ -65-23	16.7	"	63	IB3	D ₁ -65-06		"	97	"	C ₂ -65-46	190.0	Sa.
30	"	D ₁ -65-33	4.1	"	64	IB5	C ₂ -65-97		"	98	"	C ₂ -65-93	185.0	Gni.
31	IB1b	C ₂ -65-39	8.0	"	65	IB7	C ₂ -66-70		"	99	"	D ₁ -65-83	210.0	"
32	IB1a	C ₂ -65-75	3.9	"	66	IB5	C ₂ -65-55		"	100	"	C ₂ -65-48	580.0	Sa.
33	"	D ₁ -65-15	4.5	"	67	"	表採		"	101	IIA-	C ₂ -66-71	700.0	Ser.
34	"	C ₂ -65-47	8.6	"	68	IB7	C ₂ -65-97		"	102	IIA-	C ₂ -65-85	(3.9)	Gr-Mud.

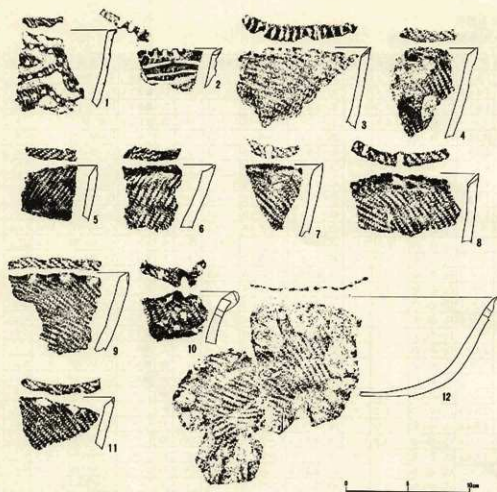


図 32 I 黒層出土の土器

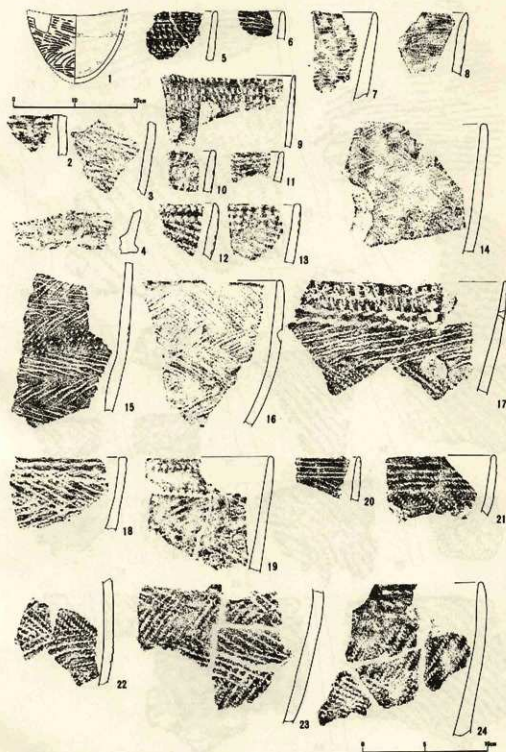


図 33 II黒層出土の土器(1)

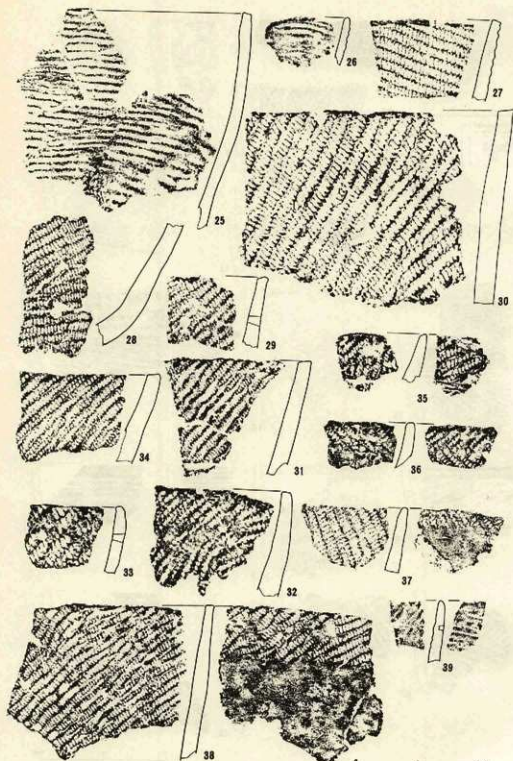


図 34 II 黒層出土の土器(2)

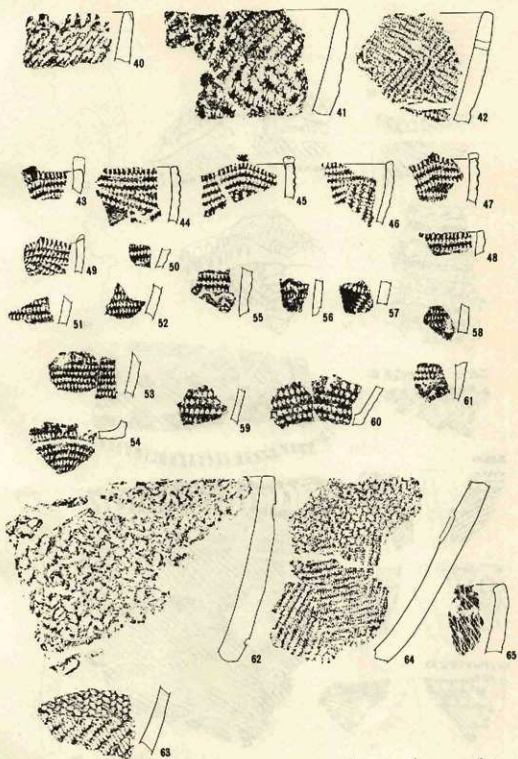


図 35 II 黒層出土の土器(3)

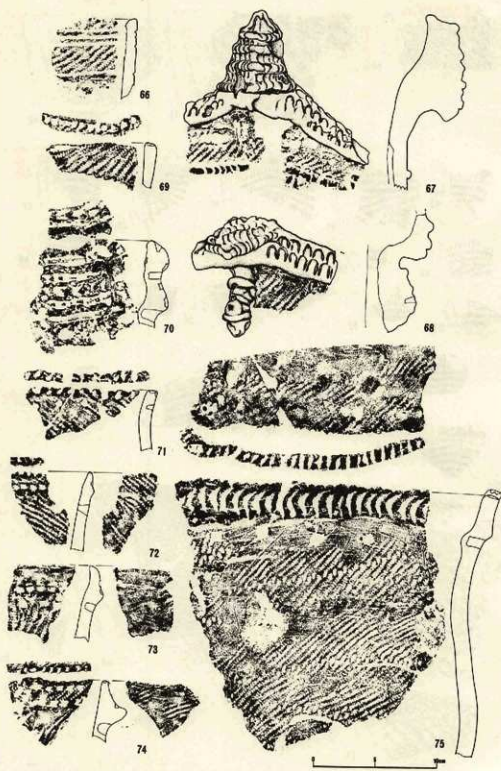


図 36 II黒層出土の土器(4)

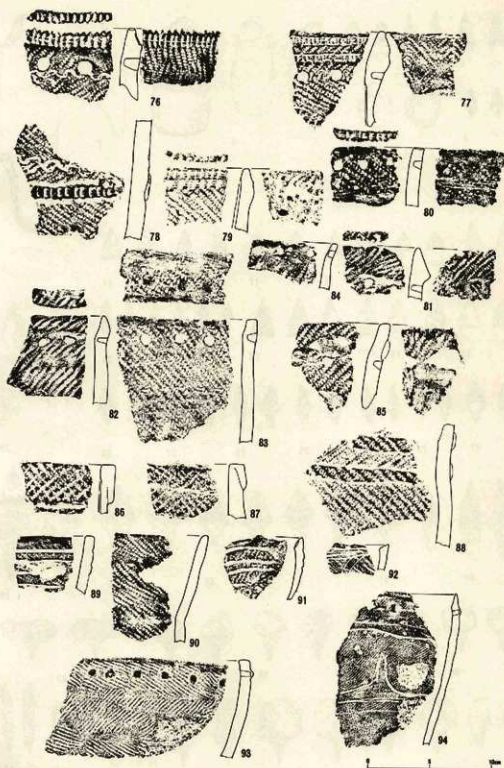


図 37 11 黒層出土の土器(5)

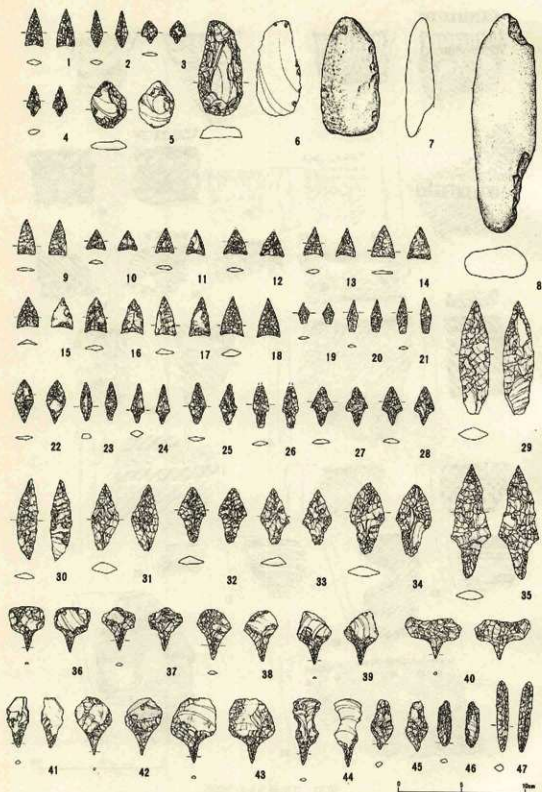


図38 I 黒・II 黒層出土の石器等(1)

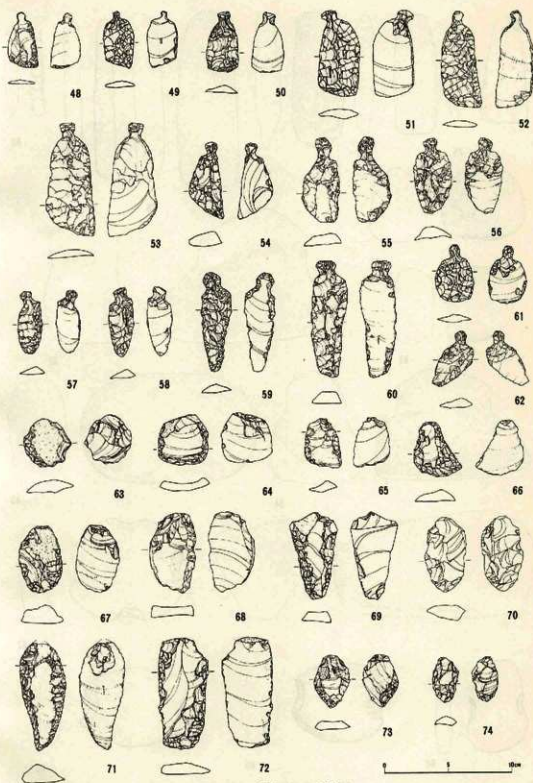


図 39 II 黒層出土の石器等(2)

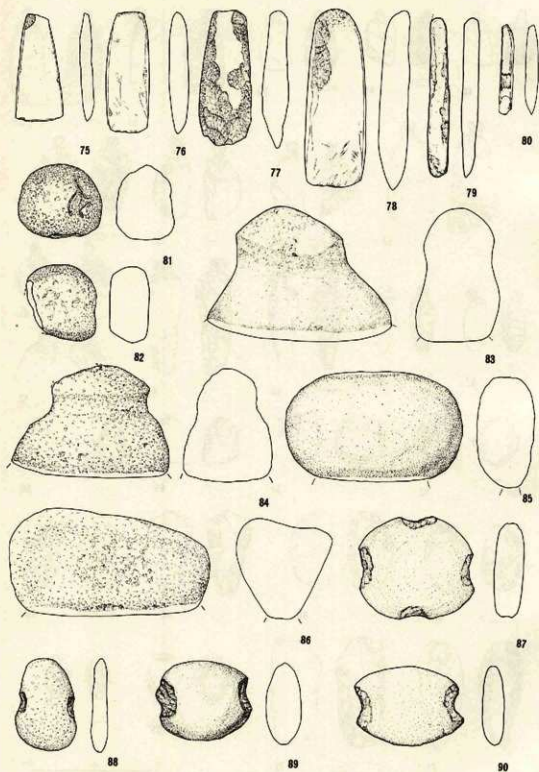


図40 II黒層出土の石器等(3)

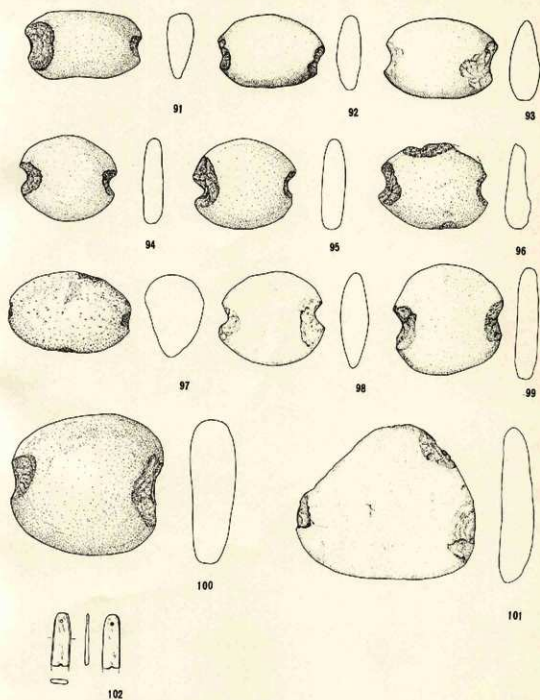
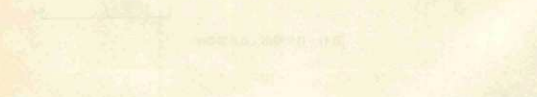
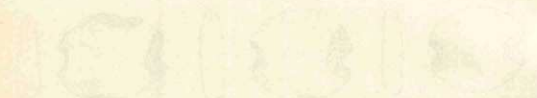
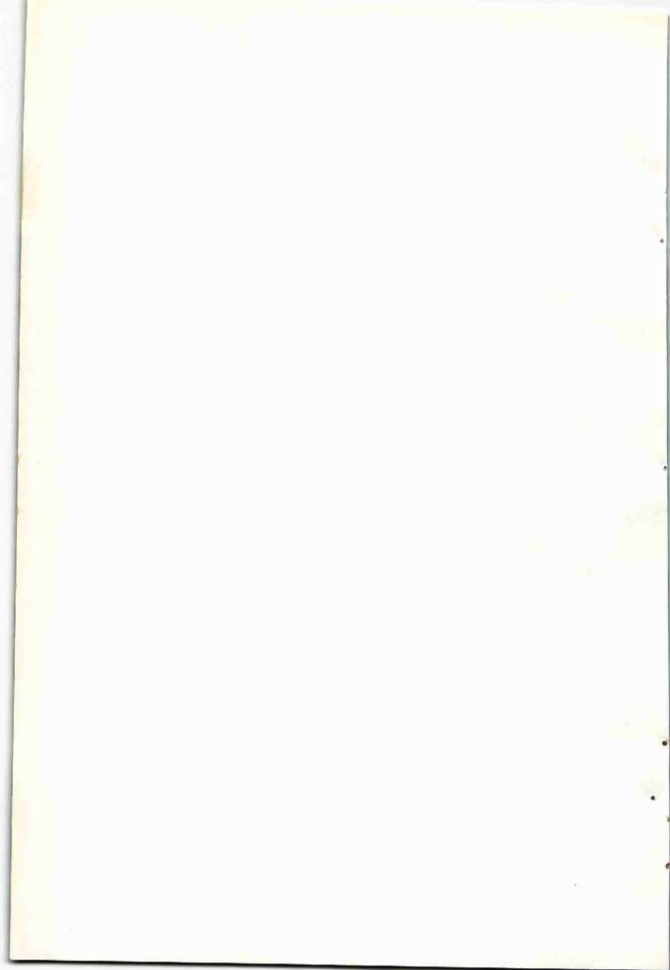


図 41 II 黒層出土の石器等(4)



V 美々6遺跡



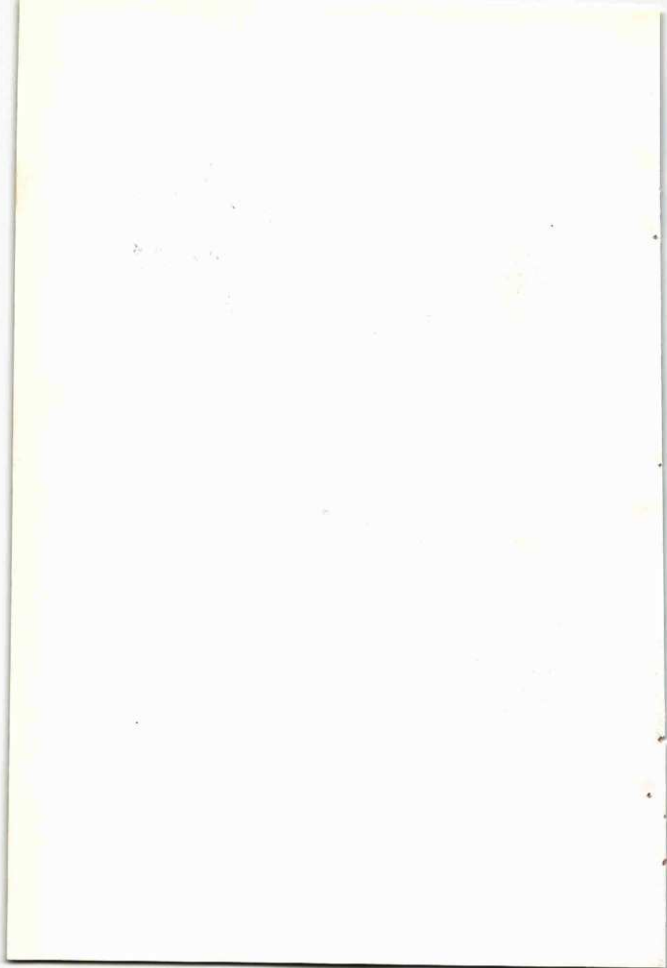


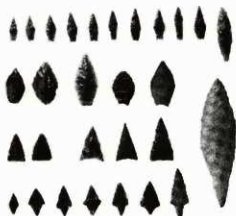


包含層出土土器



包含層出土土器





やじり・石やり



ドリル 刺突器



つまみ付きナイフ・スクレイパー



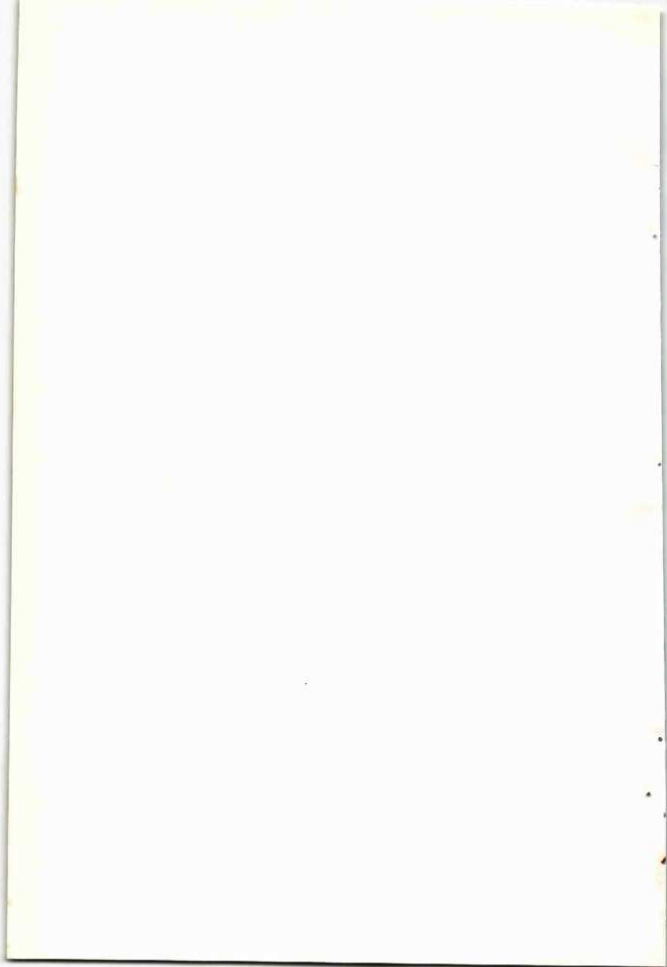
石斧・石製品



すり石・たたき石



砥石



V 美々6遺跡

1. 遺跡の概要

遺跡は、美沢川左岸の標高約22m前後の台地上とそれに続く南斜面に広がっており、西には浅い沢をへだてて、美々5遺跡、東には美々7遺跡がある。昭和53年度には、遺跡の北側5,000m²を調査し、Tピット13か所を検出した。そのうち11か所が調査区の北東にある浅い沢の最深部に集中していた。

本年度調査地区は、遺跡の南側で調査面積3,450m²である。土層は図版2に示した柱状図と基本的には同じである。遺構、遺物はII黒層中から検出されている。II黒層は調査区全体にわたってほぼ同じ厚さで堆積している。

遺構は、Tピット7か所、その他のピット1か所が発見された。(図1)

Tピットは台地上(P-1, 3, 5, 6)と台地縁辺部(P-4, 7, 8)にあり、標高約21~23mの間に、等高線に直交するように並んでいる。いずれも平面形は溝状を呈し、断面はロート状になっている。時期は不明である。本年度検出された7か所のTピットが、53年度調査によって検出されたTピット群と直接関連があるか否かについては、明らかでない。むしろ美々5遺跡の台地縁辺部を等高線に直交しながら並ぶものと、台地上から浅い沢に向かって並ぶものに関連する可能性もある。

その他のピット(P-2)1か所は台地の中央部(B₁-66-60)にある。だ円形を呈しており、底からつまみ付きナイフが2点出土しているが、用途が不明なので、ここではその他のピットに分類した。

遺物は、土器、石器、石製品などが出土している。その内訳は、土器片7,364点、石器5,143点、石製品2点となっている。土器片はI群が約96%を占めており、なかでもb-4類が多い。他には、II群、IV群、V群が出土しているが極めて少ない。これらの土器片の分布は、標高24~25m間の等高線に沿って集中する傾向がある。

石器は、そのほとんどが剥片石器で、やじり、つまみ付きナイフ、スクレイパーが多く、ドリルは比較的少ない。

発掘区の東側において旧石器時代文化層の確認調査を行ったが、遺構、遺物は検出されなかった。

表1 美々6遺跡出土遺物一覧

名 称	分 類	数 量		名 称	分 類	数 量	
		I群出土点数	計			I群出土点数	計
土 器	I b-2	1	1	土 器	V a	29	29
	I b-4	7,092	7,092		V b	7	7
	II a-1	3	3		V c	196	196
	II a-2	3	3	石 や じ り	不明	4	4
	II b	1	1		I A 2 a	8	8
IV b	IV b	5	5		I A 2 b	129	129
	IV c	19	19		I A 2 c	3	3

名 称	分 類	数 量			名 称	分 類	数 量		
		I 美々6出土数	II 美々6出土数	計			I 美々6出土数	II 美々6出土数	計
石 や じ り	IA 2-		13	13	ス ク レ イ バ ー	III B 7		54	54
	IA 3 a		10	10		III B-		20	20
	IA 3 b		8	8		IV A-		4	4
	IA 4 a		24	24		IV A 3		4	4
	IA 4 b		1	1		IV A-		2	2
	IA 6		9	9		VA-1		16	16
石 や り	IA-		67	67	た た き 石	VA-1		2	2
	IB 1 a		1	1		VA-2		7	7
	IB 1 b		1	1		VI A-3		1	1
	IB 2 a		1	1		VA-		3	3
	IB 2 b		1	1		VB-		1	1
	IB-		5	5		VA 2		4	4
剣 突 器	II A 1		5	5	す り 石	VA 3		19	19
	II A 2		17	17		VI A 4		13	13
	II A-		1	1		VI A 5		1	1
ド リ ル	II B-		1	1		VI A-		6	6
	II B 2		1	1		VI B		29	29
つまみ付きナイフ	III A 1 a		108	108	石 彫	VII A		1	1
	III A 1 b		24	24		VII B 2		26	26
	III A 1 c		3	3	石 鏝	VII B-		14	14
	III A 1 d		4	4		VII A 1		2	2
	III A 1-		2	2		VII A 2		13	13
	III A 2		4	4		VII A-		3	3
ス ク レ イ バ ー	III A 3		13	13	石 槌	IX		3	3
	III A-		21	21		X		116	116
	III B 1 a		15	15	異 形 石 器	X		31	31
	III B 1 b		3	3		X		1	1
	III B 3		20	20	石 製 品			482	482
	III B 4		6	6		フ レ イ ク		3,687	3,687
	III B 5		36	36				2	2
	III B 6		2	2					

2. 包含層出土の遺物

包含層から出土した遺物には土器、石器、石製品がある。土器はほとんどがI群b-4類に属するものがある。石器もそれらに伴うとみなされる。

土器 (図6、7)

土器にはI群b-4類、II群a-1類、VI群b、c類、V群b、c類に属するものがある。

I群b-4 (1~30): 1は全面に羽状のより糸文を施すもので、2は横位に2本並列する右下りと左下りのより糸文を横に交互に施し、ひし形の文様を構成するものである。3はいわゆる吉野V式である。口縁部の微隆起線の間に短縄文が施されている。4~7は綾格文の施されているもので、4、5のものは特色がある。8はニシンの腹椎骨を回転施文した魚骨回転文の施されたものである。この種の施文は道央部から道南にかけて分布し、I群b-2類からb-4類のはじめの頃まで続くよう、他にも若干似たものが認められている。口縁部の文様とし

て、短縄文あるいは縄端の圧痕(9、10、12~14)、縄線文(14~16、18)より糸文の原体の圧痕(17)等が認められる。底面にも施文する特色がある(26)。なお30には太い斜行縄文が施されているけれども便宜的にここへ含めておく。

II群a-1類(31~33): 31、32は同一個体とみられ、同一原体を縦横に施文することにより羽状を構成するものである。33は網文土器である。

IV群b類(34): 磨消縄文の認められるものである。

IV群c類(35): やや細かい縄文の他に沈線を施している。

V群b類(36): 口唇上に鋸歯状に刻文を施している。

V群c類(37): ほぼII黒層上面に一括してつぶれた状態で検出された。口縁部に横走沈線を施し、蛇行する沈線を重ね、文様帯下縁に刺突を加えている。口唇断面は切り出し形を呈し、上面に縄文を施し表面側角に指頭による押捺が加えられている。

(2)石器等(図8~11)

石器は、剥片石器・礫石器あわせて963点、他にフレイク・チップおよび礫が、4,169点、土製品が2点出土している。剥片石器と礫石器の出土点数比は、約4:1である。剥片石器は、石やじり、つまみ付きナイフ・スクレイパーが多く、石やり・ドリルが少ない。礫石器は、すり石・砥石が多い。また、つまみ付きナイフの石材は、他の剥片石器と比べて黒曜石が少ない。

石やじり(1~44): 272点出土している。剥片石器の中で、約42%を占め最も多い。有茎のもの(33~42)、無茎のもの(23~32)、細身で薄いもの(1~22)、木葉形のもの(43~44)がある。この中で、細身で薄いものが多く、石やじりの約56%を占める。石やじりは、全体的に細かな二次加工が施されているものが多い。1・2・19・25・28・30・38~40は、先端もしくは基部が欠損しているものである。石やじりの石材は、黒曜石が多い。

石やり(45~46): 9点出土している。剥片石器の中でも最も少ない。有茎のもの(45~46)と無茎のものが2点ずつ出土している。45は柳葉形で両面に細かな二次加工が施されている。46はひし形で基部がわずかに欠損している。45・46とも黒曜石。

穿孔具類(47~55): 25点出土している。剥片に刺突部をもつもの(47~53)と、棒状のもの(54)、つまみのあるもの(55)がある。51は刺突部の周縁だけに二次加工がみられる。52・54は、先端部が欠損している。穿孔具の石材は黒曜石、頁岩がある。

つまみ付きナイフ(56~93): 179点出土している。剥片石器の中では石やじりに次いで多く、約28%を占める。縦形のもの(56~89)、横形のもの(90~91)がある。縦形のものの中では、二次加工が片面全体に施され、側縁に急角度の刃をもつもの(56~80)が多い。90~91は、つまみにえりぐりが深く入る。つまみ付きナイフの石材は、頁岩が多い。

スクレイパー(94~114): 156点出土している。剥片石器の中では、約24%を占める。不定形のものに刃をつけたもの(111~114)が54点と最も多く、他には、石べらと称されるもの(94~99)、ラウンド・スクレイパー(100~104)、棒状のもの(105)、エンド・スクレイパー(106~108)、えぐりをもつもの(109~110)がある。111~113は、剥片の一部に二次加工

が施されており、他とくらべると大形である。スクレイパーの石材は、黒曜石・頁岩・珪岩などがある。

石斧(115~117)： 26点出土している。擦り切り手法によってつくられたもの(115~117)、全体もしくは刃部が研磨されたものなどがある。116は刃部が欠損している。石斧の石材はかんらん岩、緑色泥岩が多い。

たたき石(118・119)： 13点出土している。棒状の一端に敲打痕がみられるもの(118) 扁平礫の周辺にみられるもの(119)などがある。118は砂岩、119は片麻岩である。

すり石(120~124)： 43点出土している。礫石器の中でもっとも多く、約25%を占める。扁平礫を半円状に粗く打ち欠き周縁の一部をすったもの(120・121)、断面が隅丸三角形の礫をすったもの(122~124)などがある。すり石の石材は、安山岩、砂岩などがある。

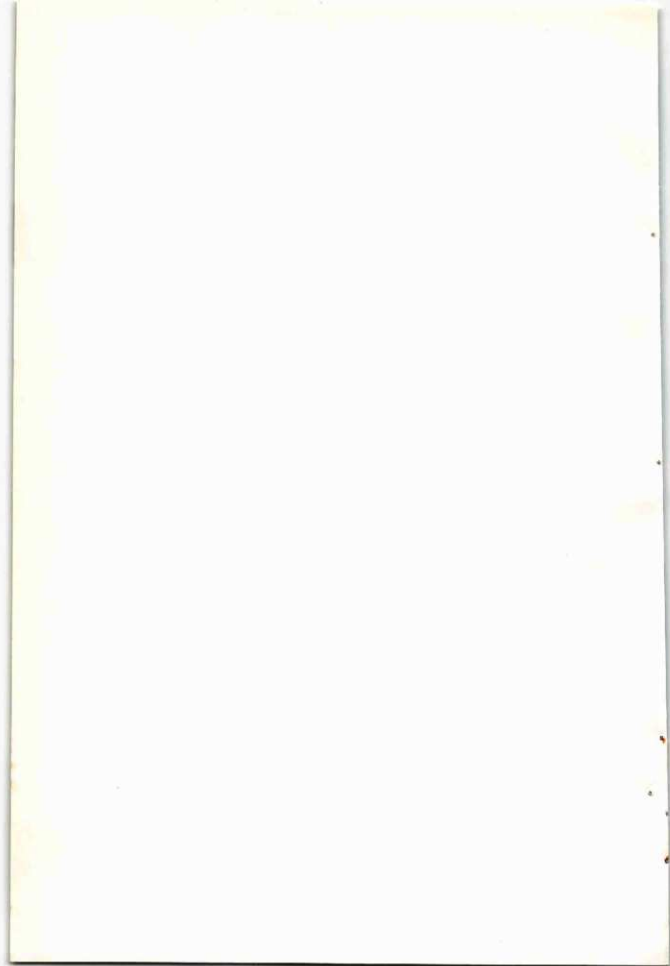
砥石(125・126)： 40点出土している。礫石器の中ではすり石に次いで多い。研磨面だけのもの(125・126)が多く、26点出土している。125・126は砂岩である。

石錘(127・128)： 18点出土している。打ち欠きが2か所のもの(127・128)が13点と多い。127は一部欠損している。127は砂岩、128は片麻岩。

使用痕のある礫・剥片(129~131)： 使用痕のある礫と剥片をあわせて147点出土している。扁平礫を擦り切ったもの(129・130)、二次加工が片面の周縁に施されているもの(131)がある。

石製品(132・133)： 2点出土している。132は、緑色泥岩で、刃部が石のみに類似している。133は、軽石を扁平に加工し、中央に孔をあけたものである。用途は不明。

資料編



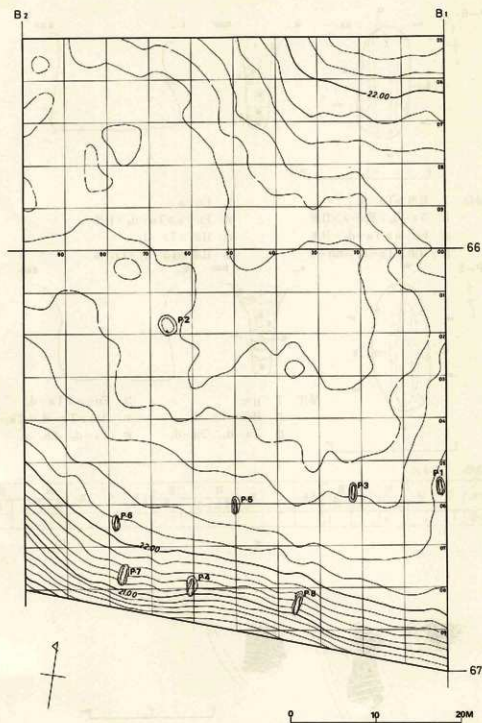
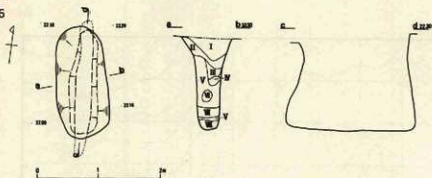


図1 美々6遺跡遺構分布

V 美々6 遺跡

Tビット

P-6



層位 I II黒>Ta-d₂

II Ta-d₂>En-a>II黒

III En-a>Ta-d₂>II黒

IV II黒>Ta-d₂>En-a

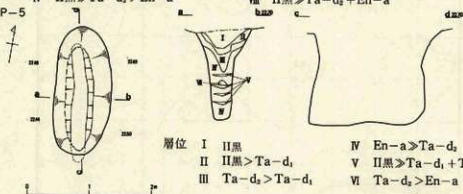
V En-a

VI En-a>Ta-d₂+II黒

VII II黒>Ta-d₂

VIII II黒>Ta-d₂+En-a

P-5



層位 I II黒

II II黒>Ta-d₁

III Ta-d₂>Ta-d₁

IV En-a>Ta-d₂

V II黒>Ta-d₁+Ta-d₂

VI Ta-d₂>En-a

遺物 計4点

名称	分類	数			名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	4		4										

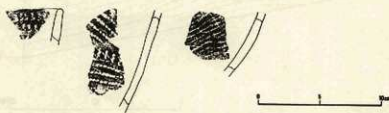
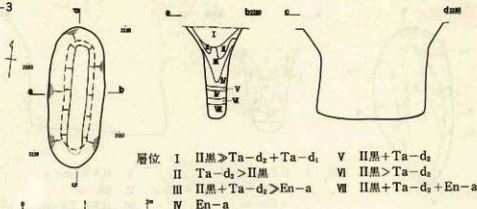


図2 P-5、6

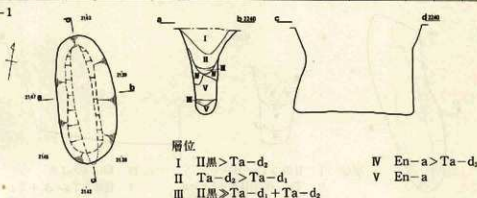
P-3



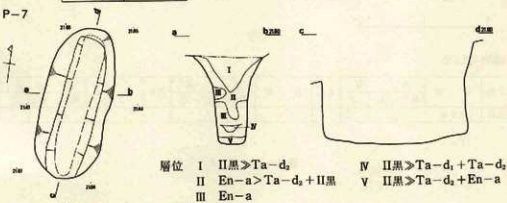
遺物 計1点

名称				分 類				数 量				名称				分 類				数 量																							
								覆土				床				計												覆土				床				計							
礎								1								1																											

P-1



P-7



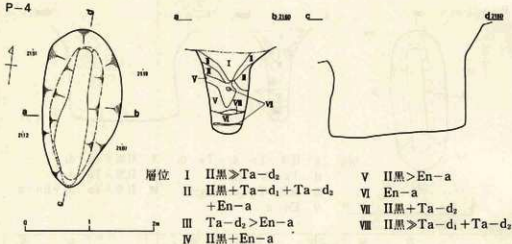
遺物 計1点

名称	分 類	数 量			名称	分 類	数 量			名称	分 類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
石器	1 A 3 a	1		1										

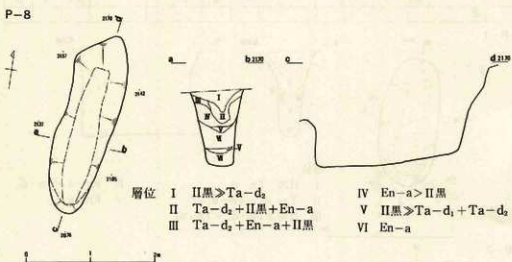
図3 P-1、3、7

V 美々6遺跡

P-4



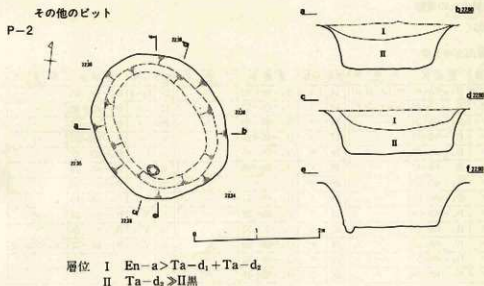
P-8



遺物 計1点

名称	分類	数			名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
石器	1 A 2 b	1		1										

図4 P-4・8



遺物 計6点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
石器	IA 2 b	4		4	石器	III A 1 a		2	2					

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	IA 2 b	0.35	床	Obs.	3	IA 2 b	0.3	覆土	Obs.	5	III A 1 a (15)		床	Obs.
2	IA 2 b	(0.35)	覆土	Obs.	4	IA 2 b	0.3	"	"	6	III A 1 a	13	"	"



図5 P-2

包含層出土の遺物

(1)土器

II黒層出土の土器

番号	分類	発掘区	大きさ (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)
1	I b-4	B ₁ -66-07	29.4×(31.0)	14	I b-4	B ₁ -66-52	—	26	I b-4	B ₁ -66-93	—
2	"	B ₁ -65-45	31.6×(28.0)	15	"	B ₁ -66-52	—	27	"	B ₁ -66-52	—
3	"	B ₁ -66-04	—	16	"	B ₁ -65-09	—	29	"	B ₁ -66-93	—
4	"	B ₁ -66-46	—	17	"	B ₁ -65-26	—	30	"	B ₁ -66-93	—
5	"	B ₁ -65-56	—	18	"	B ₁ -66-93	—	31	II a-1	B ₁ -65-49	—
6	"	B ₁ -66-47	—	19	"	B ₁ -66-08	—	32	"	B ₁ -65-49	—
7	"	B ₁ -65-35	—	20	"	B ₁ - —	—	33	"	B ₁ -66-30	—
8	"	B ₁ -66-51	—	21	"	B ₁ -66-51	—	34	IV b	B ₁ -66-40	—
9	"	B ₁ -65-08	—	22	"	B ₁ -66-52	—	35	IV c	B ₁ -66-14	—
10	"	B ₁ -66-46	—	23	"	B ₁ -66-52	—	36	V b	B ₁ -65-28	—
11	"	B ₁ -66-21	—	24	"	B ₁ -66-52	—	37	V c	B ₁ -66-73	26.0×38.0
12	"	B ₁ -66-51	—	25	"	B ₁ -66-52	—				
13	"	B ₁ -66-36	—	26	"	B ₁ -65-35	—				

(2)石器等

II黒層出土の石器等

番号	分類	発掘区	重量(g)	材質	番号	分類	発掘区	重量(g)	材質	番号	分類	発掘区	重量(g)	材質
1	IA 2 a	B ₁ -66-07	(0.3)	O b s.	29	IA 3 b	B ₁ -66-00	1.1	O b s.	57	III A 1 a	B ₁ -65-38	3.3	A g s.
2	"	B ₁ -66-21	(1.3)	"	30	"	B ₁ -66-56	0.9	C h e.	58	"	B ₁ -66-42	(4.0)	C h e.
3	"	B ₁ -66-86	2.0	"	31	"	B ₁ -66-40	(1.2)	O d s.	59	"	B ₁ -66-00	4.0	"
4	"	B ₁ -65-47	1.5	"	32	"	B ₁ -66-32	1.6	"	60	"	B ₁ -65-57	5.4	"
5	IA 2 b	B ₁ -66-32	0.2	"	33	IA 4 a	B ₁ -66-95	(0.5)	"	61	"	B ₁ -66-83	5.8	S h.
6	"	B ₁ -66-23	"	"	34	"	B ₁ -65-39	0.5	"	62	"	B ₁ -65-19	7.5	"
7	"	B ₁ -65-69	0.3	"	35	"	B ₁ -65-08	"	"	63	"	B ₁ -66-06	8.0	"
8	"	B ₁ -66-74	"	"	36	"	B ₁ -66-95	0.7	"	64	"	B ₁ -66-66	10.0	"
9	"	B ₁ -65-49	"	"	37	"	B ₁ -66-74	0.6	"	65	"	B ₁ -65-05	8.8	"
10	"	B ₁ -66-51	0.2	"	38	"	B ₁ -66-36	1.0	"	66	"	B ₁ -65-46	8.0	"
11	"	B ₁ -66-20	0.3	"	39	"	B ₁ -66-42	(0.8)	"	67	"	B ₁ -66-52	10.2	"
12	"	B ₁ -66-26	0.2	"	40	"	B ₁ -66-82	(0.9)	"	68	"	B ₁ -65-75	7.3	"
13	"	B ₁ -66-42	2.4	"	41	"	B ₁ -66-15	1.9	S h.	69	"	B ₁ -66-42	11.0	"
14	"	B ₁ -65-29	0.3	"	42	IA 4 b	B ₁ -66-66	0.2	O b s.	70	"	B ₁ -65-05	12.5	"
15	"	B ₁ -66-61	0.2	"	43	IA 6	B ₁ -66-44	0.3	"	71	"	B ₁ -66-02	9.0	"
16	"	B ₁ -65-29	0.3	"	44	"	B ₁ -65-66	"	"	72	"	B ₁ -66-50	15.1	"
17	"	B ₁ -65-19	0.2	"	45	IB 1 b	B ₁ -66-19	30.0	C h e.	73	"	B ₁ -65-08	12.0	"
18	"	B ₁ -66-20	(0.6)	"	46	"	B ₁ -66-13	3.0	O b s.	74	"	B ₁ -65-39	15.3	"
19	"	B ₁ -66-07	"	"	47	II A 1	B ₁ -65-17	5.9	"	75	"	B ₁ -65-65	17.4	"
20	"	B ₁ -65-58	3.0	"	48	II A 2	B ₁ -66-21	2.0	"	76	"	B ₁ -66-20	18.0	"
21	IA 2 c	B ₁ -66-83	(1.5)	"	49	"	B ₁ -66-33	4.1	"	77	"	B ₁ -66-93	13.9	C h e.
22	"	B ₁ -66-25	3.2	S h.	50	"	B ₁ -66-20	5.0	"	78	"	B ₁ -66-24	16.5	S h.
23	IA 3 a	B ₁ -66-66	(0.6)	O b s.	51	"	B ₁ -66-56	(5.2)	S h.	79	"	B ₁ -66-25	19.5	C h e.
24	"	B ₁ -66-03	0.6	"	52	"	B ₁ -66-13	(7.5)	O b s.	80	"	B ₁ - —	15.1	S h.
25	"	B ₁ -66-93	(1.0)	"	53	"	B ₁ -66-40	6.0	"	81	III A 1 b	B ₁ -66-36	11.8	C h e.
26	IA 3 b	B ₁ -66-67	0.6	"	54	II B 1	B ₁ -65-26	19.0	S h.	82	"	B ₁ -65-65	(12.0)	S h.
27	"	B ₁ -66-30	(1.2)	"	55	II B 2	B ₁ -65-47	4.0	O b s.	83	"	B ₁ -65-36	3.9	"
28	"	B ₁ -65-15	(1.1)	"	56	III A 1 a	B ₁ -65-17	3.3	A g s.	84	"	B ₁ -65-16	3.1	"

番号分類	発掘区	重量(g)	材質	番号分類	発掘区	重量(g)	材質	番号分類	発掘区	重量(g)	材質
85 ⅢA-	B ₁ -66-32	0.7	S h.	102 ⅢB 3	B ₁ -66-19		O b s.	118 V A 1	B ₁ -65-27	130.0	S a.
86 ⅢA 1 c	B ₁ -66-55	11.3	"	103 "	B ₁ -66-61		"	119 V A 2	B ₁ -66-46	745.0	G n i.
87 "	B ₁ -66-42	(3.0)	"	104 "	B ₁ -66-71		"	120 V A 2	B ₁ -66-58	560.0	A n d.
88 ⅢA 1 d	B ₁ -66-34	0.8	C h e.	105 ⅢB 4	B ₁ -66-50		"	121 "	B ₁ -65-18	840.0	"
89 "	B ₁ -65-26	2.0	O b s.	106 ⅢB 5	B ₁ -66-61		"	122 V A 3	B ₁ -65-45	200.0	"
90 ⅢA 3	B ₁ -66-73	2.8	"	107 "	B ₁ -66-53		"	123 "	B ₁ -66-50	700.0	S a.
91 "	B ₁ -66-14	1.5	"	108 "	B ₁ -66-15		"	124 V A 3	B ₁ -65-29	980.0	A n d.
92 ⅢA 1	B ₁ -66-02	14.0	S h.	109 ⅢB 6	B ₁ -66-24		S h.	125 ⅢB 2	B ₁ -66-01		S a.
93 ⅢA-	B ₁ -66-75	26.0	O b s.	110 "	B ₁ -66-74		O b s.	126 "	B ₁ -66-94		"
94 ⅢB 1 a	B ₁ -66-63		S h.	111 ⅢB 7	B ₁ -66-50		"	127 ⅢA 2	B ₁ -66-05	270.0	"
95 "	B ₁ -65-19		A g a.	112 "	B ₁ -65-48		S h.	128 "	B ₁ -66-04	265.0	G n i.
96 "	B ₁ -66-62		S h.	113 "	B ₁ -66-47		"	129 X	B ₁ -66-72	45.0	G r. M a.
97 "	B ₁ -66-58		C h e.	114 "	B ₁ -66-52		"	130 "	"	120.0	S r.
98 "	B ₁ -65-16		S h.	115 W A 1	B ₁ -66-13	28.0	S e r.	131 "	B ₁ -66-61	8.7	O b s.
99 "	B ₁ -65-37		"	116 "	B ₁ -66-40	123.5	"	132 石製品	B ₁ -65-45	(1.7)	G r. M a.
100 ⅢB 3	B ₁ -66-50		O b s.	117 W A-	B ₁ -66-44	725.0	G r. M a.	133 "	B ₁ -66-34	39.0	P u m.
101 "	B ₁ -66-51		"								

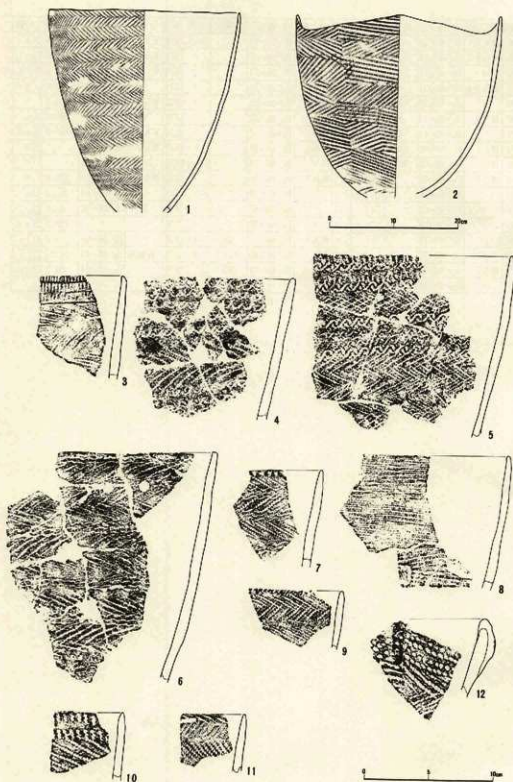


図6 II黒層出土の土器(1)

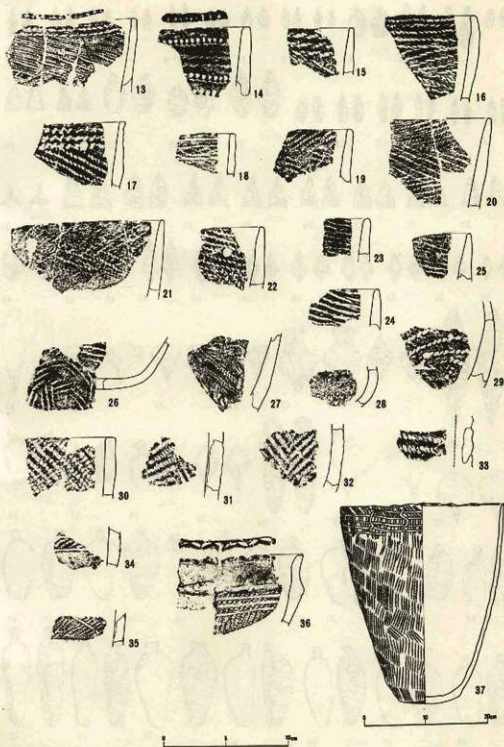


図7 II黒層出土の土器(2)

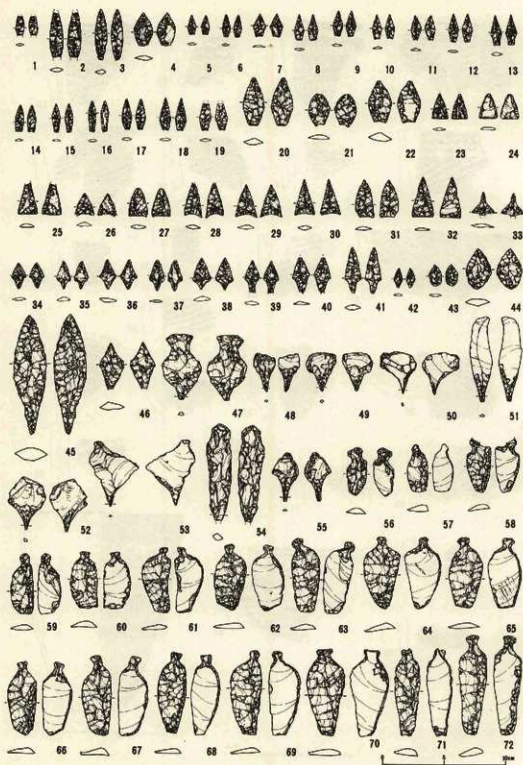


図8 II黒層出土の石器等(1)

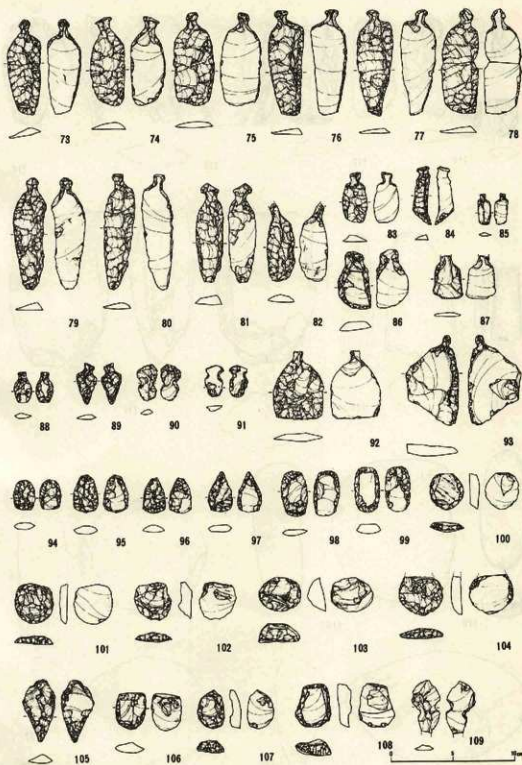


図9 II黒層出土の石器等(2)

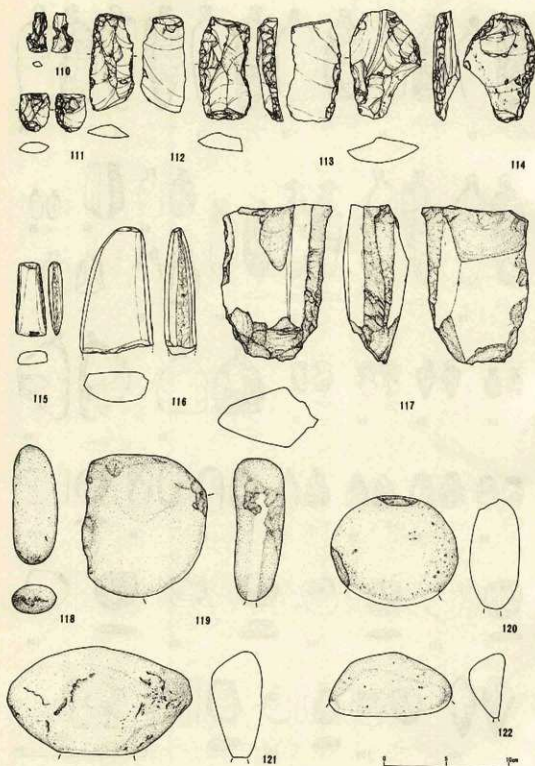


図10 II黒層出土の石器等(3)

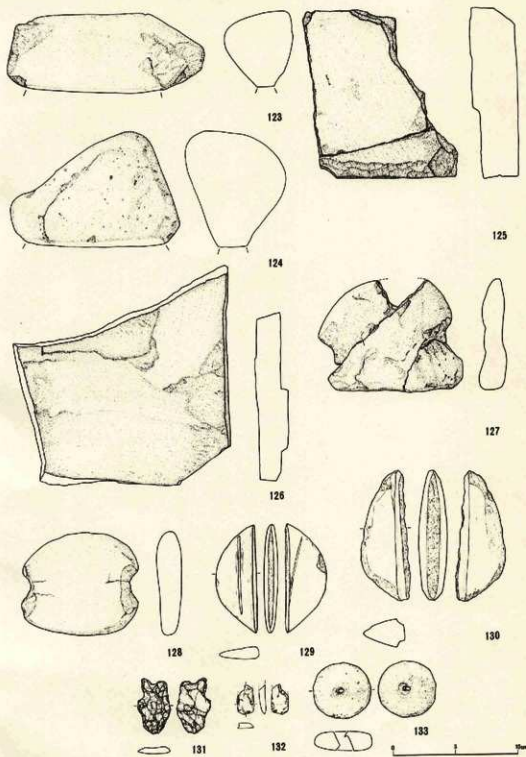
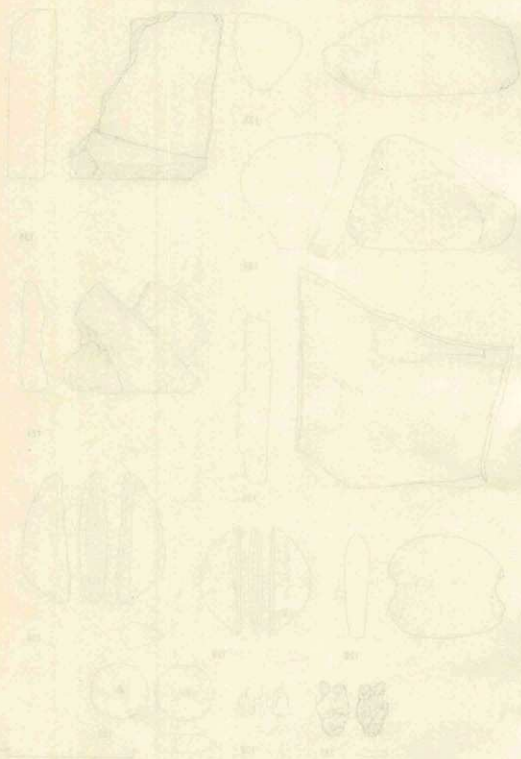


図 11 II 黒層出土の石器等(4)



VI 美々7 遺跡



1 遺跡の概観

2 包含層出土の遺物

美々7遺跡遺跡（美々7遺跡から）

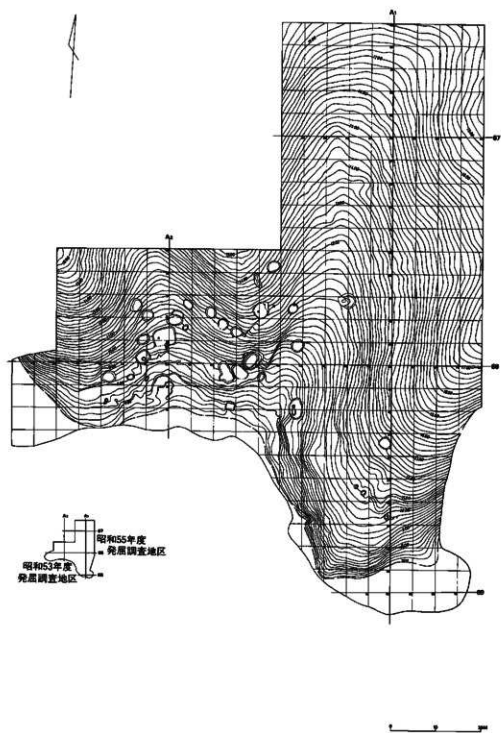


図1 美々7遺跡遺構分布

VI 美々7遺跡

1. 遺跡の概要

遺跡は美沢川の左岸、標高約25mの台地から約10mの低地におよんでいる。西側には、美々6遺跡、対岸には、美沢3遺跡がある。本年度の調査地区は昭和53年度に発掘された低地部分の続きで、ゆるやかな傾斜をもつ斜面にある。調査面積は2,400m²である。53年度の調査では、住居跡25か所、Tビット1か所、その他のビット13か所、焼土7か所が発見されている。

土層は図版2に示した柱状図と基本的には同じである。遺構、遺物はII黒層から検出されている。II黒層は斜面下位では厚く(30~40cm)、斜面中腹では薄くなっている。

遺構は焼土が1か所、斜面中腹の傾斜がややゆるやかなところから検出された(a-68-96)。

(図1) 焼土中には鹿の焼骨片が含まれ、その付近から縄文時代晩期初頭(V群a類)の土器片がややまとまって出土している(図1)。

遺物は土器片と石器が6,970点出土している。出土遺物のほとんどが台地縁辺部に集中しており西斜面では少ない。土器片は4,558点で、そのうち、I群が約98%を占めている。その他、II群、V群が出土しているが非常に少ない。I群はb-4類が約95%と圧倒的に多く、b-3類は約3%、b-2類は約2%に過ぎない。

表1 美々7遺跡出土遺物一覧

名 称	分 類	数 量		名 称	分 類	数 量	
		I 黒層出土数	計			I 黒層出土数	計
土 器	I b-2	82	82	スクレイパー	III B 1 a	5	5
	I b-3	152	152		III B 3	3	3
	I b-4	4,215	4,215		III B 4	1	1
	II a-2	52	52		III B 5	1	1
	V b	54	54		III B 7	12	12
					III B-	1	1
石 や じ り	I A 2 a	10	10	石 斧	IV A 1	1	1
	I A 2 b	57	57		IV A 2	4	4
	I A 2 c	3	3		IV A-	3	3
	I A 2-	9	9	た た き 石	V A 1	1	1
	I A 3 a	13	13		V A 2	2	2
	I A 3 b	9	9		V A 3	1	1
	I A 4 a	3	3		V A-	3	3
	I A 6	2	2	す り 石	VI A 2	1	1
	I A-	36	36		VI A 3	7	7
					VI A 4	10	10
石 や り	I B 2 a	3	3		VI A-	1	1
	I B-	5	5	石 皿	VI B	19	19
刺 突 器	II A 2	5	5	石 刷	VII A	2	2
	II B 1	1	1	砥 石	VIII B 2	9	9
つ め 付 ナ イ フ	III A 1 a	52	52	使用痕のある礫	IX	1	1
	III A 1 b	16	16		X	44	44
	III A 1 c	1	1	礫	X	13	13
	III A 1 d	2	2			219	219
	III A 1 e	3	3	フ レ イ ク		1,800	1,800
	III A 1 f	3	3				
	III A 2	1	1	石 製 品		1	1
	III A 3	7	7				
	III A-	6	6				

2. 包含層出土の遺物

包含層から出土した遺物には土器、石器、石製品がある。土器は圧倒的にⅠ群b-4類に属するものが多い。石器、石製品もそれらに伴うものが多いとみなされる。

土器(図2、3)

土器にはⅠ群b-2~4類、Ⅱ群a-2類、Ⅴ群b類に属するものがある。

Ⅰ群b-2類(1・4~11): 口唇直下および体部に刻み目のある貼付帯をめぐらすもの(1・4~7)が特徴的である。0は縄文のみのもので、口唇上に撚りひもによる刻み目がある。底部0はくびれの位置が高く、短縄文がやや長めに施されている。

Ⅰ群b-3類(12~15): 微隆起線の間に短縄文を施すのが特徴的である(13~15)。12は15と同一個体を形成するとみなされ、隆起線の間と底部の側面に、極く細い撚りひもによる絡条体の圧痕がやや斜めにつけられている。本類の内では古い時期のものとみられる。

Ⅰ群b-4類(16~43): 本類は、斜行する撚り糸文、普通の絡条体によるものではなく不均等に撚りの加えられた原体、付加条の原体とみられるものなど各種のものがあろう。羽状に組み合わせる文様が特徴的であるが、関連のある縄文の施されたものなど(25、35、39)も含まれる。器形はなだらかにふくらみをもつ単純な深鉢形が無く、尖底のものもある。23は特異なもので、Ⅰ群b-2類、あるいはⅠ群b-3類のくびれをもつものと関連があろうかと思われる。器面に剥落が多い。

本類にはかなりの変化があり、将来少なくとも2、3の型式に細分される可能性がある。初期とみなされるものは口縁部や体部に微隆起線の認められるもので、胎土に繊維を含まず、石英を多く含む特色がある。吉野V式に相当する。次には口縁部や体部に綾絡文を施すもの、魚骨回紋文を施すものなど、比較的薄手で均一の厚さをもち、繊維を含まない通常目にするもののが位置づけられる。2本並列する撚り糸文を施すものに、胎土に繊維を含み、やや厚手で、厚さの不均一なものが見られ、より新しいとみなされるもの(3)もある。胎土に繊維を含むものには、太い縄文の施されたものや、口縁部にループの圧痕のあるものが認められる。39は胎土に大粒の礫を含み、口縁部に太い縄線、体部に2本並列する撚り糸文と斜行縄文とが施されている。なお、33は比較的薄手の口縁近くの破片であるが、縦に短くやせた目の貼付帯があり、左右に縄線文の施されたものである。これら末期のものによくみられる縄文の施文法には東北地方北部の早稲田V類と関連するものがあるかと思われる。

Ⅱ群a-2類(44): 四本丸組紐回紋文の施されたものを便宜的にここへ含めてある。この組紐は山内清男氏の表記法⁴⁻¹によれば「右巻RR左巻LL」である。口縁部の断面は、口唇に向かってやや薄くなるけれども角形を呈し、口唇上と口唇直下に指頭および爪による刻み目がつけられている。やや特異な施文であり、その動作を復原するならば、右手の人差し指を口唇上にあて親指を口唇直下の器面にあてて、若干ひねるようにして施したものと思われる。

口唇に指頭の圧痕があるものは、Ⅱ群a-1類に1例あり、口唇直下に刻み目を施す手法はⅠ群b-4類との関連もあろうかと思われる。

V群も類(45)：口縁から底部まで部分的に接合し、完形に復元実測されたものである。底部がわずかに上げ底をなし、細かい縄文の施されたものである。

注-1, 山内清男 1969『日本先史土器の縄紋』

(2)石器等(図4、5)

石器は剥片石器、礫石器あわせて389点、他にフレイク・チップおよび礫が約2,000点、石製品が1点出土している。剥片石器と礫石器の出土点数比は、約4:1である。剥片石器は、石やじり、つまみ付きナイフが多く穿孔具類が少ない。礫石器は、すり石、石皿が多く、石鋸が少ない。つまみ付きナイフの石材は、黒曜石より頁岩が多い。

石やじり(1~22)：142点出土している。剥片石器では、もっとも多く出土し、約55%を占めている。細身で五角形のもの(1~12・14)、三角形のもの(13・15~22)がある。前者が79点と石やじりの約56%を占める。3・5は先端部が欠損している。石やじりの石材は、黒曜石が多く、他に頁岩などがある。

石やり(23)：8点出土している。剥片石器の中では、もっとも少ない。有茎で幅の広いもの(23)が5点、他は破損品である。23は、半分ほどが破損しているが、両面に細かな二次加工が施されている。石やりの石材は、すべて黒曜石である。

刺突器(24~26)：5点出土している。5点とも剥片に刺突部がつくられているものである。24・25は先端部が欠損している。24~26は黒曜石。

ドリル(27)：1点だけである。先端部が摩耗して丸くなっている。黒曜石。

つまみ付きナイフ(28~57)：88点出土している。剥片石器の中では、石やじりに次いで多く、約34%を占める。縦形のもの(28~50)と横形のもの(51~55)がある。縦形には、両面加工のもの(49~50)と片面加工のもの(28~48)があり、前者がつまみ付きナイフの中では、もっとも多い。35は、片面の周縁に細かな二次加工が施されている。45はつまみが欠損している。47は、片面に入念な二次加工が施された大形のものである。52~55は、つまみにえぐりが深く入っている。つまみ付きナイフの石材は、他の剥片石器に比べて黒曜石が少ない。

スクレイパー(58~66)：23点出土している。不定形のものに刃をつけたもの(66)がもっとも多く、その他に、石べらと称されるもの(58~61)、ラウンド・スクレイパー(62~64)、棒状のもの(65)がある。65は、片面に細かな二次加工が施されている。スクレイパーの石材は、黒曜石が多く、他に頁岩、珪岩がある。

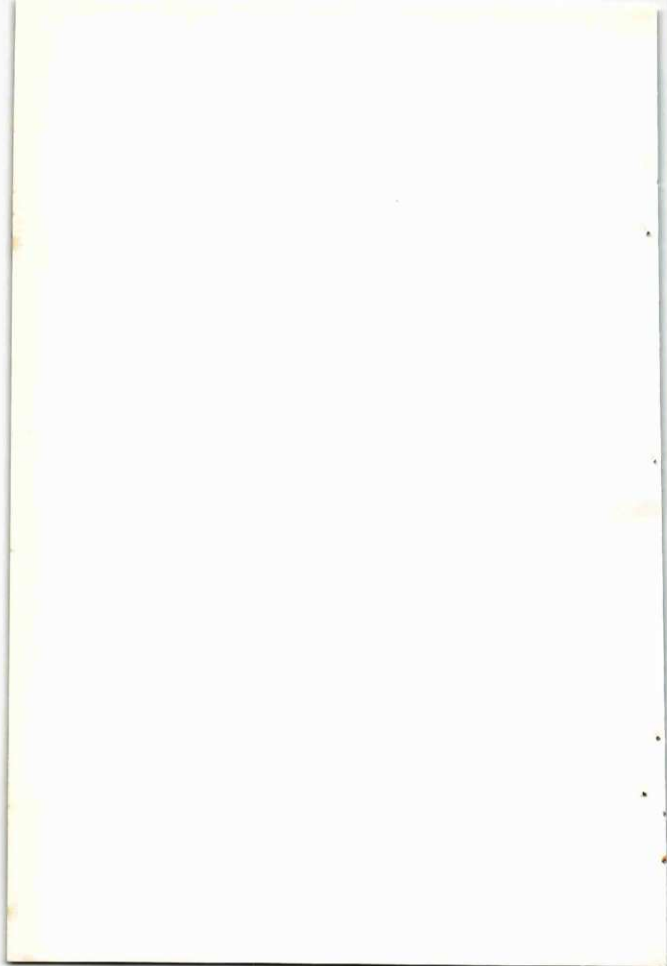
石斧(67)：8点出土している。擦り切り手法によるもの(67)と全体に研磨されたものがあ。67は破損しているが、全体に研磨されている。

たたき石(68)：7点出土している。扁平礫の上面にたたき痕がみられるものである。この他、棒状のものを利用したものが1点出土している。68は片麻岩。

すり石(69・71・72)：19点出土している。断面が隅丸三角形の稜をすったもの(69・71・72)、扁平礫の側縁をすったものなどが多い。69は、たたき痕がみられる。すり石の石材は、安山岩、砂岩などである。

- 石皿 (70): 19 点出土している。70 は、周縁を粗く打ち欠いて整形している。安山岩。
 石鐏 (73・74): 2 点出土している。扁平礫の側縁を利用してしている。石材は、砂岩である。
 石核 (75): 1 点出土している。黒曜石である。
 石製品 (76): 1 点出土している。全体に擦痕がみられ、形態が石べらに類似している。

資料編



包含層出土の遺物

(1) II黒層出土の土器

番号	分類	発掘区	大きさ (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)
1	I b-2	a-65-65	(7.6) (7.6)	16	I b-4	a-66-76	24.8×(20.4)	31	I b-4	a-66-88	24.8×(20.4)
2	I b-4	a-66-1	20.0×(19.0)	17	"	a-66-85	—	32	"	a-66-80	—
3	"	a-67-62	24.8×(20.4)	18	"	a-66-89	—	33	"	a-66-85	—
4	I b-2	a-67-82	—	19	"	a-67-87	—	34	"	a-66-99	—
5	"	a-66-67	—	20	"	a-67-89	—	35	"	a-67-82	—
6	"	a-66-67	—	21	"	a-67-80	—	36	"	a-67-82	—
7	"	a-66-76	—	22	"	a-66-78	—	37	"	a-66-65	—
8	"	a-66-65	—	23	"	a-66-99	—	38	"	a-66-65	—
9	"	a-67-62	—	24	"	a-66-76	—	39	"	a-66-87	—
10	"	a-65-67	—	25	"	a-89-20	—	40	"	a-67-65	—
11	I b-3	a-66-67	—	26	"	a-66-88	—	41	"	a-67-65	—
12	"	a-67-70	—	27	"	a-66-75	—	42	"	a-67-62	—
13	"	a-66-98	—	28	"	a-66-78	—	43	"	a-66-76	—
14	"	a-66-69	—	29	"	a-67-90	—	44	II a-2	a-67-71	—
15	"	a-67-61	—	30	"	a-67-62	—	45	V b	B-66-73	—

(2) II黒層出土の石器等

番号	分類	発掘区	重量(g)	材質	番号	分類	発掘区	重量(g)	材質	番号	分類	発掘区	重量(g)	材質
1	I A 2 a	a-67-61	0.9	O b s.	27	II B 1	a-67-63	2.0	O b s.	52	III A 3	a-67-65	2.0	S h.
2	"	a-66-67	1.3	"	28	III A 1 a	a-66-75	6.0	C h e.	53	"	"	"	"
3	"	a-66-88	(0.8)	"	29	"	a-66-88	7.0	"	54	"	"	3.0	"
4	I A 2 b	a-66-68	0.1	"	30	"	a-66-75	6.0	"	55	"	a-67-61	"	"
5	"	a-66-87	(0.4)	"	31	"	a-66-98	10.0	S h.	56	III A-	a-66-99	(0.3)	"
6	"	a-66-77	0.2	"	32	"	a-66-88	12.0	"	57	"	a-66-88	(3.2)	C h e.
7	"	a-67-71	(0.2)	"	33	"	a-67-81	7.3	"	58	III B 1 a	a-66-89	"	S h.
8	"	a-67-82	(0.3)	"	34	"	a-66-86	14.0	"	59	"	a-67-81	"	"
9	"	a-67-90	"	"	35	"	a-67-80	12.0	"	60	III B 1 b	a-66-79	"	C h e.
10	"	a-66-89	"	"	36	"	a-66-86	16.0	C h e.	61	"	a-66-75	"	S h.
11	"	"	"	"	37	"	a-67-61	19.0	O b s.	62	III B 3	a-67-71	"	O b s.
12	"	a-66-86	0.4	"	38	"	a-67-90	16.0	S h.	63	"	a-67-70	"	"
13	I A 3 b	a-67-71	(0.6)	"	39	"	a-67-63	10.0	"	64	"	a-67-94	"	"
14	I A 2 c	a-67-63	5	S h.	40	"	a-66-89	14.0	"	65	III B 4	a-67-94	"	S h.
15	I A 3 a	a-67-89	0.7	O b s.	41	"	a-66-68	18.0	S h.	66	III B 7	a-67-82	"	"
16	"	a-67-64	0.6	"	42	III A 1 b	a-66-85	6.0	"	67	IV A 1	a-66-88	137.0	S e r.
17	"	a-66-69	2.0	"	43	"	a-67-63	9.0	"	68	IV A 3	a-67-60	210.0	G n l.
18	"	a-66-66	0.9	"	44	"	a-67-62	12.0	"	69	IV A 3	a-67-61	940.0	A n d.
19	I A 3 b	"	2.0	"	45	"	a-66-87	(15.0)	"	70	VI B	a-67-71	1910.0	"
20	"	a-67-74	(0.7)	"	46	"	a-67-80	25.0	O b s.	71	VI A 3	a-67-60	860.0	S a.
21	"	a-67-85	0.6	"	47	III A 1 a	a-67-62	40.0	"	72	"	a-67-83	790.0	A n d.
22	"	a-66-77	2.0	"	48	III A 1 c	a-67-79	10.0	"	73	III A	a-66-79	44.0	S a.
23	I B-	a-66-68	18.0	"	49	III A 1 d	a-66-65	12.0	S h.	74	"	a-66-75	55.0	"
24	II A 2	a-66-76	4.0	"	50	"	a-67-90	(7.0)	"	75	IX	a-67-62	8.0	O b s.
25	"	a-66-85	"	"	51	III A 2	a-68-83	3.4	"	76	石製品	a-66-88	19.0	T n.
26	"	a-67-71	6.0	"	52	"	"	"	"	"	"	"	"	"

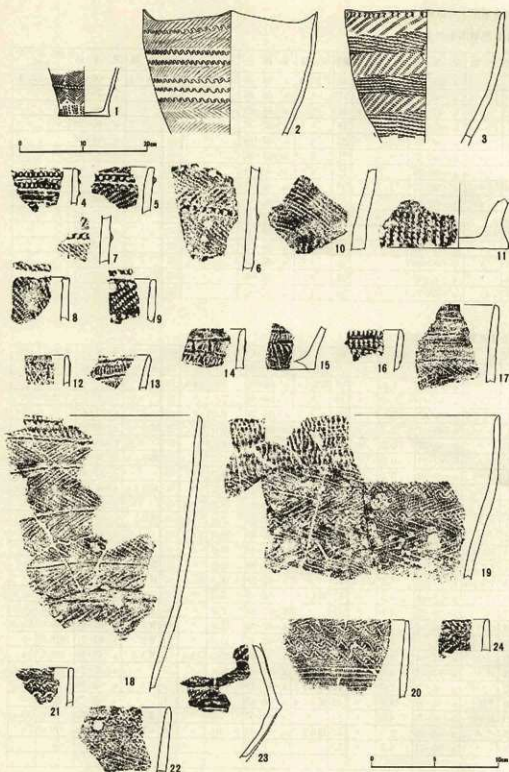


図2 II黒層出土の土器(1)

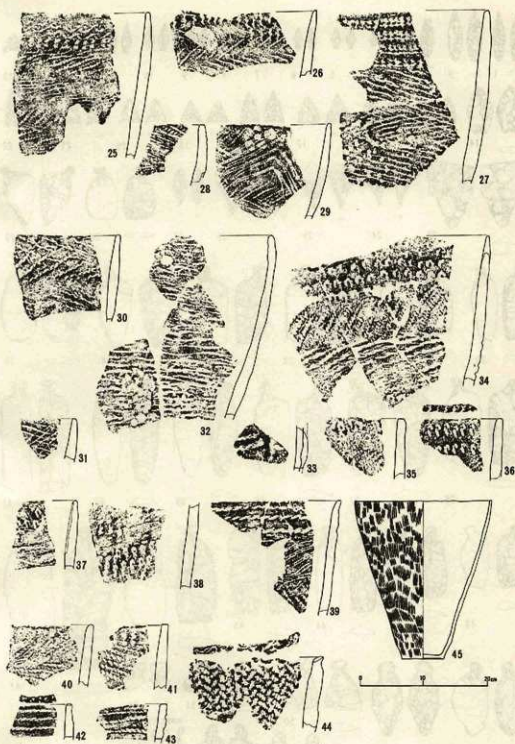


図3 II黒層出土の土器(2)

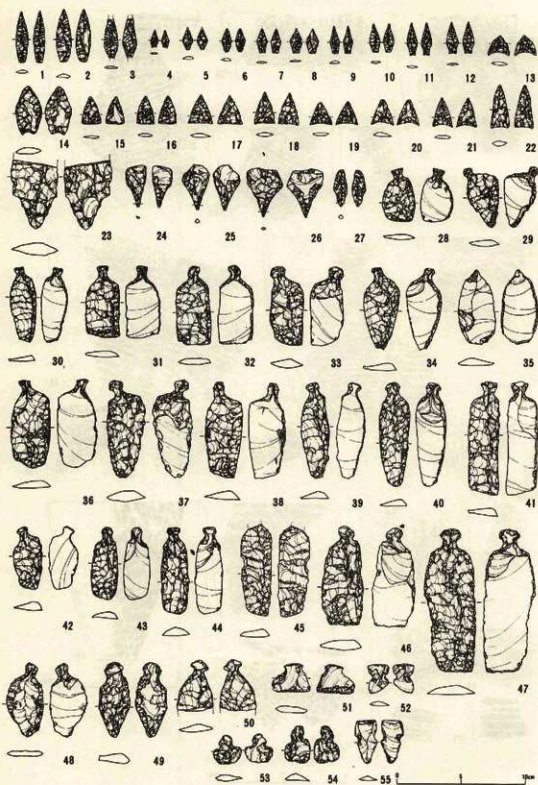


図4 II黒層出土の石器等(1)

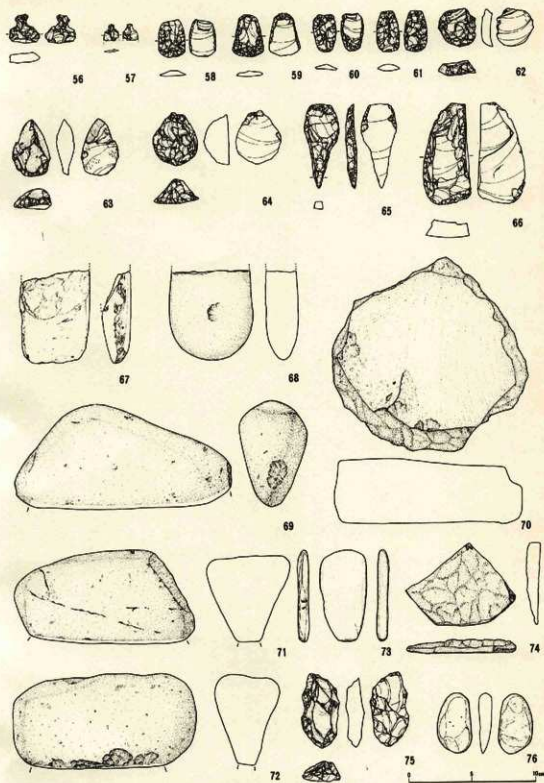
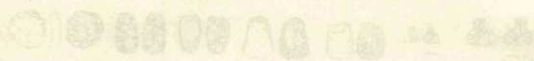


図5 II黒層出土の石器等(2)



1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.



8. 9. 10. 11. 12.

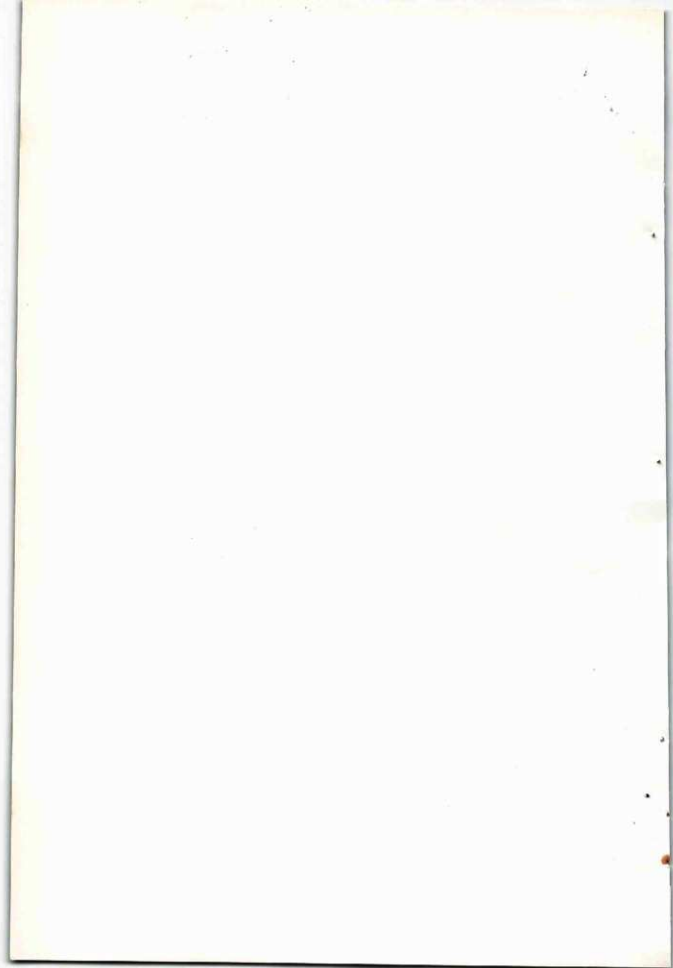


13. 14. 15. 16. 17.

VII 美沢1遺跡



- 1 土坑の遺跡
- 2 土坑の遺跡
- 3 土坑の遺跡
- 4 土坑の遺跡
- 5 土坑の遺跡





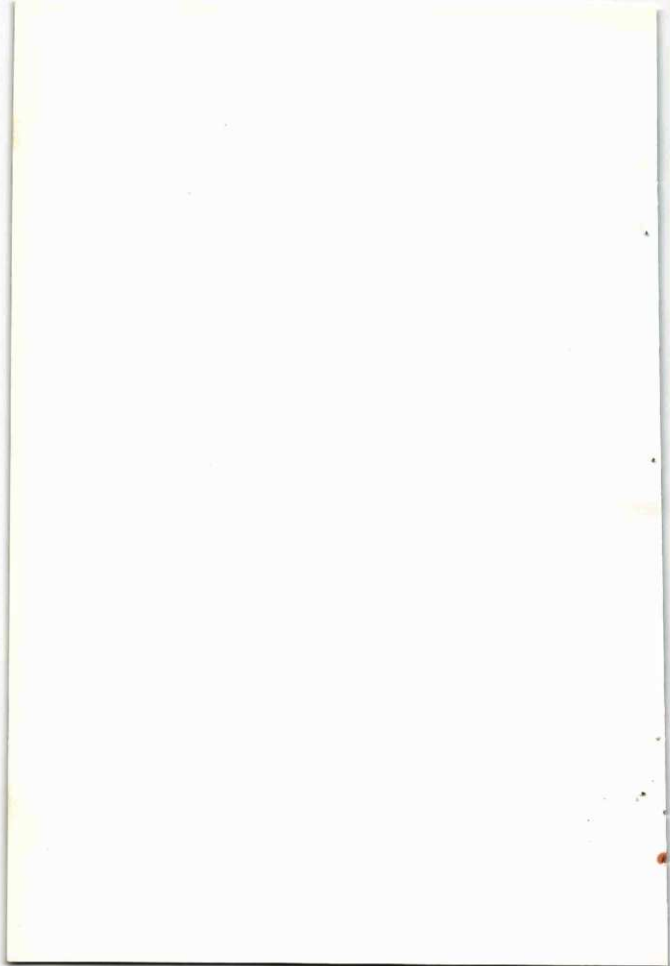
遺構群検出状況

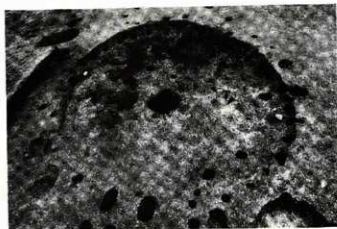


遺構群発掘状況



遺構群発掘後





H-4 全景



H-4 柱穴断面



H-4 炭化材散布状況



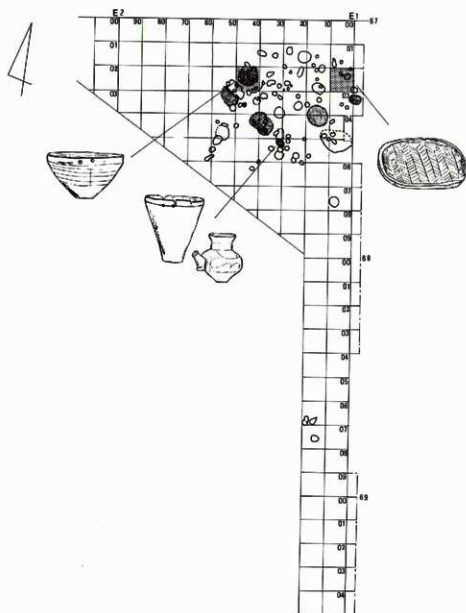
H-4 遺物出土状況



H-4 出土土器



H-4 出土石器





包含層土器出土状況



包含層出土土器



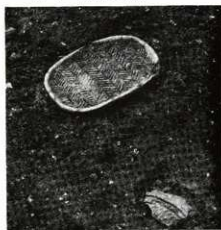
H-7 土器出土状況



H-7 出土土器



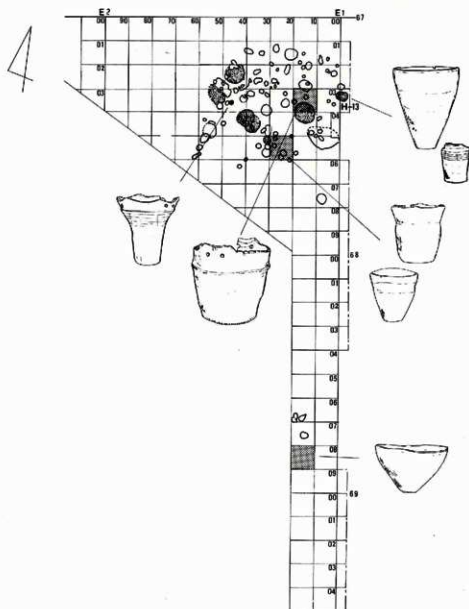
H-7 出土土器



土製品出土状況



包含層出土土製品





包含層出土土器



H-13 出土土器



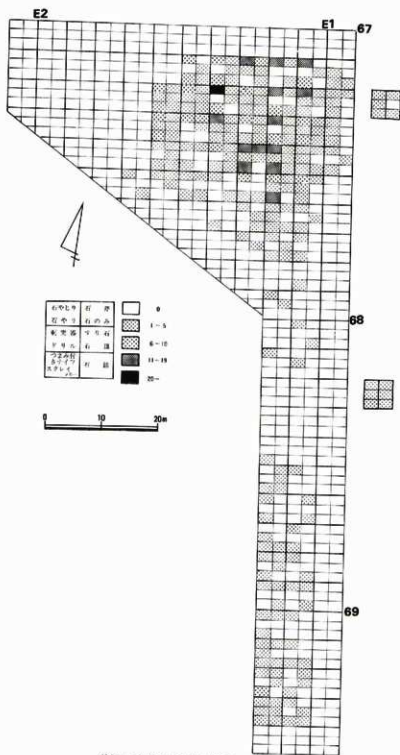
P-32 出土土器



包含層出土土器



包含層出土土器



美沢1遺跡出土石器分布図



やじり・石やり



ドリル・刺突器



つまみ付きナイフ・スクレイパー



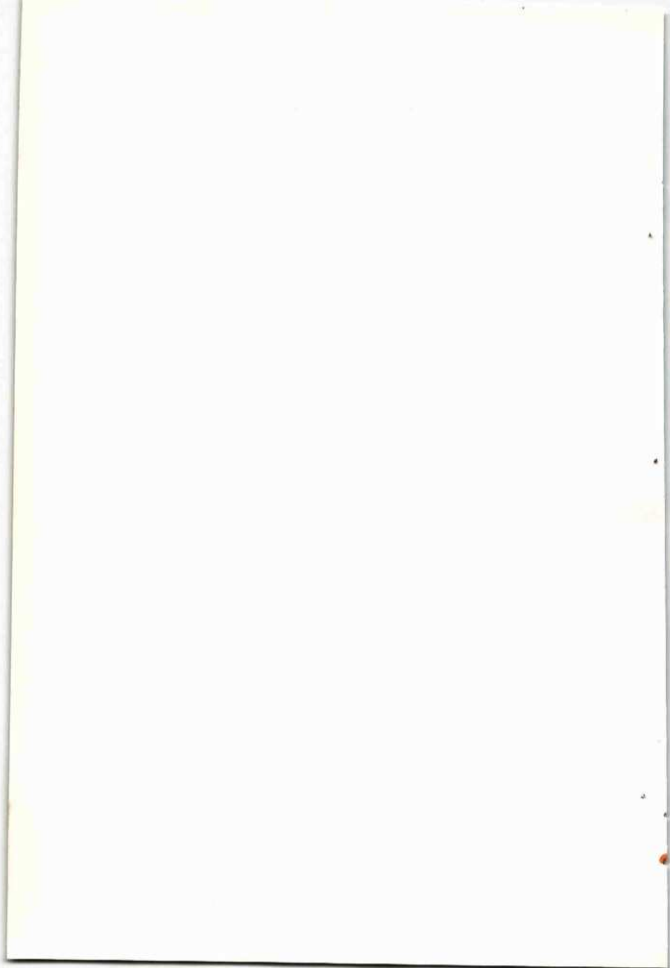
石 斧



石 錘



すり石・たたき石



VII 美沢1遺跡

1. 遺跡の概要

遺跡は、美沢川右岸、標高20~24 mの台地上から、北側緩斜面及びこれに続く段丘にある。これまでに、昭和51~53年の3か年にわたって発掘調査されている。これまでの調査では、本年度の調査地区の北側、標高7~8 mのところから、住居跡・土壌墓が、また東側台地の斜面部および平坦部からは、周墳墓などが検出されている。従って、本年度の調査地区からも、これらに続く遺構の検出が予測された。

本年度の調査地区は、51年度の調査地区の南側で、標高8~24 m間の台地平坦部から低地にかけての斜面である。

調査面積は、2,340 m²である。土層は、図版2に示した柱状図と基本的に同じである。以下本年度の調査で検出された遺構・遺物について概観する。

遺構は、住居跡14か所、土壌墓4か所、Tピット3か所、その他のピット77か所、焼土24か所、ほかにカワシンジュ貝のブロック1か所が検出されている。(付図3) これらは、II黒層より掘りこまれ、床、底は樽前d火山灰層(Ta-d)、または、恵庭a軽石層(En-a)に達している。

住居跡は、14か所のうち、縄文時代後期が8か所、前期と中期がそれぞれ1か所ずつ、時期の判別できないものが4か所である。形状は、不整形のものが多い。住居跡はすべて標高8~10 mの緩斜面につくられている。

土壌墓は、覆土および底の出土遺物から、前期と後期のものである。形状は、すみ丸長方形とだ円形で、人骨は腐蝕しており残りは良くない。ベンガラが確認できるのは、2か所だけである。住居跡と同様に、斜面下位につくられている。

Tピットは、いずれも長円形で、時期が判別できる遺物は得られなかった。いずれも、斜面下位につくられている。

その他のピットとしたものは、用途不明のもので、形状はだ円形のものが多い。台地平坦部に4か所あり、ほかはすべて斜面下位につくられている。斜面下位のものの中には、II黒層上面に樽前c火山灰(Ta-c)が混入しており、ピットの所在が予想されたものと、樽前d火山灰層上面で検出されたものに分かれる。

包含層出土の遺物は、すべてII黒層から出土し、斜面下位に集中している。土器は、縄文時代早期から晩期のものが出土している。層位的に明瞭な区分はできないが、II黒層下位から早期~前期、中位から中期~後期中葉、上位から後期末葉~晩期のものが多く出土した。時期別の分布範囲をみると、台地平坦部では、主として早期末から前期にかけて、それに続く斜面下位には、後期中葉から末葉にかけての遺物が出土している。中でも、後期のIV群b類の深鉢、浅鉢、注口土器等に好資料が得られた。

石器類では、礫石器にくらべて剥片石器が多く、全体の65%を占めている。剥片石器の中

では、石やじりが55%を占め、穿孔具類が3%である。また、石核はわずか3点である。

石製品では、砂岩や凝灰岩の周縁をていねいに加工した皿形石製品がある。装飾品では、石製の玉、垂飾などが出土している。

表1 美沢1遺跡出土遺物一覧

名 称 分 類	数 量			名 称 分 類	数 量		
	1. 具類出土の数	2. 具類出土の数	計		1. 具類出土の数	2. 具類出土の数	計
土 器	I b-2		1	つまみ付きナイフ	III A 2	2	2
	I b-3	28	2		III A 3	4	4
	I b-4	5	627		III A 4	5	5
	II a-1	5	355		III A-	28	28
	II a-2	10	1,053	スクレイパー	III B 1 a	1	2
	II b	1	19		III B 1 b	2	2
	II-		82		III B 2 a	6	6
	III a	1	76		III B 2 b	5	5
	III b-1		12		III B 3	2	2
	III b-2		42		III B 4	7	7
	III b-3		18		III B 5	10	10
	III b-		112		III B 7	54	54
	III-		19		III B-	6	6
	IV a		36	石 斧	IV A 1	1	1
	IV b	30	3,693		IV A 2	37	37
	IV c	116	9,729		IV A 3	2	2
	IV-	17	2,662		IV A 4	3	3
	V a	3	282		IV A 5	1	7
	V b		59		IV A-	47	47
	V c	5	2,034	石 の み	IV B	2	2
石 や じ り	IA 2 b		12	た た き 石	V A 1	11	11
	IA 3 a		87		V A 2	22	22
	IA 3 b		42		V A 3	1	1
	IA 3 c		1		V A	16	16
	IA 3 d		1	台 石	V B 1	6	6
	IA 4 a	135	135		V B-	2	2
	IA 4 b		8	す り 石	VI A 1	9	9
	IA 5 a		3		VI A 3	16	16
	IA 5 b		5		VI A 4	2	2
	IA-		38		VI A-	17	17
石 や り	IB 1 a	5	5	石 皿	VII B 1	13	13
	IB 1 b	2	2	石 鏃	VII A	1	1
	IB 2 a	1	1	砥 石	VII B 1	2	2
	IB 2 b	2	2		VII B 2	19	19
	IB-	9	9		VII B-	6	6
刺 突 器	II A 1	12	12	石 鏃	VIII A 1	7	7
	II A 2	8	8		VIII A 2	8	8
	II A-	1	1		VIII A 3	1	1
ド リ ル	II B 1	11	11		VIII A-	61	61
	II B 2	6	6	使用済みの刺突器	X	38	38
つまみ付きナイフ	III A 1 a	21	21	礎		27	2,316
	III A 1 b	9	9	フ レ イ ク		59	4,908
	III A 1 c	19	19	土 製 品			3
	III A 1 d	24	24	石 製 品			6
	III A 1-	1	1				

2. 遺構および遺構出土の遺物

本年度の調査で発見された遺構は計122か所である。これらは形状、覆土の状態、出土遺物などから判断して、住居跡、土壇墓、Tピット、その他のピット、焼土群の5種に分けられる。

住居跡 (図1~19)

住居跡と推定される遺構は14か所発見されているが、出土遺物、および遺物の出土状況などから推定して、構築時期を次のように分類した。縄文時代前期：H-3、中期：H-9、後期：H-1、2、4、5、6、7、12、13、時期不明のもの：H-8、10、11、14。

前期の住居跡

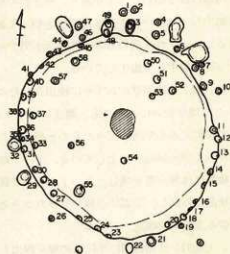
H-3 (図1) は、ほぼ隅丸方形で後期の住居跡の覆土に比べると、II黒の混入が非常に少ない。壁高は30cmで、壁、床ともに良好に残っている。覆土からは早期末と前期前半の土器片が出土している。1はI群b-4類に相当するもので短い縄の圧痕がある。2はII群a-1類で節がわずかに残るものである。

中期の住居跡

中期の住居跡と推定されるものは、H-9 (図2) のみである。形状は小規模だがほぼ円形で、床は水平につくられている。壁は傾斜しており、壁高は最大で23cmである。周囲と内部には計13個の柱穴とみられるピットがある。覆土からIII群b-1類に相当する土器片を主体に炭化物その他の遺物が出土している。1は無節の縄文、2は綾絡文が施されている。

後期の住居跡

後期の住居跡と推定されているものは8か所で、いずれもIV群b類の土器を多く伴っている。H-4 (図7) は構築時の状態を良く残している。径約4mの円形で、床は水平につくられている。壁は傾斜し、壁面には径10cmほどのピットがほぼ等間隔に並んでいる (図a)。セクションからは、この柱穴状のピットは先端を鋭く突がらせた木の頭を住居の中心へ傾けて打ちこんだものと推定される。床にも8個のピットがあるが規則性はない。中央には炉跡が検出されており、内部は炭化物と焼土が層をなしている。(注1) また床の南半部には炭化物が広がっている。これは細い木枝状のものが炭化したもののようである。覆土中からIV群b類土器の一括品が出土している。1は斜行縄文の文様帯が二段に分かれるもので、口縁部には鋸歯状の沈線、胴部には上向きと下向きとに弧状の沈線が施されている。2は無文地で胴部の下半に平行沈線



図a H-4のピット

表2 H-4のビット計測値

No	方向	方位角 (°)	距離 (cm)	No	方向	a	ℓ	No	方向	a	ℓ	No	方向	a	ℓ
1	0°	0.11	16	N E 120°	18°	0.18	31	N W 240°	40°	0.08	46		0°	0.09	
2	0°	0.07	17	N E 105°	46°	0.12	32		9°	0.18	47		0°	0.11	
3	N W 12°	15°	0.36	18	N E 45°	15°	0.23	33	N W 287°	12°	0.50	48	N W 170°	24°	0.31
4	0°	0.09	19		0°	0.04	34	N W 280°	25°	0.30	49	N E 25°	20°	0.36	
5	0°	0.10	20	N E 84°	09°	0.31	35	N W 290°	17°	0.17	50	N E 55°	15°	0.21	
6	0°	0.08	21		0°	0.13	36	N W 287°	22°	0.65	51	N W 245°	16°	0.27	
7	0°	0.05	22	S W 20°	20°	0.27	37	N W 260°	10°	0.09	52		0°	0.06	
8	0°	0.05	23	N S 180°	70°	0.20	38	N W 270°	20°	0.21	53	N 0°	12°	0.15	
9	0°	0.06	24	N W 205°	26°	0.60	39	N W 297°	20°	0.49	54	N E 80°	19°	0.40	
10	0°	0.09	25	N W 215°	27°	0.57	40	N W 320°	26°	0.14	55		0°	0.09	
11	0°	0.19	26		9°	0.05	41		9°	0.10	56		0°	0.05	
12	N E 106°	26°	0.20	27	N W 220°	20°	0.10	42	N W 300°	8°	0.31	57		0°	0.12
13	N E 103°	28°	0.58	28	N W 225°	30°	0.09	43		0°	0.10	58		0°	0.05
14	0°	0.21	29		0°	0.11	44		0°	0.10	59				
15	N E 101°	30°	0.17	30	N W 255°	37°	0.24	45		0°	0.11	60			

が引かれ、その間に弧状の沈線が施文される。床からは有蓋のやじり(20~24)、スクレイパー(30~33)、すり石(36、39)が出土している。

H-1(図3)、H-2(図6)はともに不整形の住居跡で前者は後者を切って構築されている。H-1は中央に炉をもち、床からH-4と同様の炭化材が検出された。壁は傾斜し高さは南東側で20cmである。覆土からIV群b類土器の一括品、たたき石(35)、石皿、皿型石製品(36、37)などが出土している。内部の6個のビットは、いずれも本住居跡構築以前のものである。

H-2の壁の一部は検出することができなかった。床はほぼ水平でH-1によって切られている。内部には2個のビットがあり、壁ぎわのもの(H2P-1)は付属施設と考えられるが、遺物は出土していない。P-65は覆土を切って掘りこまれている。また床に8個の柱穴状のビットがあるが、いずれも浅いもので性格は不明である。本住居跡の覆土からは1,755点のフレイク・チップが集中して出土している。

H-7(図7)は南壁がわずかに検出されたのみで、詳細については明らかではない。またH-11との切り合いについても、覆土がわずかしが残っていないために不明である。形状はH-1に類似する不整形なものでと推定される。本住居跡の床面からはIV群b類に相当する土器片および一括品が出土している。1は平縁の深鉢で口縁部が張り、わずかに内湾している。口縁部には無文帯を残し、その下を沈線で区画している。地文は斜行縄文である。2は注口で口縁部は外反し、頸部に二段のくびれがある。器面はよく磨かれている。3は平行沈線を縦に区切る文様が構成されている。

H-5(図12)は南西側に半円状の壁を検出した。形状はH-1に類似する円形に近いものであったと考えられる。覆土よりIV群b類の土器片が64点出土した。2は斜行縄文が施され、3は口縁部の平行沈線を縦の短い沈線で区切っている。皿形石製品が1点(11)出土した。

H-12 (図15) は南東壁の一部が検出された。形状は明らかではないが、H-1、H-5などに類似する住居跡であると考えられる。内部には大小のビットがあるが性格は不明である。床の中央にあたる部分に炉跡と考えられる焼土が検出されたが、これはH-5によって切られている。わずかではあるがIV群b類に相当する土器片が出土していること、さらに形状などから推測して構築の時期を後期とした。

H-6 (図13) も東壁の一部を確認できたのみで、詳細は明らかではない。覆土から101点のIV群b類の土器片が出土している。1～3は平行沈線、4は鋸歯状の沈線、5には斜めの沈線が施されている。

H-13 (図15) は、ほぼ円形に近い比較的小規模の住居跡で床、壁ともによく残っている。覆土よりI群からIV群にわたる土器片が出土した。2は流状口縁の深鉢で、口縁下のくびれの部分に幅の狭い無文帯を残している。地文は無文の縄文である。3は下半部のみが残っているが、口縁部が大きく開く器形と考えられる。7はIV群a類の深鉢で、口縁部に折り返しのバンドが施されている。

構築時期不明の住居跡

H-8 (図18) は径約3mの円形の住居跡と推定されるが、西側では壁を検出できなかった。床は水平で壁の外には12個の柱穴と考えられるビットがあり、北端部には一段高い張り出し部分がある。出土遺物が少ないため構築時期の推定は困難であるが、IV群に相当する土器片が比較的多く、後期のものとも考えられる。

H-10 (図19) は緩斜面南東部に半月状に検出された遺構である。径約6mの円形に近い形状であったと考えられるが説明は不明である。壁高はわずかに10cmほどで炉跡も検出されていない。床にみられる柱穴状のビットは、いずれも浅く規則性をもっていない。この遺構は、その位置関係をみても、P-38を主体部とする周堤墓である可能性があるが、P-38が覆土の第II層を切って掘りこまれているために、ここでは住居跡に分類した。覆土よりI群ないしIV群の土器片がわずかに出土している。

H-14 (図19) は規模の小さい円形の住居跡で、床、壁ともに良く残っている。壁には4個の柱穴がある。覆土よりI群からIV群までの土器片が出土しているが、構築時期は不明である。

土墳墓 (図20～22)

墓域と推察されるビットは、4カ所発見されている。このうち前期はP-68、後期に比定されるものはP-32、44である。

前期の土墳墓

P-68 (図22) は長軸約1.2m、深さは約50cmで、墳底はEn-a層に達している。覆土にはII層の混入が少なく、前期の住居跡H-3に類似する。墳底の西端部には腐蝕した人骨の痕跡がわずかにみとめられた。南側の壁付近の覆土からは、一部にベンガラが付着した12点の石やじり(1-12)、65点のフレイクがまとまって出土した。土器片は墳底からII群a-1類に相当するものが出土している。

後期の土壌墓

P-32 (図20) は径約1mの円形ビットで、墳底には腐蝕した人骨がみとめられ、ベンガラがわずかに検出されている。覆土からIV群b類の土器が98点出土した。

P-38 (図21) はほぼ隅丸長方形の墓域で、深さは約1.2m、底はEn-a層に達している。また長軸方向両端の覆土上部には立石がそれぞれ1個ずつあり、墳底には人骨、ベンガラが検出されている。頭位は北西方向である。覆土からII群ないしIV群の土器片が出土している。

Tビット (図23、24)

Tビットは3か所発見された。いずれも覆土から遺物がわずかに出土しているが、時期を判断することは困難である。P-23 (図23) は9mの等高線にほぼ平行に掘りこまれている。深さは約50cmで墳底には4個の杭跡とみられるビットがある。P-51 (図23) は緩斜面中央部にあり、等高線にほぼ直交してつくられている。形状は長円形で、長軸方向でオーバーハングしている。P-73 (図24) は西側斜面に検出された。形状は長円形であるが、墳底については湧水のため詳細な調査はできなかった。

その他のビット (図24~49)

検出されたビットは発見順に通し番号を付しているが、このうち土壌墓4か所、Tビット3か所を除く77か所については、その用途、機能などは明らかにできなかった。これらのビットのうち、出土遺物点数、遺物の出土状況などから、時期を推測し得るものは21か所である。

中期のビット

P-87 (図49) は長径約80cmのだ円形のビットで、深さは10数cmにすぎない。III群b類に相当する土器片が25点出土している。1は複筋縄文が施されたものである。

後期のビット

緩斜面中央部に大型で墳底が水平のビットP-10 (図27) がある。覆土からIV群b類に相当する大型の土器片が出土、1は平縁の深鉢で平行沈線の間に刺突文を施している。P-18 (図30) は径約2mの浅い皿状のビットで、IV群b類が67点出土している。1は縄文の地文のみのもの、2~4は平行沈線が施されたものである。P-53 (図39) は東側斜面のH-6に接する大型の落ちこみである。覆土より出土した1はIV群b類で、口縁は波状、平行沈線が施されている。IV群b類を顕著に出土したビットには、このほかにP-12 (図28)、13 (図28)、20 (図31)、29 (図33)、37 (図33) などがある。

P-8 (図26) は径約1mの円形ビットで、IV群c類が15点出土。P-79 (図45) は径約1mの円形、皿状のビットで、覆土からIV群が52点、V群a類が9点出土している。1、2はV群a類のもので斜行縄文の薄手のものである。

P-82 (図47) はだ円形の小型のビットで、覆土よりIV群の土器が出土。1はIV群b類で、平行沈線が描かれている。

晩期のビット

P-2 (図24)、3 (図25)、4 (図25)、5 (図24)、6 (図24)、7 (図26)、11 (図27)

の7か所のビットはTa-c火山灰層を除去した後、II黒層上面に検出された。いずれも径1m前後の円形である。このうちP-2、3、4、5、6は、ほぼ10mの等高線に沿って並んでいる。覆土の最上部にはTa-cを含んでいる。P-3、4北側のII黒層上面にはTa-d火山灰が薄く堆積していたが、ビットを掘りこんだ際の排土と考えられる。P-6、7を除いて各ビットともIV群の土器片がわずかに出土しているが、検出された層位などからみて晩期に分類した。P-50(図38)は長径約2.5mのだ円形のビットで、下部ではオーバーハングしている。覆土よりV群c類が出土。1は細かい波状口縁のもので底部はやや丸みをもっている。2は口縁部に縄文が施され、やはり底部は丸みをもつ。P-81(図46)は径わずかに60cmの小型のビットであるが、V群c類の土器片が32点出土している。

時期不明のビット

P-1(図24)、25(図33)、26(図33)、27(図33)は、調査区南部の台地上部に検出された。いずれも不整形で出土物もわずかである。53年度調査ではこの東側に周壕墓KX-1が発見されている。P-17(図30)は径約2mの大型で円形のビットである。緩斜面から急斜面へかかる位置にあり、他の遺構群から離れている。P-34(図35)、65(図43)はそれぞれH-1、H-11の覆土を切って掘り込まれている。またP-56(図40)、57(図41)、64(図42)、70(図44)、71(図44)、72(図44)はH-1の床に検出されたものである。床の炭化物を取り上げた後に確認されたこと、各ビットともII黒の混入が非常に少ないことなどから推測して、H-1構築以前のものであろう。遺物はP-56、57よりII群、III群の土器片が数点出土している。

このほかに時期不明のビットは43か所あり、規模、形状ともに多様だが、径1m以内の円形のものが多い。大部分のものに土器片が出土しているが比較的IV群b、c類が多い。P-15(図29)からは皿形石製品(3)、P-54(図40)からはたたき石(1)が出土している。

焼土群 (図50)

検出された焼土は24か所で、すべて調査区北端部の緩斜面に分布している。規模は大小様々で形状も不定である。いずれもII黒層上部に検出され、厚さは5~8cm、色調は橙色ないし暗橙色である。大部分のものに焼けた獣骨片、刺片、土器片が含まれているが、土器片は後期から晩期のものが多い。なお、E₁-67-22のII黒層上部にはカワシンジュ貝のブロックが検出された。

注1：北海道開拓記念館、矢野牧氏の分析によると、H-4跡の土壌サンプル3,800cm²内より形が不規則な炭火木の細片数十点とこれに混じって長さ15mm径2mmの細い棒状の骨片が1点得られた。

3. 包含層出土の遺物

本遺跡では、縄文時代早期から晩期の各時期に属する遺物が出土している。出土した遺物は、土器、石器類あわせて36,528点にのぼる。

(1) 土器 (図52-56)

土器は24,940点出土している。分類別の内訳は別に示すとおり(表-1)、IV群が圧倒的多数を占め、なかでもIV群b類が最も多い。次いで、V群、II群、I群、III群の順となっている。分布の傾向をみると(図b-f) I群は遺跡全体にわたって出土しているが、とくに台地上(E₁-69区、E₁-68区)に多くみられる。II群、III群も同様、全体に分布するが、台地上(E₁-69区)と斜面下位(E₁-67区)に多く出土している。IV群、V群は斜面下位(E₁-67区)に集中している。

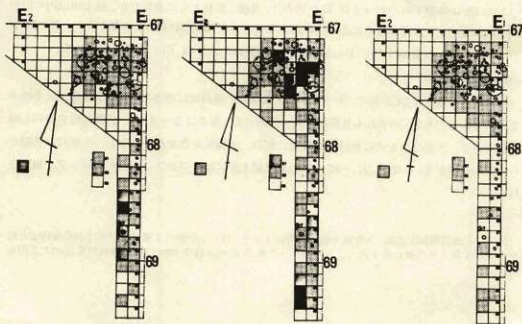
I群 (1~9)

b-4類(1~9): 東銅路IV式に相当するもの。3~8は綾絡文および縄端による刺突が施されたものである。3・4は同一個体である。3~5は縄文を地文としている。

II群 (10~17)

a-1類(10~13): 縄文式として区分されるもので、条の中をすり消したものの(10・11)と、そうでないもの(12・13)がある。

a-2類(14~17): 斜行縄文が施されたもので、口唇断面が角形のもの(14)と、丸みをもつもの(15・16)がある。



図b 出土土器分布図 (早期)

図c 出土土器分布図 (前期)

図d 出土土器分布図 (中期)

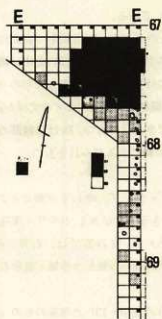


図 e 出土土器分布図 (後期)

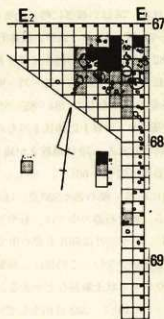


図 f 出土土器分布図 (晩期)

III群 (18~20)

b-2類 (18・19): 口唇上に刺突をもつもの。

b-3類 (20): 北筒式に類似するもので、口縁部に外面から突いた瘤をもち、口唇上には刺突がある。

IV群 (21~67)

b類 (21~59): 浅鉢、台付鉢、深鉢の器形のものがある。口唇断面は角形のもの、丸みをもつて肥厚するものがある。21は浅鉢で、平行沈線を縦に区切る文様構成である。25は台付鉢の台部である。深鉢形 (22~24・26~59) には、平縁のもの、波状口縁のもの、体部にくびれをもつもの、もたないものがある。また、口縁部あるいは体部に無文帯をもつものがある。29・30・33~44・49~51は沈線が施されたもので、鋸歯状、弧状、平行沈線を縦に区切るもの、波状、曲線的なものなどがある。45~48はすり消し縄文をもつもの。47・48は突起が付き口縁部が強く内湾するもので、胎土・焼成など、他のものと趣が異なる。24~28・52~58は縄文だけのもので、22には、体部のくびれた部分に無文帯をもつ。59は口縁部に刻み目を施す隆帯をもつもので、内側から突いた瘤がある。

c類 (60~67): 平縁のもの、波状口縁のもの、口唇断面が切り出し状に尖るものと角形になるものがある。60~62は平行沈線をもつもの、63~67は縄文だけのものである。いずれも内面からの突瘤をもつが、61は瘤が沈線によってつぶされている。

V群 (68~86)

a類 (71~73): 71は爪形文をもつもの。72・73は縄文だけのものである。

b類 (74~76): 74は爪形文、75は縄線文が施され、口唇上に波形、あるいは交差する刻

みが加えられる。76は口縁部に幅のせまい無文帯を残している。

c類(68・70・77・86): 皿形、浅鉢形、深鉢形のものがある。68は皿形で底面に縄文が施される。82は浅鉢形で、口唇上に縄を押しつけて刻み目を入れ、口縁部内部には縄線文と刺突文が施される。深鉢形(69・70・77・81・83・86)には口縁部に突起をもつもの(69・70・86)、隆帯を貼り付けたもの(84・85)がある。沈線、縄線文、刺突文などの文様がみられる。77は沈線が施され、口唇上に棒状上ものを押しつけた刻み目をもつ。78は口縁部の隆帯の下に縄線文が付けられる。79は縄線文が施され、口唇上に縄による刻み目をもつ。

(2) 石器等(図57~60)

石器は剥片石器・礫石器が953点、ほかにフレイク・チップ、礫および礫片が約6,500点出土している。剥片石器の中では、石やじり、つまみ付きナイフが多く、石やり・穿孔具類が少ない。とくに、石やじりは剥片石器の中では約55%を占める。礫石器では、石斧、石錘が多く、石皿、石鋸が少ない。この他に、石製品、土製品がある。石製品は垂飾・皿形石製品、土製品は、オロシガネ状土製品などがある。

石やじり(1~16): 333点出土している。有茎のもの(10~13)と無茎のもの(1~9)に大別できる。他に柳葉形のもの(14)、細長いもの(15・16)がある。石やじりの中では、茎が顕著なものが40%を占め、最も多い。2~6・10・13~16は、先端部または基部の一部が破損している。石やじりは、ほとんどが細かな二次加工が施されている。1~15は黒曜石、16は珪岩である。石やじりの石材は、黒曜石が大部分である。

石やり(17~22): 19点出土している。剥片石器の中ではもっとも出土が少ない。有茎のもの(17~21)が7点出土し、石やりの中では多い。21は、全体に火をうけているものである。21以外は、ていねいな二次加工が両面に施されている。22は、基部が欠損している。21は頁岩で、他は黒曜石である。

穿孔具類(23~31): 38点出土している。刺突部が剥片につくりだされているもの(23~28)、棒状のもの(29)、つまみのあるもの(30・31)がある。23~25は先端部が欠損している。25は両面に細かな二次加工が施されている。29~30は、先端部が磨耗して丸くなっている。23~29は黒曜石、30・31は頁岩。穿孔具類の石材は、黒曜石がほとんどで、他に頁岩がわずかである。

つまみ付きナイフ(32~55): 113点出土している。石やじりに次いで出土が多く、剥片石器の中で約20%を占める。縦形のもの(32~50)と横形のもの(51~55)がある。縦形のものの中には、両面加工のもの(43・44・46・47・49・50)と片面加工のもの(32~42・45・48)があり、それぞれ細かな二次加工が施されている。また、横形のものの中には、つまみに刃部があるもの(53・54)がある。横形のもの、縦形のものより加工調整が粗いものが多い。32~35・37・39・40・46は珪岩、36・42は頁岩、38・41・43~45・47~55は黒曜石。

スクレイパー(56~72): 93点出土している。不定形のものに刃をつけたもの(59・62・64・69~72)がもっとも多く、スクレイパーの中で約60%を占める。この他に、長円形のもの(61・

67)、棒状のもの(66・68)、エンド・スクレイパー(58・63)、えぐりこみをもつもの(57)がある。66～68は、細かな二次加工が施されている。72は、剥片の一面だけに刃をつけている大形のもの。56～62・67・69・71・72は黒曜石、63・68は頁岩、70は珪岩である。

石斧(74～88)： 98点出土している。礫石器の中ではもっとも多く、30%を占める。全体に研磨されているもの(74～78・81～86)、原材料を大きく変形しないで刃部のみが研磨されているもの(79)、および打製石斧(87・88)がある。全体に研磨されているものは37点出土し、石斧の中では一番多い。73～75・77～78は、他のものより刃部が鋭利である。86は刃部が欠損している。石斧の石材は、緑色泥岩・頁岩があり、とくに緑色泥岩が多い。

石のみ(73)： 2点出土している。いずれも、全体に研磨されている。石材は、緑色泥岩である。

たたき石(89・90)： 50点出土している。たたき痕が棒状の一端または両端にみられるもの(89)、扁平礫の周辺にみられるもの(90)がある。89は原石面がほとんどみられないほどの敲打痕がある。90は、周辺の一部を使用している。89はかんらん岩、90は砂岩である。

すり石(91～95)： 44点出土している。北海道石冠と称されるもの(93～95)、断面がすみ丸三角形の礫の稜をすったもの(91・92)がある。後者が16点出土し、すり石の中でもっとも多い。91は両端の使用面付近に敲打痕がある。93～95は、いずれも破損している。すり石の石材は、安山岩、砂岩などが多い。

砥石(96)： 27点出土している。研磨面だけのもの(96)が19点出土し、砥石の中では一番多い。他に研磨面に溝があるものが2点、破片が6点である。砥石の石材は砂岩が多い。

石錘(97～100)： 77点出土している。石斧に次いで多く、礫核石器の中では約25%を占める。打ち欠きが4つあるもの(97)と、2つあるもの(98・99)がある。また、破片が61点と多い。100は、形がすみ丸三角形の大形のものである。石錘の石材は、片麻岩、蛇紋岩が多い。

石製品・土製品(101～105)： 石製品・土製品あわせて9点出土している。101は、滑石でつくられている垂飾である。102・103は、オロシガネ状土製品である。102は横走沈線の間に刺突文が表面に施されている。103は、横走沈線の間に左右に傾斜する短い沈線が施されている。104・105は、皿形石製品である。両方とも、周辺がいねいに加工されている。104の基部の左右は、わずかにもりあがっている。同種のものがH-1、H-5からも出土している。

4. まとめ

本年度の調査では縄文時代前期から後期にいたる各種の遺構が発見された。これらの遺構のうち、もっとも顕著なものは後期後半のIV群b類に相当する土器を伴う住居跡群で、51、53年度調査で発見された同時期の住居跡2か所を含め、すべて調査区南部の低地に集中している。住居跡H-4はこの緩斜面の中央部にあり、他の9か所はこれを取り囲むように配置されている。H-4は円形に近いプランで、規則的に配列された杭状のビットなどを備えているのに対し、他の住居跡は不整形形で、柱穴とみられるビットはほとんど検出されていない。緩斜面南側および西側に立地する住居跡のうち6か所は北あるいは西側の壁を検出できなかった。これは美沢川流域の遺跡群で発見されている斜面に構築された住居跡の一般的傾向で、斜面下方の壁はII黒層につくられたことによるものと考えられる。

住居跡H-1とH-2、H-5とH-12はそれぞれ前者が後者を切って構築されているが、位置関係および形状、出土遺物などから、ほぼ同時期と考えられ、建てかえの可能性もある。このほかにIV群b類の土器を伴う遺構には、3か所の土壇墓、8か所のビットがあるが、住居跡群と関連をもつものか否かは明らかにできなかった。また、時期不明とした56か所のビットについても同時期のものがあると思われる。

緩斜面南東部にあるH-10とP-38は両者の位置関係、構造などをみると周堤墓に類似している。H-10がH-1、5などに比べると規模は大きい、柱穴、炉を伴っていないこと、P-38が53、54年度調査で発見された周堤墓の墓壇と同様に、深く掘りこまれ、頭位が北西方向で、さらに立石を伴っていることなどが、周堤墓に近い構造的特徴としてあげられる。しかし、本遺跡で今までに調査された例に比べて立地条件が非常に異なること、およびH-10とP-38の層位関係などから判断して、前者を住居跡、後者を土壇墓に分類した。

焼土は24か所発見されているが、これは51年度調査で検出された57か所から連続して分布している。わずかの高低差はあるが、互いに重複するものはない。さらに、狭い範囲に密集せず、間隔をおいて分布する傾向がみられる。

II黒層上面から検出された7か所のビットは排土と考えられるTa-d火山灰層が周囲に薄く広がっていることから晩期末のものと考えられる。

今回の調査区からは縄文時代早期から晩期にいたる3万6千点あまりの遺物が出土しているが、なかでもIV群b類に相当する土器の比較的多量に得られた。器種は注口、浅鉢、台付鉢、深鉢などがあるが、器形、文様などの変化が少なく時間的にある程度限定されるもの

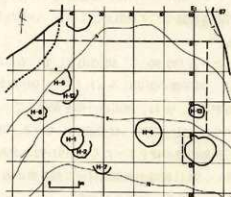


図8 縄文時代後期の住居跡

と考えられる。また各時期に比定される遺構の配置と同時期の遺物分布は類似する傾向がみられる。

備考 ^{14}C 年代測定結果：測定年月 昭和56年2月

測定者 京都産業大学理学部 山田治

試料番号 KSU- (375)

試料名称 木炭 (H-4床面より採取)

^{14}C 半減期 5,568年

測定結果 $(3,510) \pm (100)$ B. P.

日本経済研究会 第 1 卷 第 1 号

昭和 10 年 1 月 1 日発行

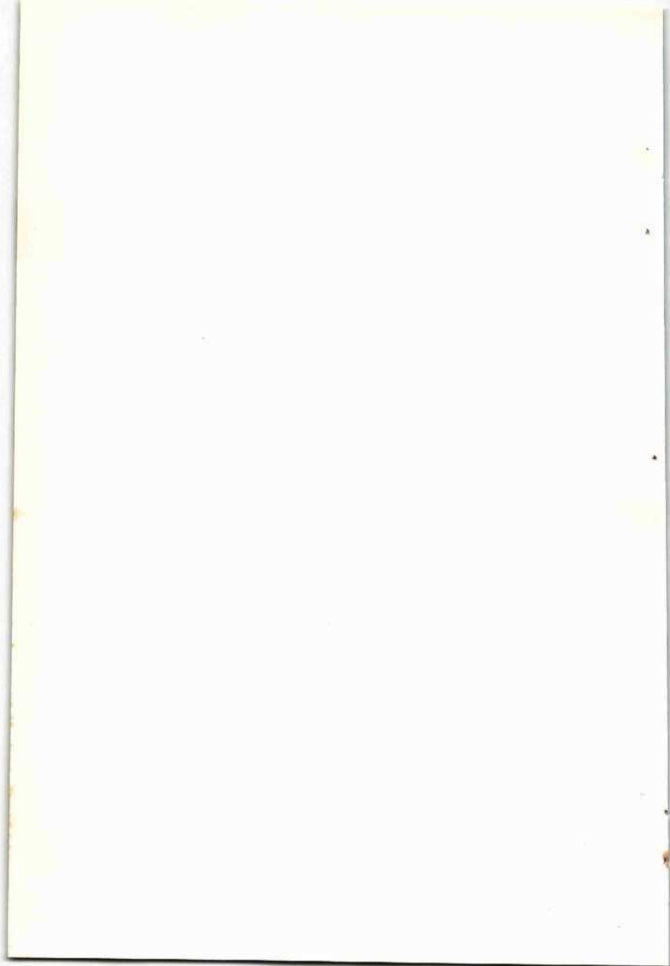
第 1 号 第 1 号

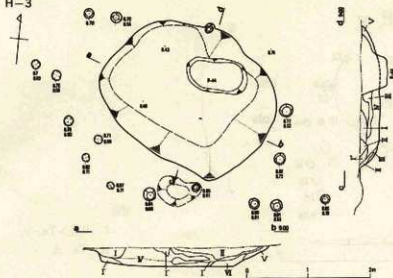
第 1 号 第 1 号

第 1 号 第 1 号

第 1 号 第 1 号

資料編



住居跡
H-3層位 I II黒) Ta-d₁+Ta-d₂IV Ta-d₂I' II黒+Ta-d₁>Ta-d₂V Ta-d₂II Ta-d₂>En-a+Ta-d₁VI En-a>II黒+Ta-d₁+Ta-d₂III Ta-d₁

遺物 計32点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	4		4	土器	II a-2	1		1	礎		17		17
"	II a-1	6		6	石器	I A 3 a	2		2	フリタ		2		2

拓影図

番号	分類	層位
1	I b 4	覆土
2	II a 1	"

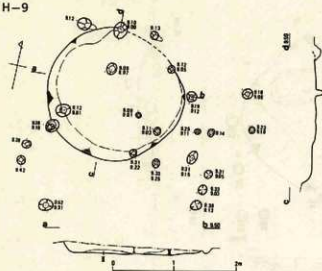
石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
3	I A 3 a	0.4	覆土	Obs.	5	X	0.5	覆土	Obs.
4	I A 3 a	(0.7)	"	Obs.					



図1 H-3

H-9



層位

I II黒>Ta-d₁

II Ta-d₂

遺物 計38点

名称	分類	数			名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	Ⅲb2	15		15	石器	ⅠA4a	1		1	フレイク		14		14
"	Ⅳb	7		7	"	ⅢA4	1		1					

拓影図

番号	分類	層位
1	Ⅲb2	覆土
2	Ⅲb2	"

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
3	ⅠA4b	(1.3)	覆土	Obs.	4	ⅢA4	1.4	覆土	Obs.

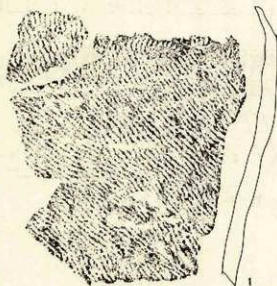
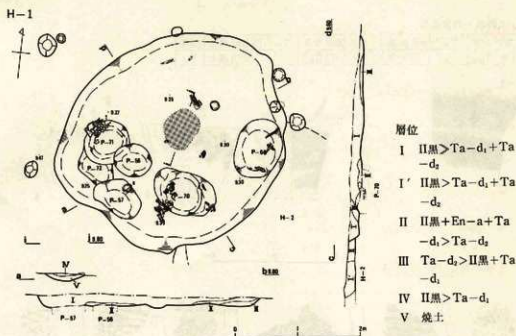


図2 H-9



遺物 計621点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	Ib-4	14	14	石器	IB1a	1	1	石器	IV A 2	1	1
"	IVb-	4	4	"	III A 1 b	1	1	"	IV B 1		1
"	IVb-	413	3 416	"	III A 1 c	1	1	"		29	1 30
"	IVc	1	3 4	"	III A 1 d	2	2	フレイク		132	2 134
石器	IA3a	1	1	"	III B 7	4	4	石製品		2	2
"	IA4a	2	2	"	IV A 2	2	2				

土器実測図

番号	分類	大きさ(cm)	層位	番号	分類	大きさ(cm)	層位	番号	分類	大きさ(cm)	層位
1	IVb	29.7×27.8	焼土	3	IVb	-×(16.3)	焼土	5	IVb	-×(5.0)	焼土
2	IVb	11.0×12.1	"	4		-×6.7	"				

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
6	Ib-4	焼土	10	IIIb-2	焼土	14	IVb	"	18	IVb	焼土
7	Ib-4	"	11	IVb	"	15	IVb	"	19	IVb	"
8	Ib-4	"	12	IVb	"	16	IVb	"	20	IVb	"
9	IIIb-2	"	13	IVb	"	17	IVb	"			"

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
21	IA3a	(0.9)	焼土	Obs.	26	III A 1 c	14	焼土	Ch e.	31	III B 7	6	床	Obs.
22	IA4a	0.9	"	"	27	III A 1 d	11	"	Obs.	32	IV A 2	81	焼土	Gr-Mal.
23	IA4a	(0.8)	"	"	28	III A 1 d	10	"	"	33	IV A 2	(58)	"	"
24	IB1a	8	"	"	29	III B 7	14	"	"	34	VI B 1	(715)	床	S a.
25	III A 1 b	22	"	Ch e.	30	III B 7	8	床	"	35	VA 1	72	焼土	Gr-Mal.

図3 H-1

土製品・石製品等

番号	分類	出土層	重層記	層位	材質	番号	分類	出土層	重層記	層位	材質
36	土製品		550	Ⅴa	Tu	37	土製品		(275)	Ⅴa	Tu

H-1

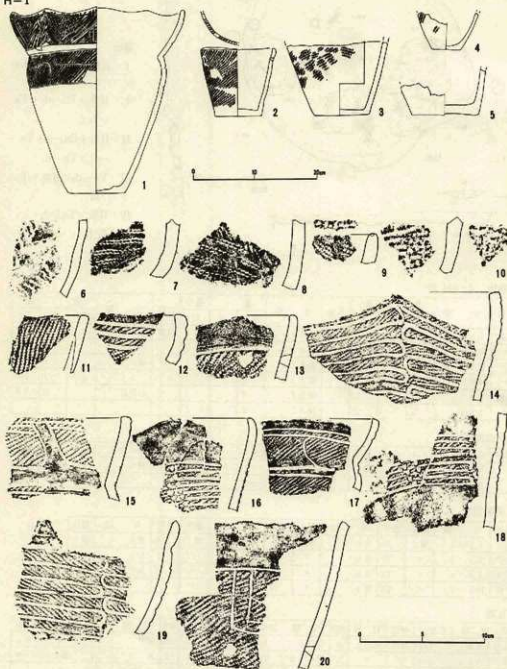


図4 H-1出土遺物

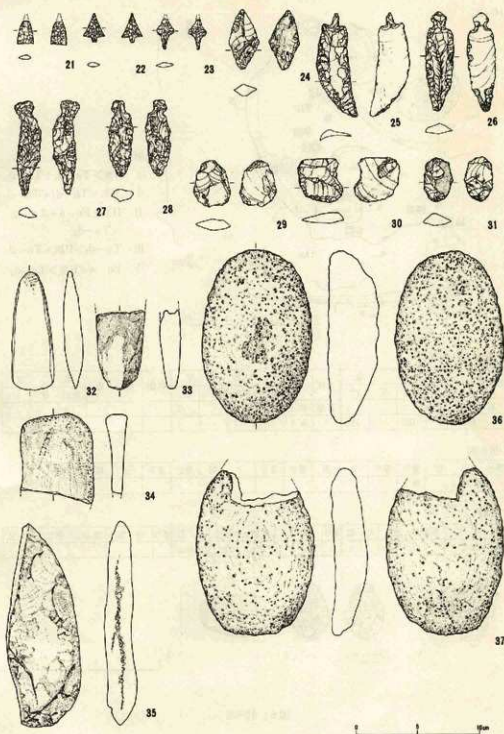
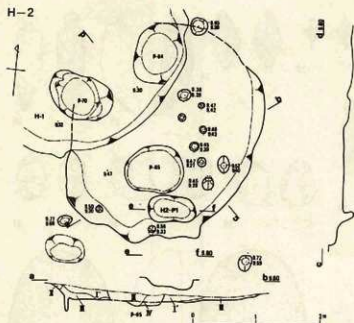


図5 H-1出土遺物

H-2



層位

- I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
 I' II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
 II II黒+En-a+Ta-d₁
 >Ta-d₂
 III Ta-d₂>II黒+Ta-d₁
 IV En-a+II黒>Ta-d₂

遺物 計168点

名称	分類	数			名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	II a-2	2		2	石器	III B 2 b	1		1			1		1
"	IV b	163		163	"	IV A-	1		1					

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	II a 2	覆土									

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
2	III B 2 b	1.2	覆土	Obs.	3	IV A	(20)	覆土	Gr-Mud.					



図6 H-2

H-4

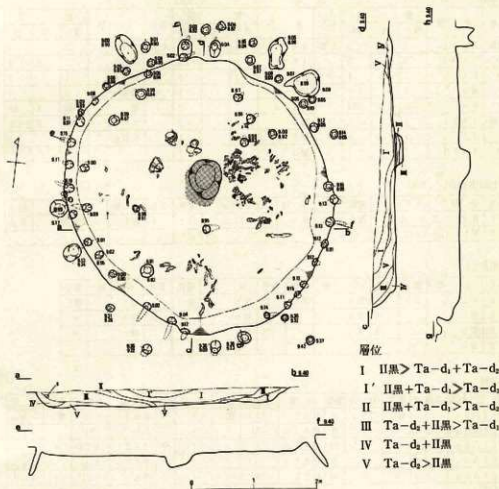


图7 H-4

遺物 計768点

名称	分類	数量		名称	分類	数量		名称	分類	数量	
		覆土	床			覆土	床			覆土	床
土器	II a-1	3	3	石器	IA-	1	1	石器	VA 2	1	1
"	II a-2	3	2	"	IB 2 a	1	1	"	NA 3		2
"	II b-3	1	1	"	IB 1	1	1	"	NA 4	1	1
"	II b-	1	1	"	III A 1 c	1	1	"	VA-	1	1
"	IV b	531	3	"	III A 1 d	2	2	縄		48	1
石器	IA 3 a	1	1	"	III B 7	2	1	フリック		149	2
"	IA 3 a	4	1	"	IV A 2	1	1	石製品	1		1
"	IA 4 b	1	1	"	IV B	1	1				

土器実測図

番号	分類	大きさ(cm)	層位	番号	分類	大きさ(cm)	層位	番号	分類	大きさ(cm)	層位
1	IV b	(22.8)×25.9	覆土	3	IV b	—×(17.3)	覆土	4	IV b	—×(8.5)	覆土
2	IV b	18.3×17.1	"								

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
5	II a-1	覆土	9	IV b	覆土	12	IV b	覆土	15	IV b	覆土
6	IV b	"	10	IV b	"	13	IV b	"	16	IV b	"
7	IV b	"	11	IV b	"	14	IV b	"	17	IV c	"
8	IV b	"									

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
18	IA 2 a	5.5	覆土	Ob s.	26	II B 1	(3.3)	覆土	S h.	34	NA 2	(180)	覆土	Gr-Mod.
19	IA 3 a	(0.4)	"	"	27	III A 1 c	(3)	"	Ob s.	35	IV B	(30)	"	"
20	IA 4 a	1.0	"	"	28	III A 1 d	18	"	"	36	VA 3	1,230	床	A w d.
21	IA 4 a	(0.9)	"	"	29	III A 1 d	10.6	"	"	37	VA 2	(120)	"	S a.
22	IA 4 a	0.6	"	"	30	III B 7	(14)	"	"	38	VA-	110	"	A n d.
23	IA 4 a	0.7	"	"	31	III B 7	12	"	"	39	VI A 3	1,230	覆土	A n d.
24	IA 4 b	0.9	"	"	32	III B 7	2.5	"	"	40	VI A 4	740	"	"
25	IA-	0.3	"	"	33	X	4.4	"	"	41	血形石製品	250	"	T u.



図8 H-4

H-4

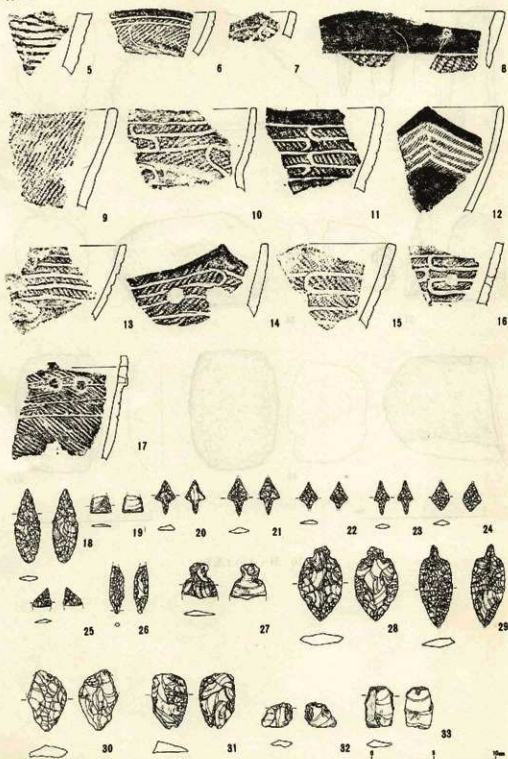


図9 H-4 出土遺物

H-4

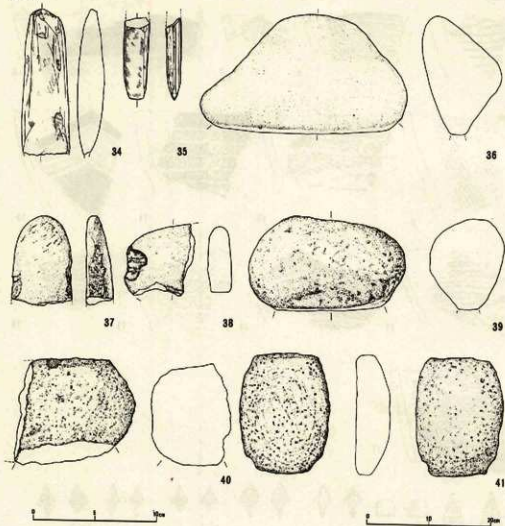
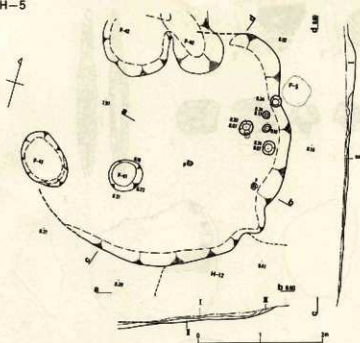


図10 H-4出土遺物

H-5



層位

I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂II Ta-d₂>II黒+En-aIII II黒+Ta-d₁>Ta-d₂

遺物 計109点

名称	分類	数量		名称	分類	数量		名称	分類	数量	
		覆土	床			覆土	床			覆土	床
土器	II a-2	2	2	石器	II A 2	1	1	石器	VI B 2	4	4
"	IV b	64	64	"	III B 4	2	2	漆		16	1
石器	I A 3 b	1	1	"	III B 7	1	1	フレイク		14	14
"	I A 4 b	1	1	"	IV A 3	1	1	石製品		1	1

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	II a-2	覆土	2	IV b	覆土	3	IV b	覆土

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
4	I A 2 b	0.5	覆土	O b s.	7	III B 7	10	覆土	O b s.	9	VI A 3	655	覆土	A n d.
5	I A 4 b	2.5	床	"	8	III B 4	26	床	"	10	VI B 2	370	"	S a.
6	II A 2	(2.4)	覆土	"										

土製品・石製品等

番号	分類	重量(g)	層位	材質
11	土製品	420	覆土	T u.

図 11 H-5

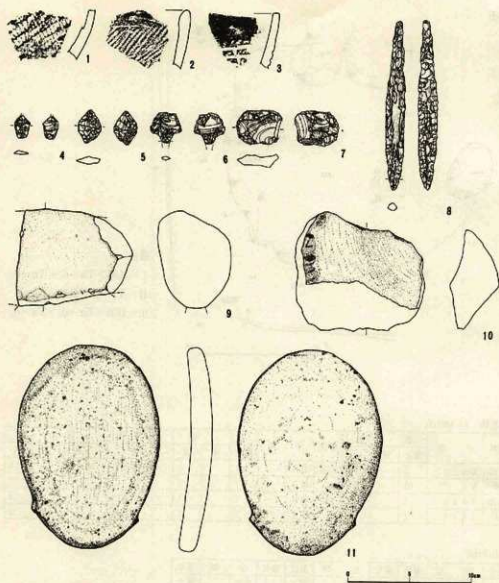
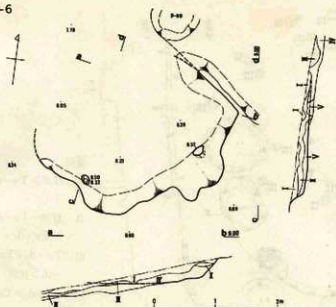


図 12 H-5 出土遺物

H-6



層位

- I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
 II II黒+En-a+Ta-d₂
 III II黒>En-a+Ta-d₂
 IV II黒+En-a+Ta-d₂
 V En-a>II黒
 VI II黒>En-a+Ta-d₂

遺物 計118点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	IVb	101	101	石器	III B 4	1	1	土器	III A 1 c	1	1
"	IVc	2	2	"	IV A 2	1	1	土器	III A 1 c	1	1
石器	III A 1 c	1	1								

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	IVb	覆土	3	IVb	覆土	4	IVb	覆土
2	IVb	"				5	IVb	覆土

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
6	III A 1 c	2.7	覆土	Obs.	7	III B 4	11.5	覆土	Obs.
					8	IV A 2	(28.4)	覆土	Mud.

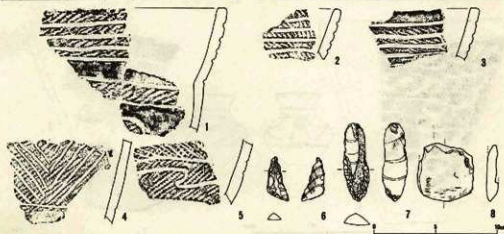
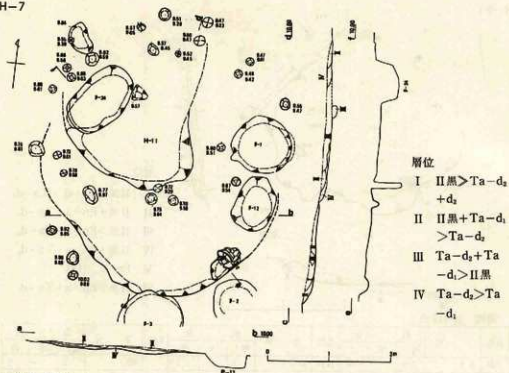


図13 H-6

H-7



遺物 計204点

名称	分類	数			名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IV b		166	166	石器	ⅧB 2		1	1	フリイタ		10	11	21
石	IV c	2		2	縄		2	12	14					

土器実測図

番号	分類	大きさ(cm)	層位
1	IV b	32.7×29.5	床
2	IV b	11.5×7.2	床

拓影図

番号	分類	層位
3	IV b	覆土

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
4	ⅧB 2	(51.7)	床	Sa.

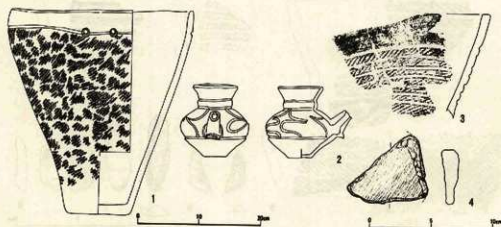
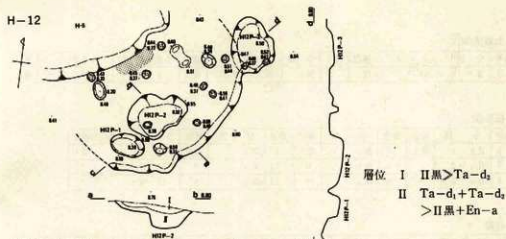


図14 H-7



遺物 計21点

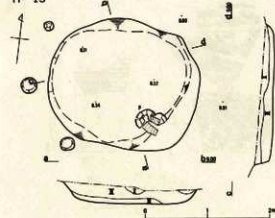
名称	分類	数 量			名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IVb	6		6	石器	III B 7	1		1		フレイク	11		11
石器	IA 4 b	1		1	礫		2		2					

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	IA 4 b	0.8	覆土	Obs.	2	III B 7	3.7	覆土	Obs.



H-13



層位 I II黒
II II黒>Ta-d₁
III Ta-d₁+Ta-d₂>II黒

遺物 計747点

名称	分類	数 量			名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	2		2	石器	IA 3 a	4		4	石器	IV A 2	2		2
"	II a-2	40		40	"	IA 3 b	1		1	"	IV A-	2		2
"	III b-1	1		1	"	IA 4 a	5		5	"	VI A 2	1		1
"	IV a	1		1	"	IA-	1		1	"	VII B 2	1		1
"	IV b	447		447	"	III A 1 c	1		1	礫		39		39
"	IV c	11		11	"	III B 4	1		1	フレイク		61		61
"	IV-	126		126										

図15 H-12、13

土器実測図

番号	分類	大きさ(cm)	層位	番号	分類	大きさ(cm)	層位	番号	分類	大きさ(cm)	層位
1	IV b	30.8×38.0	覆土	2	IV b	(24.5)×(24.5)	覆土	3	IV b	—×16.5	覆土

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
4	II a-2	覆土	7	IV a	覆土	10	IV b	覆土	13	IV b	覆土
5	II a-2	"	8	IV b	"	11	IV b	"	14	IV b	"
6	II a-2	"	9	IV b	"	12	IV b	"	15	IV b	"

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
16	IA 3 a	(0.4)	覆土	Obs.	21	IA-	0.6	覆土	Obs.	26	II A 1 C	(16)	覆土	Obs.
17	IA 4 a	(0.3)	"	"	22	IA 4 a	(0.8)	"	"	27	IV A 2	(48)	"	Gr-Mud.
18	IA 3 a	0.8	"	"	23	IA 4 a	(1.1)	"	"	28	IV A 2	54	"	Mud.
19	IA 3 a	0.1	"	"	24	IA 4 a	(1.5)	"	"	29	IV A-	160	"	Seh.
20	IA 3 b	(0.5)	"	"	25	III B 4	3.7	"	"					

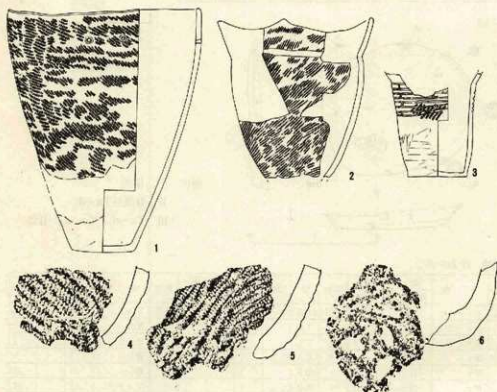


図 16 H-13 出土遺物

H-13

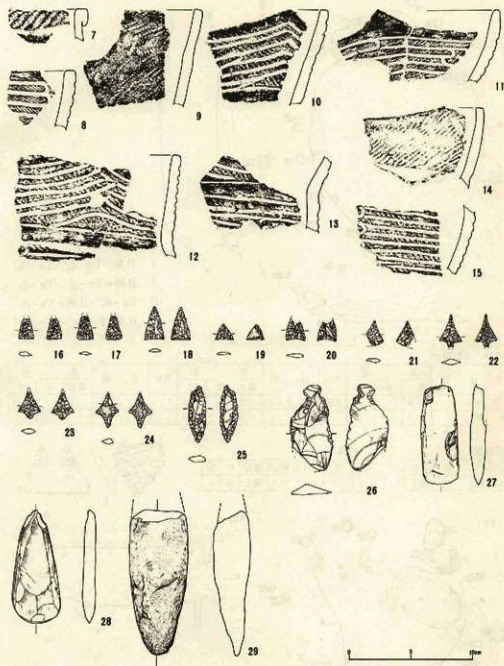
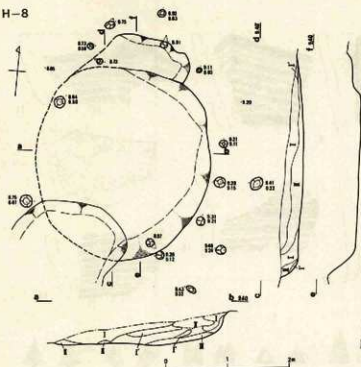


図17 H-13 出土遺物

H-8



層位

I II黒>Ta-d₁>Ta-d₂

I II黒+Ta-d₁>Ta-d₂

II Ta-d₂>II黒+Ta-d₁

III II黒+En-a>Ta-d₂

遺物 計30点

名称	分類	数		計	名称	分類	数		計	名称	分類	数		計
		覆土	床				覆土	床				覆土	床	
土器	IV b	6		6	石器	IA 3 a	1		1	フレイク		1		1
土器	IV c	20		20	石器	II	2		2					

拓影図

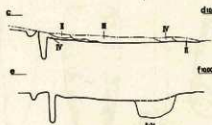
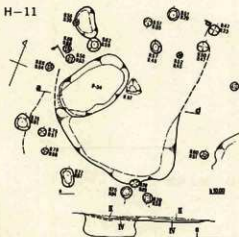
番号	分類	層位
1	IV b	覆土

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
2	IA 3 a	0.4	覆土	O b s.



H-11



層位

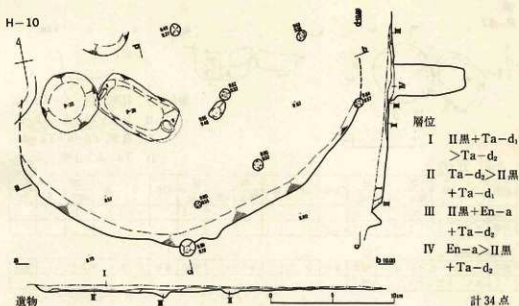
I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂

II II黒+Ta-d₁>Ta-d₂

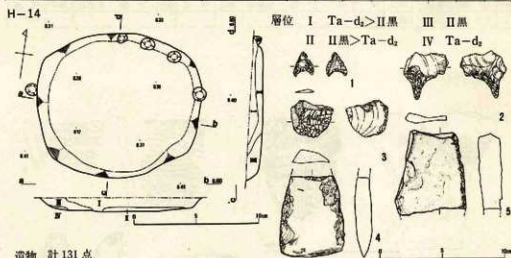
III Ta-d₂>Ta-d₁

IV Ta-d₂>Ta-d₁

図 18 H-8



名称	分 類	数	量	名称	分 類	数	量	名称	分 類	数	量
土器	覆土	床	計	土器	覆土	床	計	土器	覆土	床	計
I b-4	2		2	IV b	6		6	礎		1	1
II a-1	1		1	IV c	9		9	フレイク		8	8
II a-2	7		7								



名称	分 類	数	量	名称	分 類	数	量
土器	覆土	床	計	土器	覆土	床	計
I b-4	1		1	IV c	2		2
II a-1	14		14	石器 I A 3 a	1		1
II a-2	31		31	II I A 3 b	1		1
II b	1		1	II A 1	1		1
II b-2	8		8	III B 5	1		1
IV b	11		11	IV A 2	1		1
IV c	11		11	礎	9		9
V a	2		2	フレイク	36		36

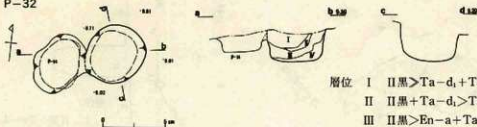
石器

番号	分 類	重量(g)	層位	材質
1	I A 3 b	0.6	覆土	Obs.
2	II A 1	6.6	"	"
3	III B 5	13	"	"
4	IV A 3	75	"	Bt-Mud.
5	V A 2	(12)	"	Gr-Mud.

図19 H-10、14

墓

P-32

層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂II II黒+Ta-d₁>Ta-d₂III II黒>En-a+Ta-d₁IV Ta-d₂>II黒

遺物 計112点

名称	分類	数			名称	分類	数			名称	分類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IV b	98		98	礎		2		2	フレイク		11		11
石器	VA 2	1		1										

土器実測図

番号	分類	大きさ(cm)	層位	番号	分類	大きさ(cm)	層位	番号	分類	大きさ(cm)	層位
1	IV b	22.5×21.7	覆土								

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
2	III a	覆土	4	IV b	覆土	5	IV b	覆土	6	IV c	覆土
3	IV b	n									

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
7	VA 2	{110.0}	覆土	Gr-Mud.										

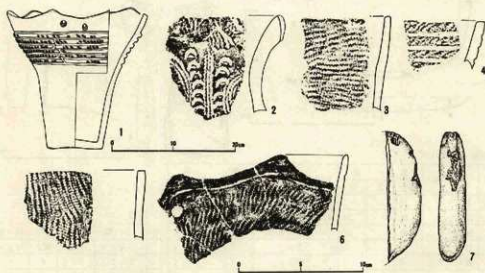
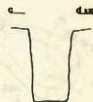
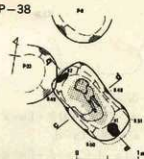


図20 P-32

P-38



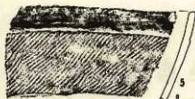
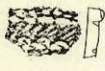
- 層位 I En-a > (II黒+Ta-d₁)
 II En-a+II黒 > (Ta-d₁+Ta-d₂)
 III Ta-d₁ > (II黒+Ta-d₂)
 IV En-a

遺物 計36点

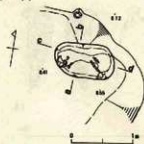
名称	分類	数量		名称	分類	数量		名称	分類	数量	
		覆土	床			覆土	床			覆土	床
土器	II a-2	12	12	土器	IV b	17	17		フレイク	2	2
#	III b-2	2	2	礎		3	3				

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	II a-2	覆土	3	IV b	覆土	4	IV b	覆土	5	IV b	覆土
2	III b-2	#									



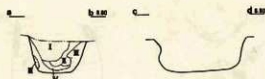
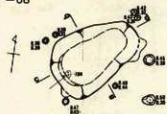
P-44



- 層位 I II黒 > Ta-d₁+Ta-d₂
 II Ta-d₂ > En-a+Ta-d₁
 III Ta-d₁
 IV Ta-d₂

図21 P-38, 44

P-68



- 層位 I Ta-d₂ > II 黒 + En-a
 II Ta-d₂ > Ta-d₁ + II 黒 + En-a
 III En-a > II 黒 + Ta-d₂
 IV II 黒 > Ta-d₁ + Ta-d₂ + En-a

遺物 計105点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	I b-4	2		石器	IA3b	1	2	石器	III A1d	1	1
"	II a-1	1	2	"	IA3-	6	6	"	III B2a	1	1
"	III b-	1	1	"	II B1	1	1	"	III B7	6	6
"	IV b	3	3	"	III A1b	3	3	"	フレイク	65	65
石器	IA3a	12	12								

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質	番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	IA3a	0.5	覆土	Obs.	7	IA3a	0.85	覆土	Chc.	13	IA3b	0.9	覆土	Obs.
2	IA3a	0.8	"	"	8	IA3a	1.1	"	Obs.	14	IA3b	1.3	"	"
3	IA3a	0.9	"	"	9	IA3a	1.2	"	"	15	IA3-	(2.5)	"	"
4	IA3a	0.6	"	"	10	IA3a	1.2	"	"	16	II B1	1.3	"	"
5	IA3a	0.5	"	"	11	IA3b	1.5	"	"	17	III A1b	20	"	"
6	IA3a	0.65	"	"	12	IA3b	(1.0)	"	"	18	III A1d	14	"	"

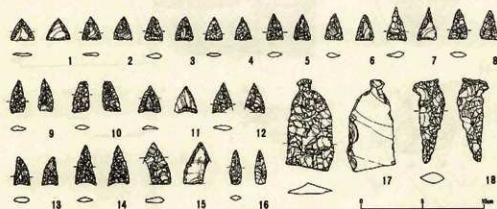


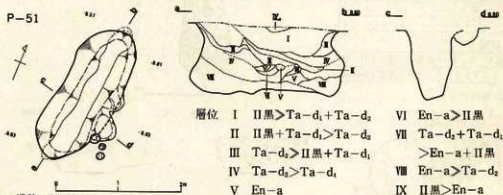
図22 P-68

Tビット
P-23

遺物 計1点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
	覆土	床	計		覆土	床	計
礎		1	1				

P-51



遺物 計61点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
	覆土	床	計		覆土	床	計		覆土	床	計
土器 I b-4		3	4	石器 I A 3 a		1	1	石器 VII A 3		1	1
" II a-1		1	1	" II A 1 b		1	1	礎		8	8
" II a-2		11	11	" III B 1 a		1	1	フレイク		29	29
" III b-		3	3	" III B 7		2	2				

拓影図

番号	分類	層位
1	II a 1	覆土
2	II a 1	"

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
3	I A 3 a	0.8	覆土	Obs.
4	II A 1 b	4	"	Chert
5	III B 1 a	18	"	"
6	III B 7	(9.5)	"	Obs.
7	X	3.4	"	"

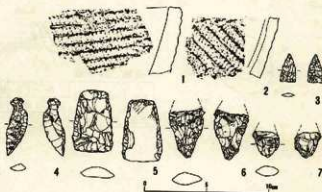
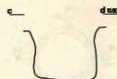
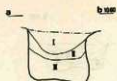
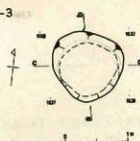


図23 P-23・P-51

P-3

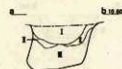
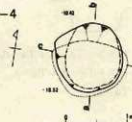


層位 I Ta-c
II II黒> (Ta-d₁)
III Ta-d₂> (II黒)

遺物 計2点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IV-	2		2										

P-4

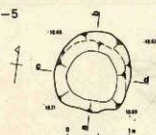


層位 I Ta-c
II II黒> (Ta-d₁)
III II黒+Ta-d₂

遺物 計3点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IVb	2		2	フレイク		1		1					

P-5

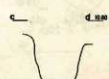
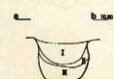
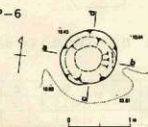


層位 I Ta-c
II II黒> (Ta-c₁)
III II黒> (Ta-d₁+Ta-d₂)

遺物 計5点

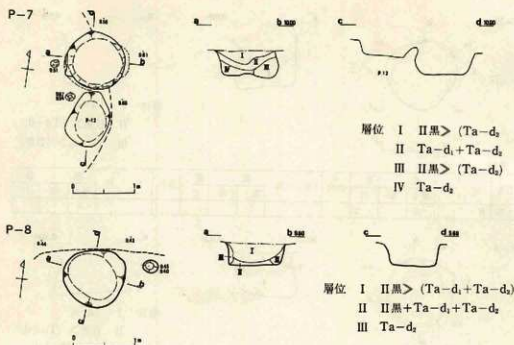
名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IIIb-3	1		1	土器	IVC	2		2	土器		2		2

P-6



層位 I Ta-c
II II黒> (Ta-d₁)
III II黒+ (Ta-d₂)

図25 P-3、4、5、6

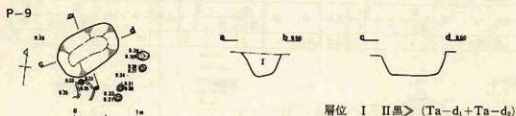


遺物 計25点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	IV b	1	1	礎		4	4	フレイク		5	5
"	V c	15	15								

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	V a	覆土			

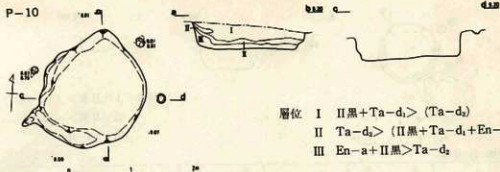


遺物 計4点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
礎		4	4								

図26 P-7、8、9

P-10



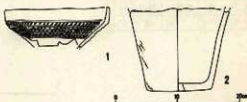
- 層位 I II黒+Ta-d₁>(Ta-d₂)
 II Ta-d₂>(II黒+Ta-d₁+En-a)
 III En-a+II黒>Ta-d₂

遺物 計44点

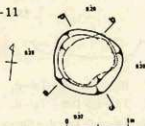
名称	分類	数		計	名称	分類	数		計	名称	分類	数		計
		覆土	床				覆土	床				覆土	床	
土器	IV b	38		38	礫		3		3	フレイク		3		3

土器実測図

番号	分類	大きさ(cm)	層位
1	IV b	17.0×(5.9)	覆土
2	IV b	—×(13.2)	"



P-11



- 層位 I Ta-c
 II II黒>(Ta-d₁+Ta-d₂)
 III Ta-d₂>(II黒)

遺物 計41点

名称	分類	数		計	名称	分類	数		計	名称	分類	数		計
		覆土	床				覆土	床				覆土	床	
土器	II a-1	6		6	土器	IV c	2		2	礫		6		6
"	II a-2	13		13	石器	IA 3 a	2		2	フレイク		3		3
"	IV b	9		9										

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	II a-1	覆土			

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
2	IA 3 a	0.4	覆土	Obs.
3	IA 3 a	(0.5)	"	Obs.

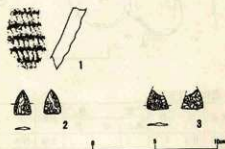
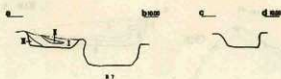
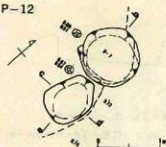


図27 P-10, 11

P-12

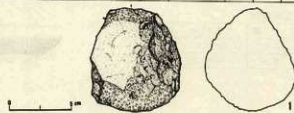
層位 I II黒>(Ta-d₂)II II黒>(Ta-d₂)III Ta-d₁

遺物 計24点

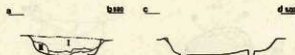
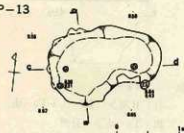
名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	I b-4	1		石器	VA 2	1	1	土器		1	1
"	II a-2	2		"	VA-	1	1	"	フレイク	4	4
"	IV b	14	14								

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	VA 2	790	床	Pe c



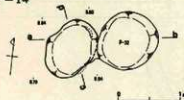
P-13

層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂II Ta-d₂>II黒+Ta-d₁III Ta-d₂>Ta-d₁+En-a

遺物 計9点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	IV B	13	13	フレイク		6	6				

P-14

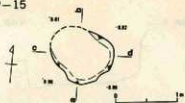
層位 I II黒>(Ta-d₁+Ta-d₂)II II黒+Ta-d₁>(Ta-d₂)III II黒>(En-a+Ta-d₁)IV Ta-d₂>II黒

遺物 計9点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	II a-2	1	1	土器	IV b	3	3	土器	IV C	5	5

図28 P-12、13、14

P-15



層位 I II 黑 > Ta-d₁

$$\text{II} \quad \text{Ta}-d_2 > (\text{II黑} + \text{Ta}-d_1)$$

遺物 計 11 点

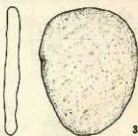
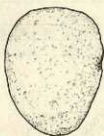
遺物 計口点																	
名称	石	器	数		量	名称	分	類	数		量	名称	分	類	数		量
			覆土	床					計	覆土					床	計	
土甕	Nb		8		8	フシク			2		2	石製品			1		1

拓影图

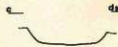
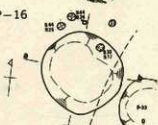
番号	分 類	層位	番号	分 類	層位
1	Nb	覆土	2	Nb	覆土

土製品・石製品等

番号	分類	重量(g)	層位	材質
3	風形製	755	覆土	Tu



P-16



層位	I	II黑
----	---	-----

II II黑>Ta-d₂

III II黑+Ta-d₂

遺物 計 11 点

造 物 計 画											
名 称 分 類		数 量		名 称 分 類		数 量		名 称 分 類		数 量	
		覆土	床 計			覆土	床 計			覆土	床 計
土器	I b-4	1	1	石器	III A 4	1	1	櫛		2	2
#	II a-1	1	1	#	X	1	1	フレイク		3	3
#	IV h	2	2								

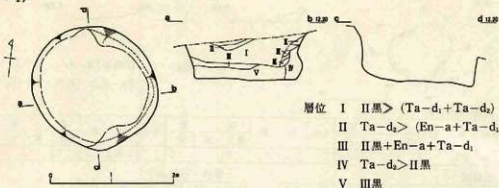
石器

重量	分 類	重量(g)	層位	材 質
1	田 A 4	1.4	覆土	O b s.
2	X	4.8	"	"



图 29 P-15, 16

P-17



- 層位 I II黒> (Ta-d₁+Ta-d₂)
 II Ta-d₂> (En-a+Ta-d₁)
 III II黒+En-a+Ta-d₁
 IV Ta-d₂>II黒
 V III黒

遺物 計10点

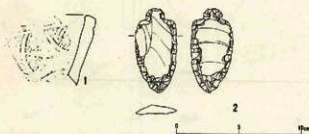
名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IV b	5		5	石器	III A 1 c	1		1	礎		4		4

拓影図

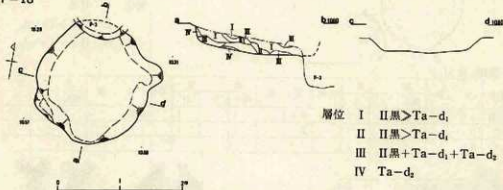
番号	分類	層位
1	IV b	覆土

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
2	III A 1 c	23	覆土	Sh.



P-18



- 層位 I II黒>Ta-d₁
 II II黒>Ta-d₁
 III II黒+Ta-d₁+Ta-d₂
 IV Ta-d₂

図30 P-17, 18

遺物 計 93 点

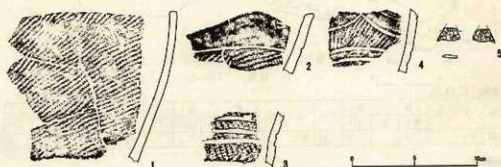
名称	分 類	数 量			名称	分 類	数 量			名称	分 類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IV b	67		67	磁		2		2					
石器	IA-	1		1										

拓影図

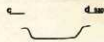
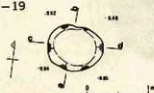
番号	分 類	層位	番号	分 類	層位	番号	分 類	層位	番号	分 類	層位
1	IV b	覆土	2	IV b	覆土	3	IV b	覆土	4	IV b	覆土

石器

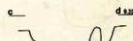
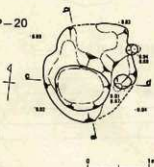
番号	分 類	重量(g)	層位	材質	番号	分 類	重量(g)	層位	材質	番号	分 類	重量(g)	層位	材質
5	IA-	0.5	覆土	Obs.										



P-19

層位 I II 黒>Ta-d₁+Ta-d₂

P-20



層位 I II 黒>Ta-d₁+Ta-d₂
 II II 黒+Ta-d₁>Ta-d₂
 III Ta-d₂>II 黒
 IV Ta-d₂
 V En-a+III 黒

図 31 P-19、20

遺物 計68点

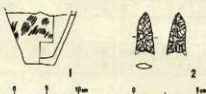
名称	分類	数 量			名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	2		2	土器	IV b	59		59	礎		1		1
"	III b-	1		1	石器	IA 3 b	1		1	フレイク		4		4

土器実測図

番号	分類	大きさ(cm)	層位
1	IV b	-X(11.0)	覆土

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
2	IA 3 b	(1.5)	覆土	Obs.



P-21



遺物 計14点

名称	分類	数 量			名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IV b	5		5	土器	IV C	4		4	フレイク		5		5

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	V a	覆土			



P-22



遺物 計5点

名称	分類	数 量			名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	II a-1	1		1	石器	IV A-	1		1	フレイク		2		2
"	IV b	1		1										

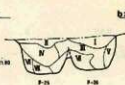
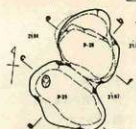
石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	IV A-	(2.8)	覆土	Mud.



図32 P-20、21、22

P-25, 26

層位 I II黒>Ta-d₁II En-a>Ta-d₁+Ta-d₂III En-a>II黒+Ta-d₁+Ta-d₂IV Ta-d₂>En-a+II黒V En-a+Ta-d₁>II黒+Ta-d₁VI En-a>Ta-d₂

VII En-a>III黒

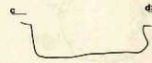
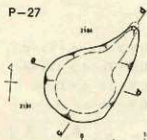
遺物 計4点

名称	分類	数	量
		覆土	床
土器	II a-2	3	3

遺物 計2点

名称	分類	数	量
		覆土	床
礎		2	2

P-27

層位 I II黒>(Ta-d₁+Ta-d₂)II En-a>(Ta-d₁)III Ta-d₂>(II黒+En-a)IV En-a (II黒+Ta-d₂)IV II黒+Ta-d₂>(En-a)VI Ta-d₂

VII III黒

VIII En-a

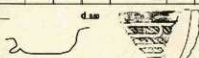
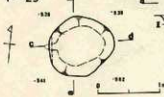
遺物 計10点

名称	分類	数	量
		覆土	床
土器	II a-2	2	2
瓦	II b-1	1	1

名称	分類	数	量
		覆土	床
土器	IV b	1	1

名称	分類	数	量
		覆土	床
礎		6	6

P-29

層位 I II黒 IV II黒>Ta-d₂II Ta-d₂ V Ta-d₂III Ta-d₁

遺物 計20点

名称	分類	数	量
		覆土	床
土器	I b-4	1	1
瓦	IV b	19	19

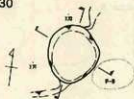
拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	IV b		2	IV b	覆土

図33 P-25、26、27、29

Ⅶ 美沢1遺跡

P-30

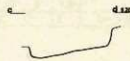
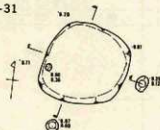


層位 I II黒
II II黒>Ta-d₂
III En-a

遺物 計11点

名称	分類	数 量			名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IV b	10		10	フレイク		1		1					

P-31



層位 I II黒>(Ta-d₁+Ta-d₂)
II II黒+Ta-d₁>(Ta-d₂)
III II黒+Ta-d₁+Ta-d₂
IV II黒+En-a>(Ta-d₁)

遺物 計1点

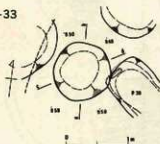
名称	分類	数 量			名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IV b	1		1										

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	IV b	覆土			



P-33



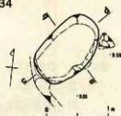
層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂

遺物 計1点

名称	分類	数 量			名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
礎		1		1										

図 34 P-30、31、33

P-34



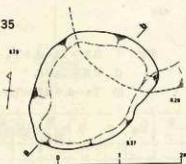
層位 I II黒>Ta-d₂
II Ta-d₁+Ta-d₂
III II黒>Ta-d₂

IV Ta-d₁>Ta-d₂
V Ta-d₂
VI III黒>En-a

遺物 計6点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IIa-2	2		2	フレイク		4		4					

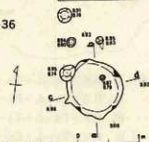
P-35



遺物 計2点

名称	分類	数量		
		覆土	床	計
	覆		2	2

P-36



層位 I II黒+Ta-d₂>(Ta-d₁)
II Ta-d₂>(II黒+Ta-d₁)
III Ta-d₂>Ta-d₁

遺物 計6点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IVb	3		3	石器	VA3	1		1		フレイク	2		2

石器

番号	分類	単位	層位	材質
1	VA3	210	覆土	Gr-Mud

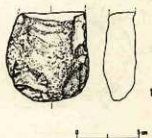
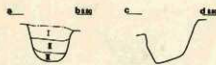
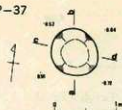


図35 P-34、35、36

P-37

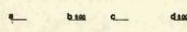
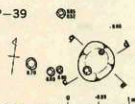


層位 I II黒>Ta-d₁
II Ta-d₂
III III黒+En-a

遺物 計50点

名称	分類	数		量	計	名称	分類	数		量	計	名称	分類	数		量	計
		覆土	床					覆土	床					覆土	床		
土器	IV b	49			49	フレイタ		1			1						

P-39

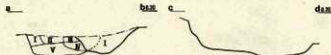
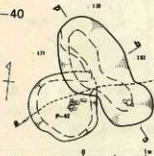


層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
II II黒+Ta-d₂
III Ta-d₁+II黒>Ta-d₂

遺物 計1点

名称	分類	数		量	計	名称	分類	数		量	計	名称	分類	数		量	計
		覆土	床					覆土	床					覆土	床		
礎		1			1												

P-40

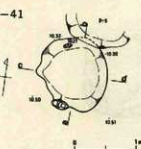


層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
II II黒+Ta-d₂>En-a
III II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
IV II黒>Ta-d₂+En-a
V Ta-d₂>II黒+Ta-d₁

遺物 計2点

名称	分類	数		量	計	名称	分類	数		量	計	名称	分類	数		量	計
		覆土	床					覆土	床					覆土	床		
石器	IA S a	1			1	礎		1			1						

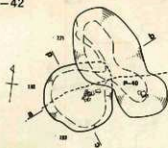
P-41



層位 I II黒+Ta-d₁+Ta-d₂
II II黒>Ta-d₂
III Ta-d₁+Ta-d₂
IV Ta-d₂

図36 P-37、39、40、41

P-42

層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂II II黒+Ta-d₂>En-aIII II黒>Ta-d₁+Ta-d₂

遺物 計4点

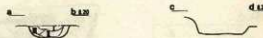
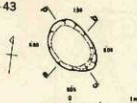
名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	Ⅳb	1		1	礎		1		1		フリイタ	1		1
石器	ⅢB7	1		1										

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	ⅢB7	2.2	覆土	Obs.



P-43

層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂II II黒>Ta-d₂+En-aIII II黒>En-a+Ta-d₁+Ta-d₂

遺物 計7点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	Ⅳb	7		7										

拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	Ⅳb	覆土	3	Ⅳb	覆土
2	Ⅳb	"			

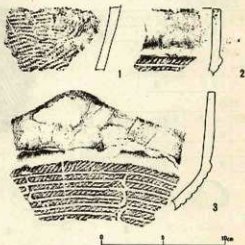
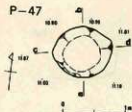


図37 P-42, 43

P-47

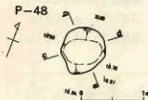


層位 I Ta-d₁>II黒
II II黒>Ta-d₁

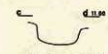


III Ta-d₁>II黒
IV II黒>En-a

P-48

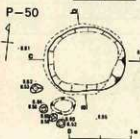


層位 I II黒
II II黒>Ta-d₁



III Ta-d₁+En-a

P-50



層位 I II黒+Ta-d₁>Ta-d₂ IV II黒>En-a+Ta-d₁+Ta-d₂
II II黒+En-a>Ta-d₁ V Ta-d₁+Ta-d₂>II黒+En-a
III Ta-d₂>II黒 VI Ta-d₂



遺物 計184点

名称	分類	数	量
土器	Ⅳc	1	1
"	Ⅴa	1	1
"	Ⅴc	84	84
石器	ⅢB7	2	2
"	Ⅲ	2	2
	横	8	8
	フレイク	86	86

土器実測図

番号	分類	大きさ(cm)	層位
1	Ⅴc	27.8×22.7	覆土

拓影図

番号	分類	層位
2	Ⅴb	覆土

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
3	ⅢB7	4.2	覆土	Ag a.
4	"	5.8	"	Ob a.
5	Ⅲ	9.3	"	"

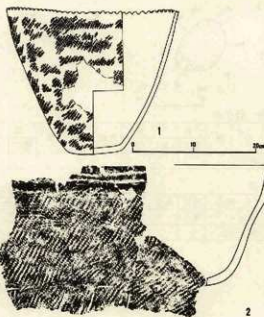
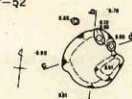


図38 P-40、48、50

P-52

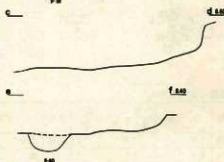
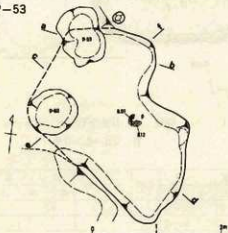


層位 I II黒>Ta-d₁
II Ta-d₂>II黒

遺物 計12点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	IV b	4	4	土		2	2	フレイク		2	2
土器	IV C	4	4								

P-53



層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
II II黒>En-a+Ta-d₁+Ta-d₂
III II黒+Ta-d₁+Ta-d₂>En-a
IV II黒+Ta-d₂>En-a
V En-a>II黒+Ta-d₁+Ta-d₂
VI En-a>II黒
VII II黒+En-a+Ta-d₁>Ta-d₂
VIII En-a

遺物 計47点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	IV b	35	35	土		12	12				
				フレイク							

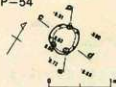
土器実測図

番号	分類	大きさ(cm)	層位
1	IV b	20.8×(7.8)	覆土



図39 P-52、53

P-54



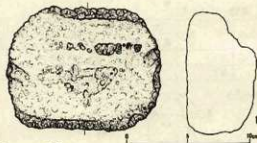
層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂

遺物 計5点

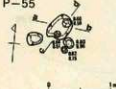
名称	分類	数量		
		覆土	床	計
土器	Ⅳc	3		3
石器	ⅤB2	1		1
#	ⅤB3#	1		1

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	ⅤB2	6,500	覆土	And



P-55



層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂

II Ta-d₂>II黒

遺物 計13点

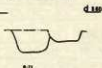
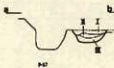
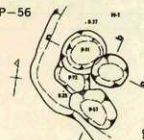
名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	1		1	石器	ⅢB7	1		1	フレイク		4		4
#	Ⅴc	5		5	礎		2		2					

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	ⅢB7	24	覆土	O b s.



P-56



層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂

II II黒+En-a>Ta-d₁+Ta-d₂

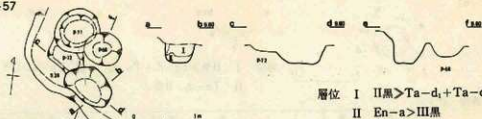
III En-a>II黒+Ta-d₁+Ta-d₂

遺物 計3点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	II a-2	1		1	土器	ⅣC	1		1	フレイク		1		1

図40 P-54、55、56

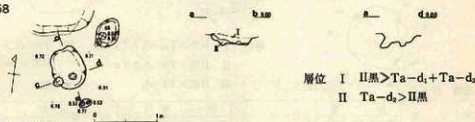
P-57



遺物 計3点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	II a-2	1	1	フレイク	2	2					
		覆土	床			覆土	床			覆土	床
			計				計				計

P-58



遺物 計10点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	II a-1	1	1	土	2	2			フレイク	4	4
	IV b	3	3								
		覆土	床			覆土	床			覆土	床
			計				計				計

P-59



遺物 計1点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
	フレイク	1	1								
		覆土	床			覆土	床			覆土	床
			計				計				計

P-60

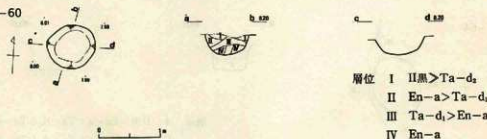


図41 P-57, 58, 59, 60

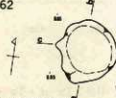
P-61


層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂ III En-a>II黒
II Ta-d₂>II黒

遺物 計1点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
	フレイク	1		1										

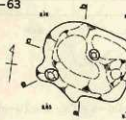
P-62


層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂ IV Ta-d₂>
II II黒+Ta-d₁>Ta-d₂ II黒+Ta-d₁
III II黒>Ta-d₁ V 焼土

遺物 計8点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	1		1	石器	III A 1 b	1		1			フレイク	2	2
"	II a-2	4		4										

P-63


層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
II Ta-d₂>II黒

遺物 計8点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	1		1	土器	IV C	1		1			フレイク	5	5
"	II a-2	1		1										

P-64

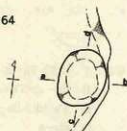
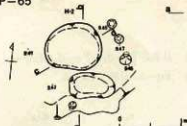

層位 I II黒>En-a+Ta-d₁+Ta-d₂
II II黒+En-a>Ta-d₂+Ta-d₁
III En-a>II黒+Ta-d₂

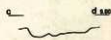
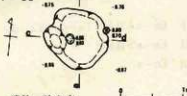
図42 P-61, 62, 63, 64

P-65



層位 I II黒>En-a+Ta-d₁+Ta-d₂
 II II黒>En-a
 III En-a

P-66



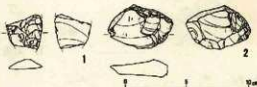
層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
 II Ta-d₂

遺物 計3点

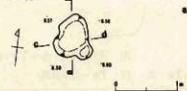
名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IVc	1		1	石器	III A 1 b	1		1		IX		1	1

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	III A 1 b	(5.5)	覆土	Sh.
2	IX	2.2	"	O b s.



P-67



層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂ III Ta-d₂>Ta-d₁
 II Ta-d₂>II黒+Ta-d₁ IV Ta-d₂>II黒

遺物 計67点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b-4	1		1	土器	IVc	1		1	フレイク		5		5

P-69

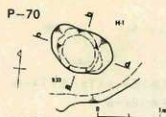


層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
 II Ta-d₂>II黒

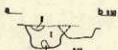
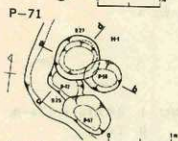
遺物 計1点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
石器	VB 3	1		1										

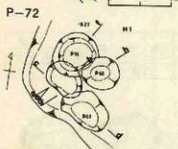
図43 P-65、66、67、69



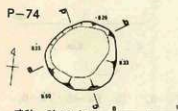
層位 I II黒>Ta-d₁+Ta-d₂+En-a
II En-a>II黒+Ta-d₂



層位 I En-a+II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
II En-a>II黒
III En-a



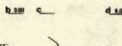
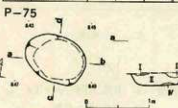
層位 I Ta-d₂>II黒+Ta-d₁ III En-a+II黒>Ta-d₁
II II黒>Ta-d₂+Ta-d₁



層位 I II黒 III II黒>Ta-d₁+Ta-d₂
II Ta-d₂>II黒+Ta-d₁ IV Ta-d₂>II黒

遺物 計19点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	II a-1	1	1	土器	IV b	2	2	土器	IV c	4	4
土器	II a-2	2	2	土器	IV-	3	3	土器	IV d	7	7



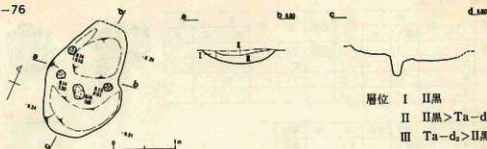
層位 I II黒
II II黒>Ta-d₂
III II黒>Ta-d₁
IV Ta-d₂

遺物 計6点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
土器	IV c	1	1	土器	IV d	5	5

図44 P-70、71、72、74、75

P-76

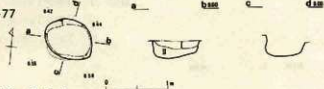


層位 I II黒
II II黒>Ta-d₂
III Ta-d₂>II黒

遺物 計28点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IV a	2		2	石器	III B 7	1		1		フレイク	10		10
"	IV b	12		12		樫	3		3					

P-77

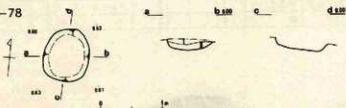


層位 I II黒>Ta-d₂
II Ta-d₂>II黒

遺物 計35点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	II a-2	1		1	土器	IV-	3		3		樫	1		1
"	II b	2		2	"	V a	4		4		フレイク	24		24

P-78

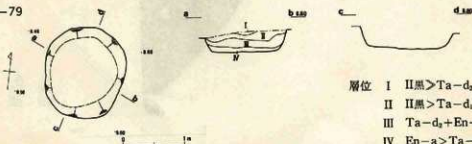


層位 I II黒
II II黒>Ta-d₂

遺物 計5点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IV b	1		1	土器	IV c	3		3		フレイク	1		1

P-79



層位 I II黒>Ta-d₂
II II黒>Ta-d₁
III Ta-d₂+En-a
IV En-a>Ta-d₂

図45 P-76、77、78、79

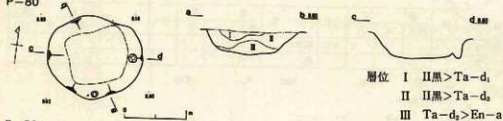
遺物 計77点

名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計
土器	IIa-2	1		1	石器	IA4a	1		1
"	IVb	1		1		礫	7		7
"	IV-	52		52		フレイク	6		6
"	Va	9		9					

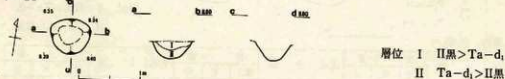
拓影図

番号	分類	層位	番号	分類	層位
1	Va	覆土	2	Va	覆土

P-80



P-81



遺物 計50点

名称	分類	数 量			名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	Vc	32		32	石器	VB3	1		1			フレイク	12	12
石器	IA4a	1		1		礫	4		4					

拓影図

番号	分類	層位
1	Vc	覆土

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
2	IA4a	(1.5)	覆土	Oba

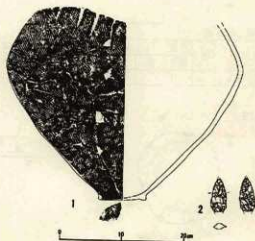
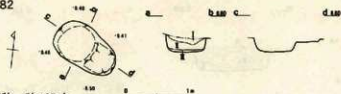


図46 P-80, 81

P-82



層位 I II黒>Ta-d₁
II Ta-d₂>II黒
III En-a>Ta-d₂

遺物 計137点

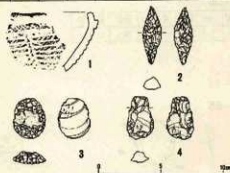
遺物 計 137 点														
名称	分 類	数			名称	分 類	数			名称	分 類	数		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	I b - 4	1		1	土器	IV -	41		41	石器	III B ?	1		1
"	II a - 2	9		9	石器	I A 4 b	1		1	曜		3		3
"	IV a	62		62	"	III B 3	1		1	フレイク		9		9
"	IV b	9		9										

拓影図

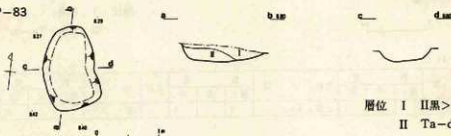
番号	分類	層位
1	IVb	覆土

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
2	IA4b	3.6	覆土	Obs.
3	III B 3	7.4	"	"
4	III B 7	6.0	"	"



P-83



層位 I II黒>Ta-d₂
II Ta-d₂+II黒

遺物 計11点

遺物 計 11.35													
名称	分 類	数		計	名称	分 類	数		計	名称	分 類	数	
		覆土	床				覆土	床				覆土	床
土器	IV b	2		2	石器	IB 2 a	1	1		フレイク	4		4
"	IV c	2		2	曜		2	2					

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	IB2a	34	覆土	Obs.

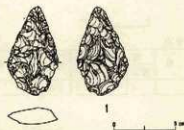
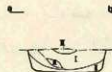
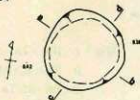


図47 P-82、83

P-84



層位 I II黒>Ta-d₂
II En-a>Ta-d₂
III Ta-d₂

遺物 計4点

名称	分類	数 量			名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	Ⅳc	1		1	石器	ⅠA3a	1		1	礎		2		2

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	ⅠA3a	1.5	覆土	Obn.



P-85

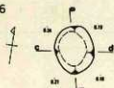


層位 I II黒
II II黒>Ta-d₂

遺物 計11点

名称	分類	数 量			名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	Ⅲb	1		1	土器	Ⅳc	9		9	礎		1		1

P-86



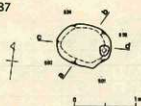
層位 I II黒>Ta-d₂
II II黒+Ta-d₂
III Ta-d₂>II黒

遺物 計9点

名称	分類	数 量			名称	分類	数 量		
		覆土	床	計			覆土	床	計
土器	8	8		8	土器	Ⅳc	1		1

図48 P-84、85、86

P-87

層位 I II黒>Ta-d₂II Ta-d₂>II黒III Ta-d₁+Ta-d₂

遺物 計28点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	Ⅱa	25		25	曜		2		2	フレイク		1		1

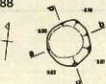
土器実測図

番号	分類	大きさ(cm)	層位
1	Ⅱb-1	一×(13.8)	覆土



1 2m

P-88

層位 I II黒+Ta-d₂II II黒>Ta-d₂III Ta-d₂

遺物 計15点

名称	分類	数量			名称	分類	数量			名称	分類	数量		
		覆土	床	計			覆土	床	計			覆土	床	計
土器	Ⅱa-1	6		6	土器	Ⅱb	1		1	曜		4		4
曜	Ⅱa-2	2		2	石器	ⅠA3b	1		1	フレイク		1		1

石器

番号	分類	重量(g)	層位	材質
1	ⅠA3b	{13}	覆土	Obs.



図49 P-87, 88

VII 美沢1遺跡

美沢1遺跡出土一覧表

F No	土 器			合計	その他 の遺物	備考	F No	土 器			合計	その他 の遺物	備考
	分 類	点数	点 数					分 類	点数	点 数			
F-1	Ⅳc	9		9	骨片								
F-2	Ⅳc	10	曜	3	17	骨片	F-18	Ⅱa-2	2	ⅠA4a	1	27	骨
			フレイク	4				Ⅱb	1	ⅡB1	1		
F-3	Ⅳb	3	曜	1	7			Ⅱb-Vc	16	ⅢA1b	1		
	Ⅳb	1	フレイク	2				Ⅴa	1	石製品	1		
F-4	Ⅱb	1	ⅠA4a	1	22	骨片		Ⅴc	3				
	Ⅳc	7	ⅢB-	1		炭化物	F-19	Ⅱb	1	ⅤB3	1	17	骨
	Ⅴc	2	フレイク	10				Ⅴc	11	フレイク	4		
F-5	Ⅳb	2	ⅢB7	1	34	骨	F-20					0	骨
	Ⅳc	4	曜	1		炭化物	F-21	Ⅱb	1	ⅤA2	1	3	
	Ⅴc	21	フレイク	5						フレイク	1		
F-6	欠番						F-22	Ⅱb	18	ⅢA1c	1	30	骨
F-7	欠番							Ⅳc	3	フレイク	8		
F-8	欠番						F-23	Ⅱb	8	ⅢB4	1	15	骨
F-9					0					ⅢB7	1		
F-10	欠番									曜	3		
F-11					0					フレイク	2		
F-12	Ⅲb-	1	曜	1	14	骨	F-24	Ⅱa-2	2	フレイク	3	8	骨
	Ⅳc	5	フレイク	2				Ⅱb	3				
	Ⅴc	5					F-25	Ⅳc	21	ⅤA2	1	34	骨
F-13					0	骨				曜	2		
F-14	Ⅲa	2	ⅠA3a	1	51	骨				フレイク	10		
	Ⅳc-Vc	24	フレイク	12			F-26	Ⅱa-1	3	ⅠA4a	1	109	骨
	Ⅴa	10						Ⅱb	1	曜	10		
	Ⅴc	2						Ⅳc	3	フレイク	21		
F-15	Ⅰb-4	2	ⅠA4a	1	45	骨		Ⅱb-Vc	67				
	Ⅲa	1	ⅢB2	1				Ⅴc	3				
	Ⅳc	4	ⅢA-	1			F-27	Ⅰb-4	1	ⅡB1	1	50	骨
	Ⅲb-Vc	9	曜	5				Ⅱa-1	1	ⅤA2	1		炭化物
	Ⅴc	4	フレイク	17				Ⅱa-2	1	フレイク	11		
F-16	Ⅰb-4	1	ⅠA-	1	29	骨		Ⅱb	4				
	Ⅱb	8	ⅠB2b	1				Ⅳc	2				
	Ⅳc	15	ⅢA2	1				Ⅳc-Vc	28				
	Ⅴb	1	ⅠA3b	1			F-28	Ⅱb	1	曜	1	7	骨
F-17	Ⅲb-2	2	ⅠA-	1	196			Ⅳc	2	フレイク	3		
	Ⅱb	21	ⅢA-	1									
	Ⅲb-Vc	86	ⅢB7	1									
	Ⅴa	7	ⅤA3	1									
	Ⅴc	17	曜	18									

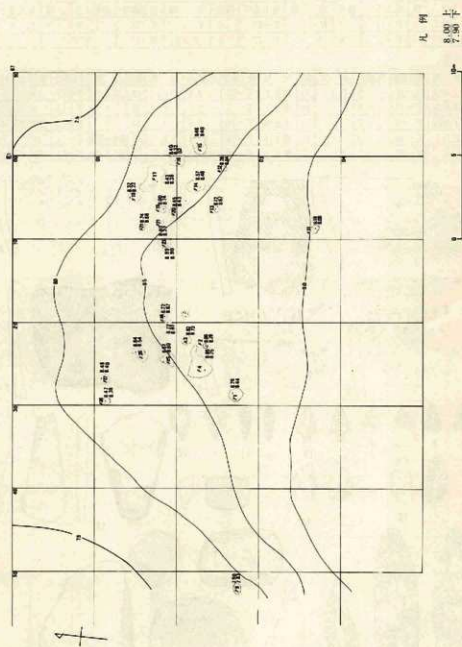


図 50 地形分布

焼土出土の遺物

土器

番号	分類	焼土番号	番号	分類	焼土番号	番号	分類	焼土番号	番号	分類	焼土番号
1	Ⅳb	F-16	3	Ⅳc	F-17	5	Ⅴc	F-12	7	Ⅴc	F-5
2	"	F-5	4	"	F-17	6	"	F-17			

石器等

番号	分類	焼土番号	重量(g)	材質	番号	分類	焼土番号	重量(g)	材質	番号	分類	焼土番号	重量(g)	材質
8	I A3a	F-14	1.0	Obs.	13	ⅢB4	F-23	2.8	Obs.	18	ⅤA2	F-27	230.0	Per.
9	I A3b	F-17	0.5	"	14	ⅢB7	F-5	5.1	"	19	"	F-25	60.5	Gr-Mud.
10	I A4a	F-26	(1.7)	"	15	I B2b	F-16	7.6	"	20	"	F-21	(230.0)	Per.
11	ⅡB1	F-18	0.9	"	16	ⅢA1b	F-18	23.2	Sh.	21	粗形石製品	F-18	(110)	Ts.
12	"	F-27	5.3	Sh.	17	ⅣA2	F-16	(16.9)	Mud.	22	ⅤA3	F-17	510.0	Gr-Mud.

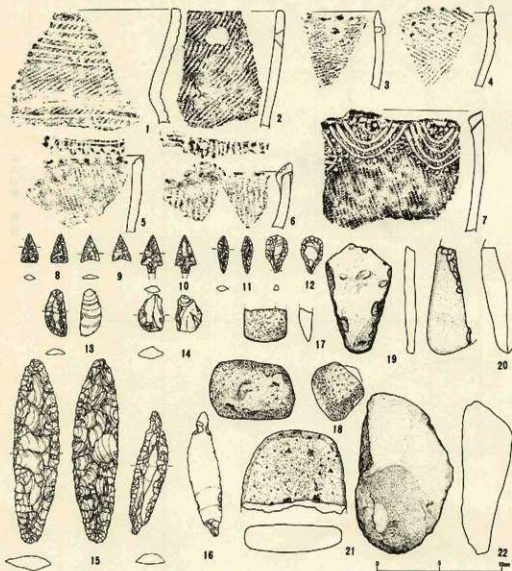


図 51 焼土出土の遺物

包含層出土の遺物

(1) 土 器

II 黒層出土の土器

番号	分類	発掘区	大きさ (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)
1	I b-4	E ₁ -68-19	17.1×10.4	30	IV b	E ₁ -67-24	—	59	IV b	E ₁ -67-11	—
2	"	E ₁ -68-15	(32.5)×(24.1)	31	"	E ₁ -67-42	—	60	IV c	E ₁ -67-12	—
3	"	E ₁ -68-15	—	32	"	E ₁ -67-02	—	61	"	E ₁ -67-13	—
4	"	E ₁ -68-06	—	33	"	E ₁ -67-43	—	62	"	E ₁ -67-02	—
5	"	E ₁ -67-11	—	34	"	E ₁ -67-42	—	63	"	E ₁ -67-13	—
6	"	E ₁ -68-06	—	35	"	E ₁ -67-24	—	64	"	E ₁ -67-22	—
7	"	E ₁ -68-15	—	36	"	E ₁ -67-54	—	65	"	E ₁ -67-13	—
8	"	E ₁ -67-02	—	37	"	E ₁ -67-42	—	66	"	E ₁ -67-65	—
9	"	E ₁ -68-08	—	38	"	E ₁ -67-24	—	67	"	E ₁ -67-11	—
10	II a-1	E ₁ -67-02	—	39	"	E ₁ -67-02	—	68	V c	E ₁ -67-32	(32.0)×(5.3)
11	"	E ₁ -67-14	—	40	"	E ₁ -67-53	—	69	"	E ₁ -67-13	12.8×12.8
12	"	E ₁ -67-07	—	41	"	E ₁ -67-13	—	70	"	E ₁ -67-22	31.0×(12.0)
13	"	E ₁ -67-03	—	42	"	E ₁ -67-02	—	71	"	E ₁ -67-53	—
14	II a-2	E ₁ -69-12	—	43	"	E ₁ -67-14	—	72	V a	E ₁ -67-32	—
15	"	E ₁ -67-33	—	44	"	E ₁ -67-25	—	73	"	E ₁ -67-11	—
16	"	E ₁ -68-09	—	45	"	E ₁ -67-14	—	74	V b	E ₁ -67-32	—
17	"	E ₁ -67-15	—	46	"	E ₁ -67-24	—	75	"	E ₁ -67-11	—
18	III b-2	E ₁ -67-16	—	47	"	E ₁ -67-14	—	76	"	E ₁ -67-33	—
19	"	E ₁ -67-42	—	48	"	E ₁ -67-14	—	77	V c	E ₁ -67-42	—
20	III b-3	E ₁ -67-16	—	49	"	E ₁ -67-24	—	78	"	E ₁ -67-—	—
21	IV b	E ₁ -67-42	18.9×11.0	50	"	E ₁ -67-65	—	79	"	E ₁ -67-33	—
22	"	E ₁ -67-35	19.7×20.2	51	"	E ₁ -67-5	—	80	"	E ₁ -67-—	—
23	"	E ₁ -67-24	—×(18.3)	52	"	E ₁ -67-24	—	81	"	E ₁ -67-—	—
24	"	E ₁ -67-35	26.1×(26.7)	53	"	E ₁ -67-24	—	82	"	E ₁ -67-54	—
25	"	E ₁ -67-24	—×(10.3)	54	"	E ₁ -67-35	—	83	"	E ₁ -67-21	—
26	"	E ₁ -67-42	—×(11.0)	55	"	E ₁ -67-02	—	84	"	E ₁ -67-22	—
27	"	E ₁ -67-06	—×(9.9)	56	"	E ₁ -67-32	—	85	"	E ₁ -67-01	—
28	"	E ₁ -67-42	—×(11.0)	57	"	E ₁ -67-32	—	86	"	E ₁ -67-32	—
29	"	E ₁ -67-34	—	58	"	E ₁ -67-46	—				

(2) 石 器

II 黒層出土の石器等

番号	分類	発掘区	重量g	材質	番号	分類	発掘区	重量g	材質	番号	分類	発掘区	重量g	材質
1	I A 3b	E ₁ -69-01	(1.8)	Obs.	5	I A 3b	E ₁ -69-01	(0.7)	Obs.	9	I A 3a	E ₁ -67-14	1.7	Obs.
2	I A 3a	E ₁ -69-06	(0.5)	"	6	"	E ₁ -67-32	(1.5)	"	10	I A 4a	E ₁ -69-12	1.1	"
3	I A 3b	E ₁ -69-12	(0.6)	"	7	"	E ₁ -67-14	(1.7)	"	11	"	E ₁ -67-14	2.6	"
4	"	E ₁ -69-01	(1.4)	"	8	I A 3a	E ₁ -67-25	0.6	"	12	"	E ₁ -67-26	(0.7)	"

番号	分類	発掘区	重層	材質	番号	分類	発掘区	重層	材質	番号	分類	発掘区	重層	材質
13	I A 4a	E ₁ -69-01	0.7	Obs.	44	III A 1d	E ₁ -68-14	5.5	Obs.	75	IV A 2	E ₁ -68-14	43	Gr-Md
14	I A 2a	E ₁ -67-71	0.8	"	45	III A 1c	E ₁ -67-14	9.6	"	76	"	E ₁ -67-08	(70.0)	"
15	I A 5a	E ₁ -69-13	(1.1)	"	46	III A 1d	E ₁ -69-12	18.0	Che.	77	"	E ₁ -67-04	"	"
16	"	E ₁ -69-10	(1.4)	Che.	47	"	E ₁ -69-10	10.0	Obs.	78	"	E ₁ -67-42	(58.0)	Sch.
17	I B 1b	E ₁ -67-13	3.6	Obs.	48	III A 1b	E ₁ -68	21.0	"	79	IV A 3	E ₁ -67-24	(40.0)	Gr-Md
18	I B 1a	E ₁ -67-23	6.1	"	49	III A 1d	E ₁ -67-45	16.0	"	80	IV A -	E ₁ -68-19	(55.0)	"
19	"	E ₁ -67-14	9.8	"	50	"	E ₁ -69-13	1.9	"	81	IV A 2	E ₁ -67-42	(186.0)	"
20	I B 1b	E ₁ -67-43	12.0	"	51	III A 4	E ₁ -67-13	2.4	"	82	"	E ₁ -67-13	(110.0)	"
21	I B 1a	E ₁ -68-18	20.0	Sh.	52	III A 2	E ₁ -69-02	(1.9)	"	83	"	E ₁ -67-32	74.0	"
22	I B -	E ₁ -67-52	(50.0)	Obs.	53	III A 3	E ₁ -69-12	2.8	"	84	"	E ₁ -67-14	13.8	"
23	II A 2	E ₁ -67-22	(1.6)	"	54	"	E ₁ -69-03	2.9	"	85	"	E ₁ -67-43	270.0	"
24	"	E ₁ -67-24	(3.6)	"	55	"	"	(2.2)	"	86	"	E ₁ -67-13	(330.0)	"
25	II A 1	E ₁ -67-04	(6.6)	"	56	III B -	"	"	"	87	IV A 4	E ₁ -67-33	(425.0)	"
26	II A 2	E ₁ -68	(6.0)	"	57	III B 6	E ₁ -67-15	"	"	88	"	E ₁ -67-23	225.0	"
27	II A 1	E ₁ -68-02	(8.0)	"	58	III B 5	E ₁ -67-32	"	"	89	V A 1	E ₁ -67-43	470.0	Per.
28	II A 2	E ₁ -68-17	(10.0)	"	59	III B 7	E ₁ -69-12	"	"	90	V A 3	E ₁ -68-19	230.0	Sa.
29	II B 1	E ₁ -67-24	(16.0)	"	60	III B -	E ₁ -67-25	"	"	91	IV A 3	E ₁ -67-19	970.0	And.
30	"	E ₁ -67-42	(1.8)	Sh.	61	III B 2b	E ₁ -67-13	"	"	92	"	E ₁ -67-13	590.0	"
31	II B 2	"	3.1	"	62	III B 7	E ₁ -68-02	"	"	93	IV A 1	E ₁ -67-43	1020.0	Sa.
32	III A 1a	E ₁ -69-12	1.2	Che.	63	III B 5	E ₁ -67-14	"	Sh.	94	"	E ₁ -68-	(600.0)	"
33	"	E ₁ -69-13	8.0	"	64	III B 7	E ₁ -69-11	"	Che.	95	"	E ₁ -67-14	(800.0)	"
34	III A 1b	E ₁ -67-32	8.2	"	65	III B -	E ₁ -67-12	"	"	96	VI B 2	E ₁ -67-04	"	"
35	III A 1a	E ₁ -69-02	12.0	"	66	III B 4	E ₁ -67-42	"	"	97	VII A 1	E ₁ -67-13	135.0	Gni.
36	"	E ₁ -69-12	6.7	Sh.	67	III B 2a	E ₁ -67-44	"	Obs.	98	VII A 2	E ₁ -67-26	165.0	"
37	III A 1b	E ₁ -68-16	10.0	Che.	68	III B 4	E ₁ -67-52	"	Sh.	99	VII A 3	E ₁ -67-12	130.0	"
38	III A 1c	E ₁ -67-41	(8.0)	Obs.	69	III B 7	E ₁ -67-04	"	Obs.	100	VIII A -	E ₁ -68-06	365.0	Ser.
39	III A 1b	E ₁ -68-17	9.6	Che.	70	"	E ₁ -69-12	"	Che.	101	IV A 3	E ₁ -67-27	3.3	Ta.
40	III A 1c	E ₁ -67-06	10.6	"	71	"	E ₁ -67-24	"	Obs.	102	IV A 3	E ₁ -67-25	(29.7)	"
41	III A 1a	E ₁ -67-14	10.0	Obs.	72	"	E ₁ -67-54	"	"	103	"	E ₁ -67-02	240.0	"
42	III A 1a	E ₁ -67-14	7.6	Sh.	73	IV B -	E ₁ -68-17	(18.0)	Gr-Md	104	IV A 3	E ₁ -67-12	625.0	Sa.
43	III A 1d	"	3.3	Obs.	74	IV A 2	E ₁ -67-14	3.8	"	105	"	E ₁ -67-32	198.0	Tu.

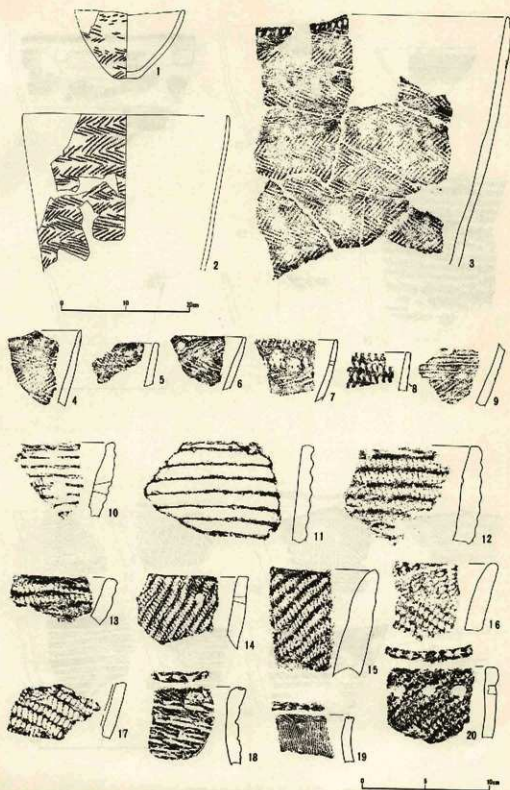


図 52 II 黒層出土の土器(I)

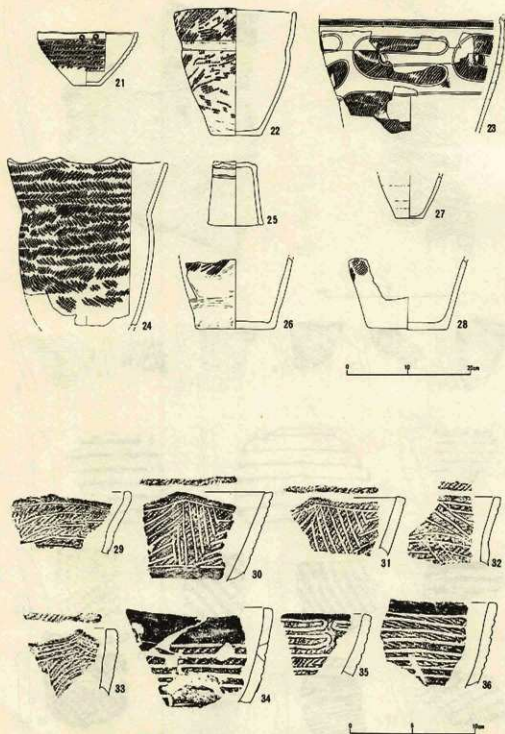


図 53 II 黒層出土の土器(2)

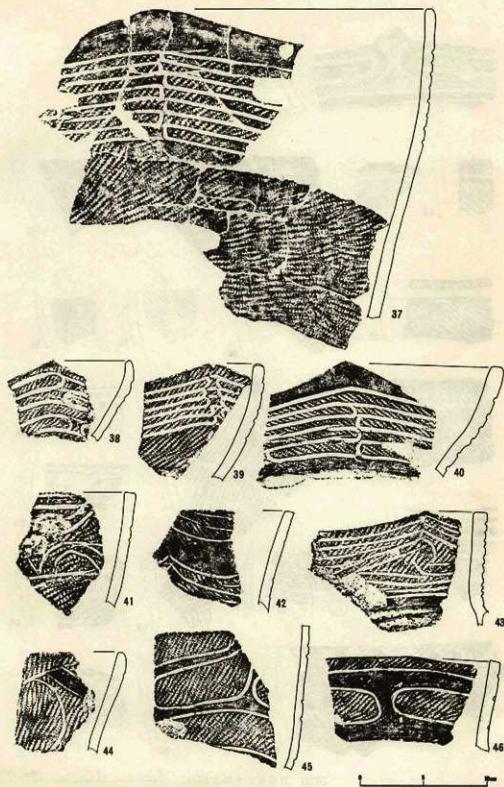


図 54 II 黒層出土の土器(3)

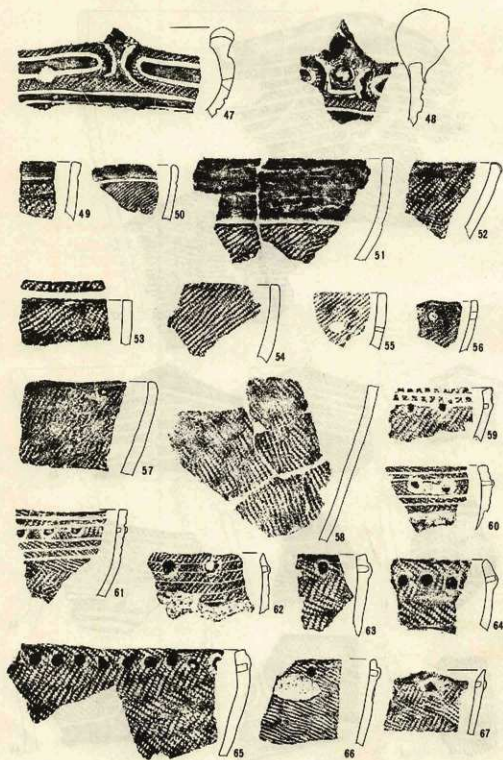


図 55 II 黒層出土の土器(4)

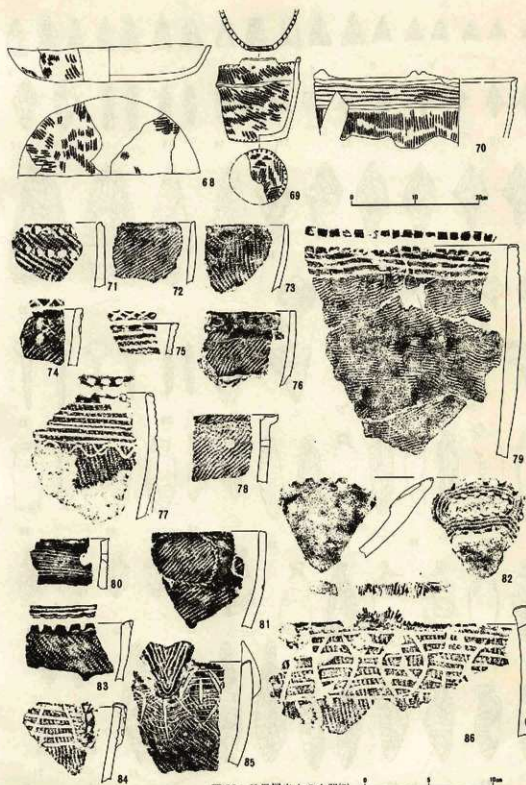


図56 Ⅱ黒層出土の土器(5)

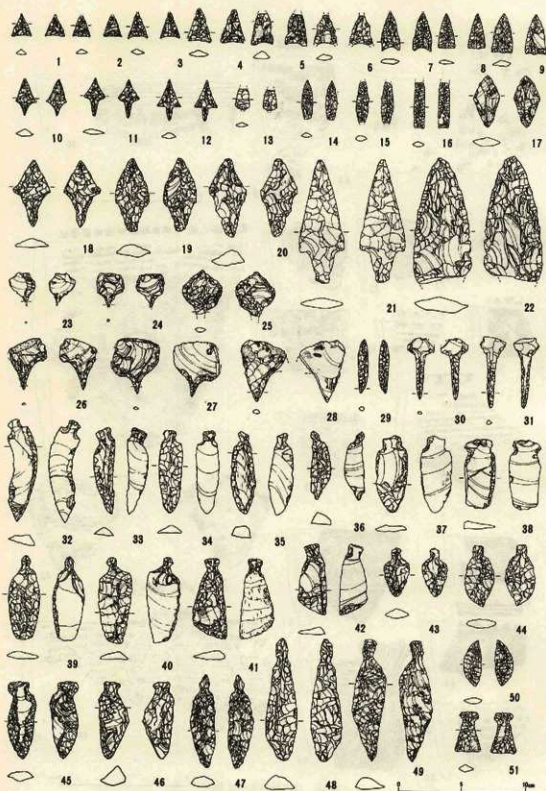


図57 II黒層出土の石器等(1)

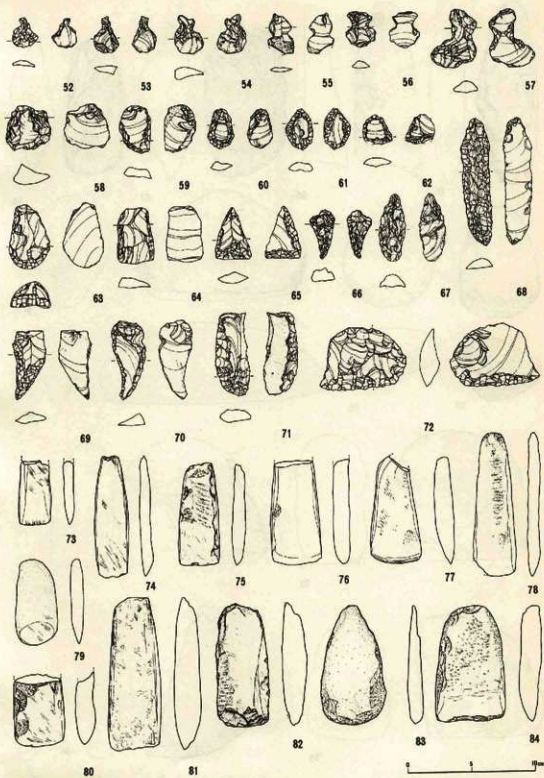


図 58 II 黒層出土の石器等(2)

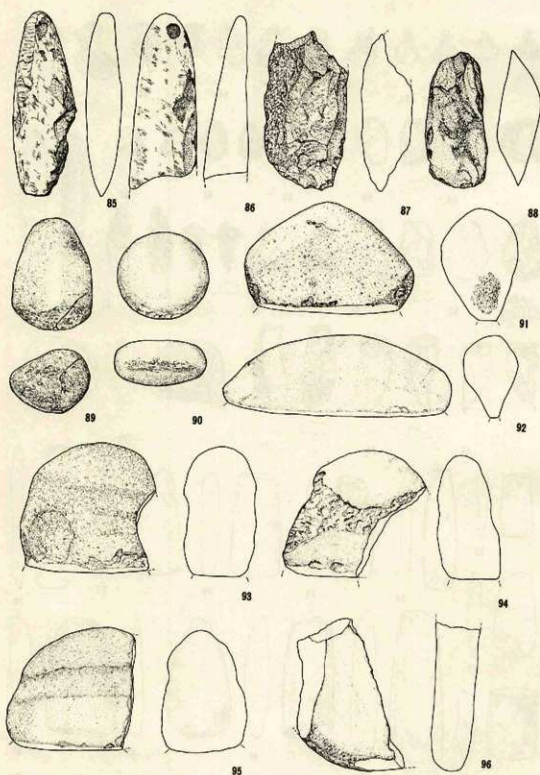


図 59 II 黒層出土の石器等(3)

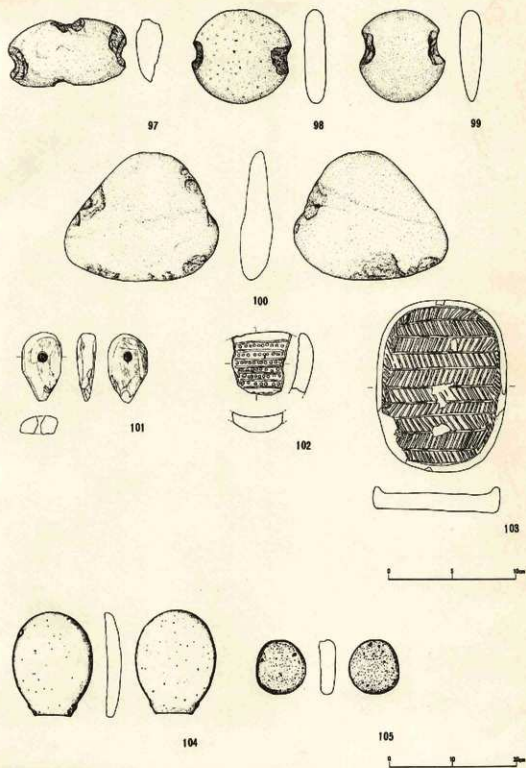
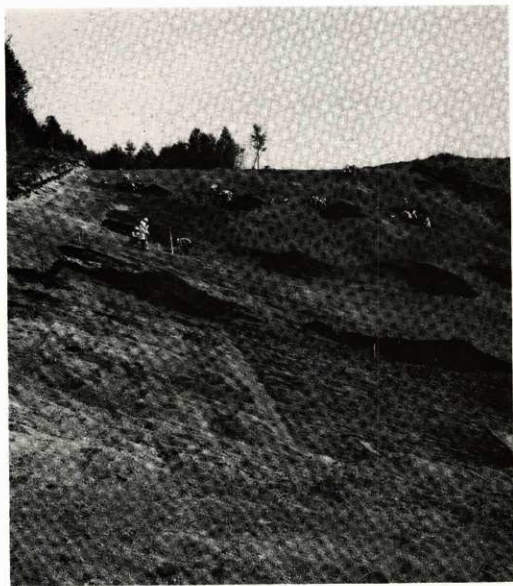


図 60 II 黒層出土の石器等(4)



VIII 美沢 3 遺跡



美沢 3 遺跡遠景（美々 7 遺跡から眺む）

VIII 美沢3遺跡

1. 遺跡の概要

遺跡は美沢川右岸の、標高 20~24 m の台地上から、北側斜面およびこれに続く段丘上にある。昭和 51 年度に北向きの斜面下位の一部を発掘調査している。

本年度の調査地区は、51 年度調査地区の南側、標高 10~25 m 間の台地平坦部から、それに続く緩斜面にあり、美沢 2 遺跡に隣接している。

調査面積は、3,480 m² である。土層は、図版 2 に示した柱状図と基本的に同じである。遺構・遺物は、II 黒層で検出されている。

遺構は、T ビット 1 か所、その他のビット 2 か所である。(図 1)

T ビットは、台地上から斜面にかかる位置にあり、形状は細長い溝状のものである (P-3)。底は、恵庭 a 火山灰層 (En-a) 下位のローム質粘土層の上面に達している。

その他のビットは、台地上部に大小 2 か所 (P-1、P-2) 検出された。台地上部で検出されたビットのうち、大形のもの (P-2) は、樽前 C 火山灰層 (Ta-c) を除去した後の II 黒層上面で大きな窪みとして発見された。このビットの時期は、盛土が II 黒層上面にのっているような状態で確認されていることから、おそらく縄文時代晩期につくられたものと考えられる。形状は、長円形である。小形のもの (P-1) は、樽前 d 火山灰層 (Ta-d) 上面で検出され、形状はだ円形である。

表 1 美沢3遺跡山土遺物一覧

名 称	分 類	数 量		名 称	分 類	数 量	
		I 黒層出土の数	計			I 黒層出土の数	計
土 器	I b-4	644	644	つまみ付きナイフ	III A 1 a	7	7
"	III a	3	3	"	III A 1 b	1	1
"	IV c	1	1	スクレイパー	III B 7	2	2
"	V b	9	9	"	III B-	1	1
石 や ヒ リ	I A 3 b	3	3	石 斧	IV A-	3	3
"	I A 4 a	4	4	恵明廟のおも形片	X	3	3
"	I A-	1	1	礫		19	19
石 や リ	I B 1 a	1	1	フ レ イ ク		16	16
"	I B 2 a	1	1	石 製 品		1	1

遺物は、土器、石器、および石製品がある。土器は、早期後半のⅠ群b-4類がほとんどである。石器は、石やり・石やり・つまみ付きナイフ・石斧、石製品には、滑石でつくられている環石に類似する破片が出土している。

2. 包含層出土の遺物(図3)

包含層から出土した遺物には、土器、石器と石製品がある。

全体の量が少ないけれどもa-72-50、51グリットにやや集中する傾向が認められた。

土器はⅠ群b-4類に属するものが多い。石器、石製品もこの時期のものが多いとみられる。

土器(図3)

土器にはⅠ群b-4類とⅢ群a類に属するものがある。

Ⅰ群b-4類(1~10): 器形は口縁に4か所の山形隆起部をもち、小さな平底を呈するものとみられる。体部に羽状のより糸文を施すものが多いけれども、まれにニシンの腹椎骨を回転施文した魚骨回転文を施すものがある(9)。10には無節のより糸文と単節の斜行縄文が施されている。破片のため便宜的に本類へ含めておく。口縁にそう幅の狭い文様帯には、短縄文を3段にめぐらせたもの(3)、より糸文の原体を縦に並列押捺したもの(1・2)がみられる。また、体部に給条体の圧痕を施文するもの(7)がある。

Ⅲ群a類(11、12): 10には、結束のある斜行縄文の地に貼付文があり、その上に痕跡的に細いよりひもの圧痕が認められる。

石器(図3)

石器は、剥片石器・礫石器あわせて24点、ほかにフレイク・礫が35点、石製品が1点出土している。剥片石器は21点出土し、石やり・石やり・つまみ付きナイフ・スクレイパーがある。石やり・石やりには、頁岩が多くつかわれている。礫石器は、石斧が3点みられるだけである。

石やり(1~4): 8点出土している。有茎のもの(4)、無茎のもの(1~3)があり、いずれも両面に細かな二次加工が施されている。3は先端部が、4は基部がそれぞれ欠損している。1・2・4は黒曜石、3は頁岩。

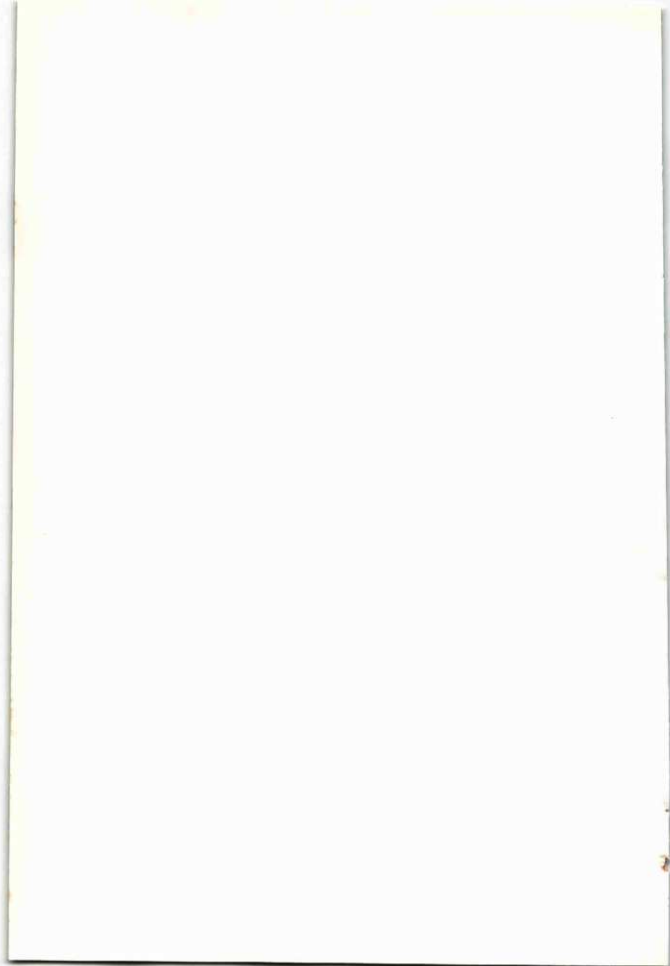
石やり(5): 1点出土している。5は有茎のもので、先端部と基部の一部が欠損している。両面とも二次加工が施されている。黒曜石。

つまみ付きナイフ(7~9): 8点出土している。片面に二次加工が施され、右側縁に急角度の入念な刃部をもつもの(7~9)が7点、二次加工が片面全体に施されているものが1点出土している。8は、7・9に比べると、かなり細かな調整が加えられている。7~9は頁岩である。つまみ付きナイフの石材は珪岩もあるが、頁岩が多い。

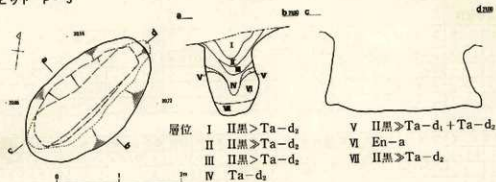
スクレイパー(6): 4点出土している。不定形で一辺もしくは二辺に刃部をもつもの(6)が3点、破損しているものが1点出土している。6は黒曜石である。

石製品(10): 1点出土している。破損しているので形状は不明であるが、耳飾または石環の可能性がある。滑石でつくられている。

資料編



Tピット P-3



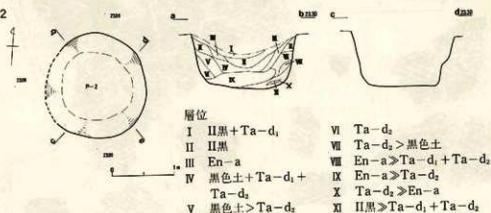
その他のピット P-1



遺物 計1点

名称	分類	数	量	名称	分類	数	量	名称	分類	数	量
		覆土	床			覆土	床			覆土	床
		1	1								

P-2



P-4



図2 P-1、2、3、4

包含層出土の遺物

(1) 土器

番号	分類	発掘区	大きさ (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)	番号	分類	発掘区	大きさ (cm)
1	I b-4	a-72-52	27.2×(20.6)	5	I b-4	a-72-50	27.2×(20.6)	9	I b-4	a-71-33	27.2×(20.6)
2	"	a-72-50	—	6	"	a-71-33	—	10	"	a-70-65	—
3	"	a-72-51	—	7	"	a-72-50	—	11	III a	a-72-55	—
4	"	a-72-61	—	8	"	a-72-51	—	12	III a	a-70-65	—

(2) 石器等

番号	分類	発掘区	重量(g)	材質	番号	分類	発掘区	重量(g)	材質	番号	分類	発掘区	重量(g)	材質
1	IA3b	a-72-61	0.8	Obs	5	I B1a	a-72-41	17.0	Obs	8	III A1a	a-71-49	(12.0)	Sb.
2	"	a-71-59	(1.1)	"	6	III B7	a-70-65	16.0	"	9	"	a-71-33	"	"
3	"	a-70-44	1.5	Chc.	7	III A1a	a-72-51	0.9	Sb.	10	石製品	a-72-61	(3.6)	Ta.
4	IA4a	a-72-61	10.4	Obs										

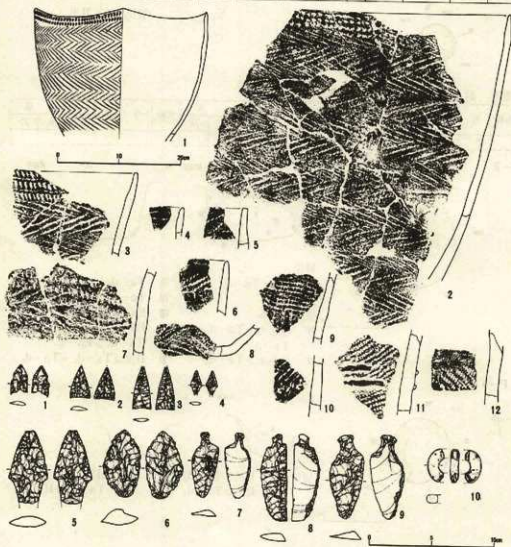
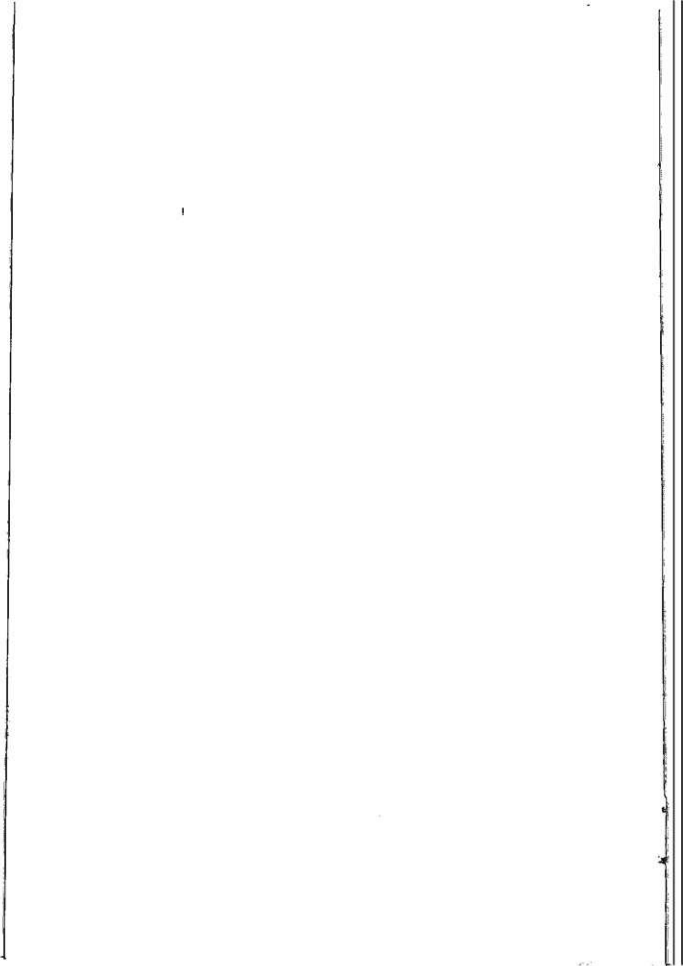


図3 II黒層出土の土器石器等

北海道美々出土の黒曜石の鉛同位体比の研究



北海道美々出土の黒曜石の鉛同位体比の研究

室住正世*, 中村精次**, 大江純司***

1. 緒言

鉛元素は質量数が 204, 206, 207, 208 の四つの安定同位体が、ある割合で混合したものである。これらの同位体を ^{204}Pb , ^{206}Pb , ^{207}Pb , ^{208}Pb と記し、混合割合を同位体存在比と称し、また各同位体存在比の比たとえば $^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ を同位体比と言う。原始地球における同位体比 $^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ と $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ の値はそれぞれ 1.090 と 3.108 であったと考えられている。しかしこれらの値は、その後の地質年代間における放射壊変によって、 ^{238}U より ^{206}Pb が (半減期 $= 4.5 \times 10^9$ 年), ^{235}U より ^{207}Pb が (7.13×10^8 年), ^{232}Th より ^{208}Pb が (1.39×10^{10} 年) 生成し、原始鉛に加わることで変化した。放射壊変源の鉛同位体が、原始鉛に加わった条件の相違によって、現在自然界に見出される鉛の同位体存在比には特有の性質が見出されることとなる。この相違は僅少ではあるが、表面電離質量分析法によって測定することができる^{1,2,3,4,5,6}

第1図に鉛の主要鉱物である方鉛鉱の、日本産鉱物の鉛同位体比を示した。 $^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb} \approx 0.84$, $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb} \approx 2.08$ であることがわかる。これらの値は中国産、朝鮮半島産あるいは世界各地産の方鉛鉱の同位体比とは一般には違っていて特性値である。しかし必ずしも、他国産にこれらの値と一致する同位体比をもつ方鉛鉱の存在を否定することはできない。北海道日高山脈の花崗岩や玄武岩その他岩石の同位体比が、日本産方鉛鉱の同位体比に近似していることを第1図に示す。

世界的視野に立つて各地産の鉛の同位体比を知り、その上で出土品や伝世品中の鉛の同位体比を求めて対比することにより、出土品や伝世品の原料の産地を推定する資料がえられる。もっとも、この可能性に前項で記したように ($^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$, $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ の 0.84 と 2.08 が必ずしも日本の特性値でなく、また違った産地の材料を混じ合うことにより鉛同位体比が当然に変化するなど、「逆必ずしも真ならず」という) 弱点のあることに注意する必要がある。

しかしすでに、本州及び九州方面の古墳よりの出土品や伝世品に対してこの方法を応用した結果は、それらの考古遺物が日本の原料を用いて製作されたか否かに対し、重要な判定資料を呈出することに成功している。この手法により、縄文・弥生時代における中国や朝鮮半島よりの日本に対する物質文化の導入や、その後の日本の鉱工業の発達の経途などが明らかにされ始めている。

2. 北海道美々出土の黒曜石の鉛同位体比

2.1 黒曜石の鉛含有量

^{206}Pb をスパイクとする同位体希釈表面電離質量分析法により定量したところ、第1表に示すように、HM・1 は 17.2 ppm、HM-10 は 26.8 ppm となった。この含有量は、黒曜石の 0.1

*, **, *** 室蘭工業大学工学部

g以下を供試することによって、その鉛同位体比測定が可能であることを示している。

2.2 黒曜石の鉛同位体比

HM・1、HM・2、HM・3、HM・4、HM・10、及びHM・11の鉛同位体比を第2表に示した。

また第1図には、それらの値を日本産方鉛鉱や日高産岩石の同位体比に対比して図示した。黒曜石の鉛同位体比が、現在までに測定された日本産方鉛鉱や日高産岩石と、分析誤差の範囲を越えて相違していることがわかる。

黒曜石の産地を同定するためには、北海道をはじめ本州各地産の黒曜石の鉛同位体比を測定することが先決であるが、昭和55年末期より開始した本研究は、この必須の測定を今後に残している。

なお、参考資料として北海道杜台出土のベンガラ中の鉛同位体比を第2表及び第1図中に併せ示した。

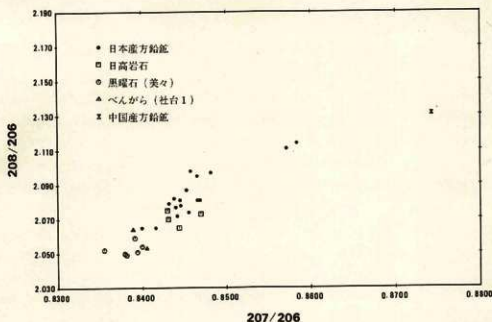
- 注 1. 鉛同位体比による産地同定の試み 山崎一雄、室住正世 「考古学と自然科学」 53 p (1976)
 2. 日本及び中国出土青銅器中の鉛の同位体比 山崎一雄、室住正世 その他 「考古学と自然科学」 55 p (1979)
 3. 日本産方鉛鉱及び考古遺物中の鉛同位体比 山崎一雄、室住正世 その他 「日本化学会誌」 1112 p (1978)
 4. 中国及び日本産ガラスの鉛同位体比 山崎一雄、室住正世 その他 「日本化学会誌」 821 p (1980)
 5. 鉛同位体比測定による日本出土青銅器の研究 山崎一雄、室住正世 「化学教育」 279 p (1978)
 6. 考古学・美術史の自然科学的研究 山崎一雄、室住正世 「日本学術振興会」 383 p (1980)

第1表 北海道美々及び、杜台出土の黒曜石、べんがら、琥珀中の鉛濃度
²⁰⁸Pbをスパイクとする同位体希釈表面電離質量分析

Sample	Sample		Filament	Intensity	208m		Found (pmol)	Concentration	
	taken	added	current	intensity	208m	C.V.		(pmol/g)	(μg/g)
	(g)	(pmol)	(A)	(10 ⁻⁸ A)		(%)			
HM-1 (美々5 D ₁ -65-84-1 黒曜石)	0.1208	13.14	1.700	6.05	0.3337	0.3	10.05 ± 0.04	83.2 ± 0.3	17.2
HM-10 (美々4 E ₁ -65-24-16 黒曜石(含白色斑点))	0.1088	13.19	1.680	13.2	0.4374	0.3	14.09 ± 0.05	129.5 ± 0.5	26.8
HM-16 (杜台1 P55J4-a べんがら)	0.0410	3.830	1.500	6.34	0.6824	0.3	7.48 ± 0.03	182.5 ± 0.7	37.8
HM-17 (杜台1 J5-d 琥珀)	0.0179	3.546	1.720	2.45	0.0008421	1.6	0.00490 ± 0.00009	0.069 ± 0.005	0.014

Pmol = 10⁻¹² モル

μg = 10⁻⁶ グラム



第1図 日本産方鉛鉱、日高岩石に対する美々、社台出土の黒曜石、べんがらの鉛同位体比の比較 MIT-LABORATORY

第2表 北海道美々、社台出土の黒曜石及び、べんがら中の鉛同位体化

Sample	Filament current (A)	Ion beam intensity (10 ⁻¹⁴ A)	$\frac{207r_p}{206r_p}$	$\frac{208r_p}{206r_p}$	$\frac{206r_p}{204r_p}$	$\frac{207r_p}{204r_p}$	$\frac{208r_p}{204r_p}$
HM-1 (美々5 D ₁ -65-94-1 黒曜石)	1.840	3.78	0.8355(0.3)*	2.052(0.3)	18.36(0.3)	15.34(0.3)	37.66(0.3)
HM-2 (美々5 D ₁ -65-88-1 黒曜石)	1.600	3.50	0.8381(0.2)	2.049(0.2)	18.21(0.3)	15.26(0.3)	37.31(0.3)
HM-3 (美々5 D ₁ -65 黒曜石)	1.520	4.40	0.8400(0.1)	2.054(0.1)	18.23(0.3)	15.31(0.3)	37.44(0.3)
HM-4 (美々5 D ₁ -65-07-1 黒曜石)	1.740	4.76	0.8391(0.1)	2.059(0.2)	18.32(0.2)	15.37(0.3)	37.72(0.3)
HM-10 (美々4 E ₁ -65-24-16 黒曜石(含白色斑点))	1.440	3.56	0.8394(0.2)	2.051(0.2)	18.29(0.3)	15.35(0.3)	37.52(0.3)
HM-11 (美沢1 E ₁ -67-22-33 黒曜石)	1.540	4.56	0.8379(0.1)	2.050(0.2)	18.23(0.2)	15.28(0.2)	37.39(0.1)
HM-16 (社台1 P.55J4a べんがら)	1.890	5.00	0.8389(0.2)	2.054(0.2)	18.35(0.4)	15.40(0.4)	37.88(0.4)
HM-18 (社台1 P.61J4d べんがら)	1.420	4.54	0.8405(0.1)	2.053(0.1)	18.18(0.2)	15.28(0.2)	37.33(0.2)

*Coefficient of variation.



時間 (時間) と 距離 (距離) の関係 (関係) を示すグラフ (グラフ) である (である)。

時間 (時間) と 距離 (距離) の関係 (関係) を示すグラフ (グラフ) である (である)。

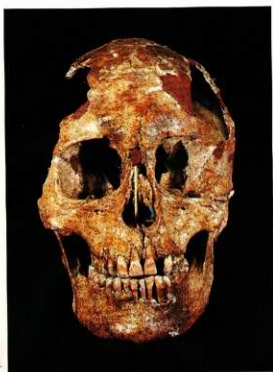
時間 (時間)	距離 (距離)	時間 (時間)	距離 (距離)	時間 (時間)	距離 (距離)
1. 1. 1. 1.	1. 1. 1. 1.	2. 2. 2. 2.	2. 2. 2. 2.	3. 3. 3. 3.	3. 3. 3. 3.
4. 4. 4. 4.	4. 4. 4. 4.	5. 5. 5. 5.	5. 5. 5. 5.	6. 6. 6. 6.	6. 6. 6. 6.
7. 7. 7. 7.	7. 7. 7. 7.	8. 8. 8. 8.	8. 8. 8. 8.	9. 9. 9. 9.	9. 9. 9. 9.
10. 10. 10. 10.	10. 10. 10. 10.	11. 11. 11. 11.	11. 11. 11. 11.	12. 12. 12. 12.	12. 12. 12. 12.
13. 13. 13. 13.	13. 13. 13. 13.	14. 14. 14. 14.	14. 14. 14. 14.	15. 15. 15. 15.	15. 15. 15. 15.
16. 16. 16. 16.	16. 16. 16. 16.	17. 17. 17. 17.	17. 17. 17. 17.	18. 18. 18. 18.	18. 18. 18. 18.
19. 19. 19. 19.	19. 19. 19. 19.	20. 20. 20. 20.	20. 20. 20. 20.	21. 21. 21. 21.	21. 21. 21. 21.
22. 22. 22. 22.	22. 22. 22. 22.	23. 23. 23. 23.	23. 23. 23. 23.	24. 24. 24. 24.	24. 24. 24. 24.
25. 25. 25. 25.	25. 25. 25. 25.	26. 26. 26. 26.	26. 26. 26. 26.	27. 27. 27. 27.	27. 27. 27. 27.
28. 28. 28. 28.	28. 28. 28. 28.	29. 29. 29. 29.	29. 29. 29. 29.	30. 30. 30. 30.	30. 30. 30. 30.

美沢川流域の遺跡群出土の人骨について

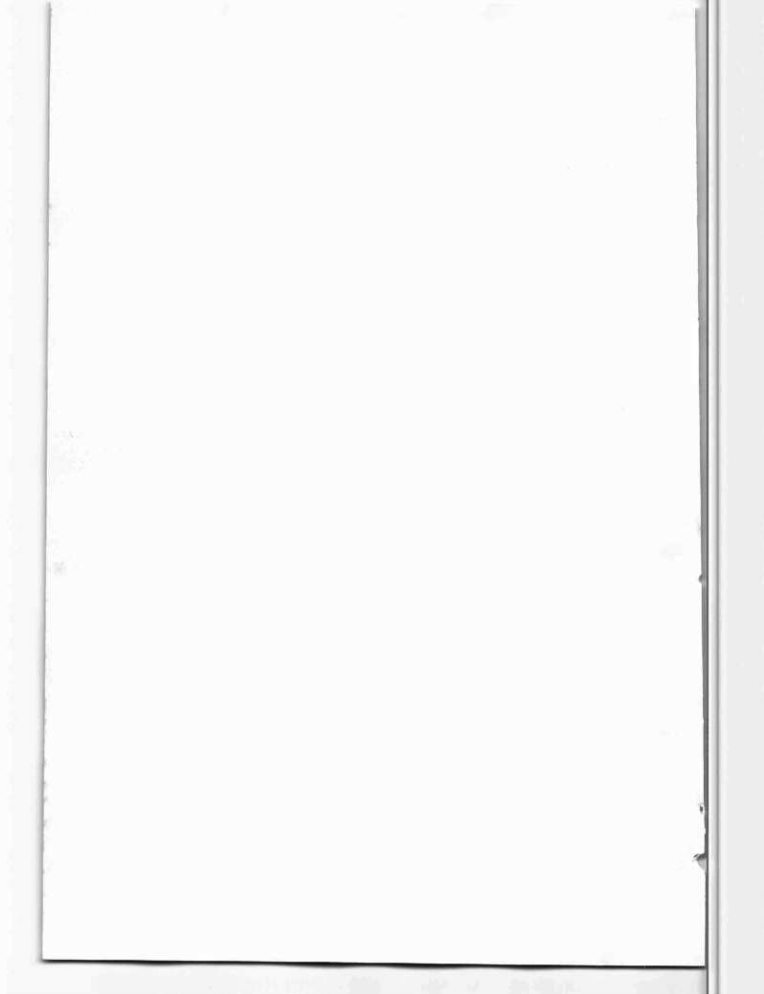




図版1.1 美沢1 JX-4 P-120 頭骨前面観



図版1.2 美沢1 JX-4 P-104 成年頭骨前面観



美沢川流域の遺跡群出土の人骨について

百々幸雄*

昭和53年度の北海道教育委員会および昭和55年度の北海道埋蔵文化財センターの考古学的発掘調査において、千歳市美々4遺跡および美々5遺跡、苫小牧市美沢1遺跡より多数の人骨が検出されたが、これはその人類学的調査結果の報告である。

ここに報告するもの以外にもなお多くの人骨が採集されているが、ただ単に人骨の存在を示すのみで年令や性別の判定に適さない断片的な資料については、一切報告から除外した。また、出土状況や埋葬様式についても記載を省略したが、それらは別報（美沢川流域の遺跡群III）および本報告書のそれぞれの章を参照されたい。

なお、資料の整理、復原に際して御協力をいただいた札幌医科大学三橋公平教授、大島直行助手および佐藤憲子技師にここに厚く御礼を申し上げたい。

昭和53年度発掘資料

美々5遺跡

縄文前期のBP-1およびBP-15の土壌墓より発掘された人骨である。

BP-1

頭蓋冠の細片と外耳孔、下顎窩および頬骨突起を含む左側頭骨の破片が保存される。

側頭骨の大きさから判断して成年骨と考えて良さそうである。

性別は不明である。

左側頭骨鼓室部には径2 mm程の大きさの裂開（フシケ孔）が認められる。

BP-15

頭蓋冠の破片が残るのみであるが、骨の厚さからみて成年骨と考えてさしつかえないようである。

性別は不明。

美沢1遺跡

KX-1、JX-2、JX-3およびJX-4の周堤墓から出土した人骨で、いずれも縄文後期末葉とみなされるものである。

KX-1 P-106

上顎左右第1、第2大臼歯と下顎第2大臼歯と思われる歯冠が残存する。

大臼歯の咬耗は1度程度であるので、思春期以後の比較的若い年令段階にあるものと思われる。

* 札幌医科大学解剖学教室

性別は明らかでない。

残存歯にう蝕は認められない。

KX-1 P-109

頭骨の破片である。後頭鱗、右頭頂骨、右側頭骨、左右の後頭部および左側頭骨の錐体の部分が保存される。このほか右上顎の第2または第3大臼歯と思われる歯が残存する。

頭蓋冠の大きさと厚さ、右側頭骨の大きさ、大臼歯の咬耗の程度(Ⅱ度)から判断して、成年骨とみなしてさしつかえないと思われる。

右乳様突起の大きさと後頭骨項平面のレリーフの強さは、この人骨が男性のものであることを思わせる。

右外耳道後壁には骨瘤への傾向が認められる。左右とも舌下神経管は単一である。顎管は左右とも開存する。右側に横後頭縫合の痕跡はない。右上顎第2または第3大臼歯と思われる歯には、遠心面に直径1 mm 程の大きさのエナメル滴が認められる。う蝕はない。

JX-2 P-104

頭蓋では左側頭骨の大半と蝶形骨の一部が保存されるほか、後頭骨と下顎も断片的に残存する。歯は上顎大臼歯2個、下顎大臼歯1個のほか、上顎大臼歯々冠1個が保存される。四肢・軀幹骨では椎骨の破片と右大腿骨々体上部が長さ約13 cm にわたって保存される。

上顎第1大臼歯と思われる歯で咬耗がⅢ度に達しているため、年令は成年と考えると良さそうである。頭骨各部位の大きさも成年骨を思わせる。

性別は、乳様突起の大きさと形態からみて男性である公算が高い。

左外耳孔はほぼ円形を呈し、骨瘤は存在しない。左側にフシケ孔もなく、舌下神経管二分も認められない。左顎管は開存する。鱗乳突縫合の痕跡が左側に約10 mm にわたって認められる。残存歯にう蝕はない。右大腿骨々体上部最大径は30 mm。

JX-3 P-104

頭骨が2個並んで発見された。

第1個体は歯冠が保存されるのみで、年令、性別は明らかではない。

第2個体は右側頭骨岩様部のほか、頭蓋冠が断片的に保存される。

側頭骨岩様部の大きさからみて成年骨と思われる。

性別は明らかでない。

右側頭骨鼓室部には3×1.5 mm 程の大きさの裂開(フシケ孔)が認められる。

JX-3 P-111

頭蓋では左右頭頂骨の後半部と後頭骨および左側頭骨が接着できる状態で保存される(図1)。このほか右側頭骨錐体と頭蓋冠の破片も残存する。下顎は左半部が第2小臼歯から第3大臼歯までを植立した状態で保存される(図2)。歯は下顎骨に植立したもの以外に上顎大臼歯3個、下顎大臼歯1個、上顎小臼歯3個が遊離して保存される。下顎小臼歯と犬歯や切歯の歯冠も残存する。四肢・軀幹骨では環椎と軸椎がほぼ完全な状態で保存され(図3)、そのほかの椎



図 1

図 1 美沢 1JX-3 P-111 頭骨後面観



図 2

図 2 美沢 1JX-3 P-111 左下顎骨内面

図 3 美沢 1JX-3 P-111 環椎と軸椎上面観

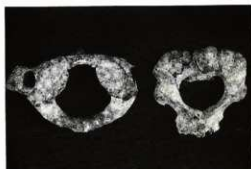


図 3

骨と肋骨も断片的に残存する。

蝶後頭軟骨結合は完全に骨化するので成年骨とみなしてさしつかえないであろう。歯の咬耗はⅠ度をやや越えた段階にあるが、頭蓋の縫合は内板に一部癒着がみられるので、年齢は壮年ないし熟年の初期といったところと思われる。

乳様突起は中等度の大きさであるが、後頭骨項平面のレリーフの強さ、下顎枝の大きさと筋粗面の発達程度からみて、性別は明らかに男性である。

左側頭骨では外耳孔はほぼ円形を呈し、外耳道骨瘤なく、鼓室部の裂開もない。後頭骨には軽度であるが、横後頭隆起が形成される。左右とも横後頭縫合の痕跡は認められない。舌下神経管は左右とも単一で、大後頭孔の前縁に異常もない。頸管は左右とも開存する。左の頸静脈孔に二分なく、卵円孔、棘孔にも異常は認められない。左下顎枝の計測値は下顎枝高 50 mm、下顎枝幅 41 mm、下顎枝示数 82.0 で、高さに比して著しく幅広い下顎枝といえる。特に筋突起の発達が著明である。枝内面には顎舌骨筋神経管の形成がある(図 2)。左側には軽度の下顎隆起が認められる。下顎底縁は S 字状に湾曲し、いわゆる動揺下顎とはならない。残存歯にう蝕は認められない。環椎には異常は認められないが、軸椎には歯突起の先端より幅 6 mm、矢状径 3 mm、高さ 4 mm 程の歯尖靱帯の骨化によると思われる突起が存在する。

JX-3 P-119

頭蓋冠の破片が残るのみである。

骨の厚さから判断しておそらく成年骨と思われる。

性別は不明である。

JX-3 P-127

頭蓋では右側頭骨と右下顎骨の破片が保存される。歯は上顎第2大臼歯と思われるものが1個のみで、あとはいづれも歯冠の破片である。

右側頭骨の大きさから判断して成年骨と思われる。

乳様突起の大きさと形態は男性的である。

右の外耳孔は楕円形で、骨瘤はない。鼓室部には径1 mm程の大きさのフシケ孔が認められる。歯の咬耗はI度ないしII度の段階にあり、う蝕は認められない。

JX-4 P-101

右の側頭骨乳様突起部が保存されるほかは頭蓋の細片のみである。歯は大臼歯が2個確認される。

乳様突起の大きさと大臼歯の咬耗度(II度)からみて成年骨と考えてさしつかえないと思われる。

性別は不明である。

JX-4 P-104

墓墳底とともにウレタンで包埋したものを研究室内で発掘した資料である。実測図(図4)に示すとおり成年と小児の合葬である。ともに俯臥位にあり、成年骨は明らかに伸展葬であった。

成人人骨

頭蓋：顔面は左眼窩の外側壁を欠く以外にはほぼ完全な状態で復原される(図版1-1)。脳頭蓋では前頭骨、左側頭骨の大部分、左側頭骨が残り、頭蓋底も大後頭孔より前方の部分が保存される。下顎は左右とも下顎枝に破損をみるが、それ以外にはほぼ完全な状態にある。

歯：歯槽の閉鎖した左上顎第2切歯以外はすべて歯槽に植立した状態で保存される。

四肢・軀幹骨：頸椎、上位胸椎、右第1、第2肋骨および胸骨柄がほぼ完全な状態で保存される。四肢長骨では右鎖骨々体が良好な状態で保存されるが、そのほかはすべて細片である。

蝶後頭軟骨結合は骨化しており、第3大臼歯は4本とも萌出が完了しているので、明らかに成年骨と考えて良い。歯の咬耗はI度ないしII度の段階にあり、矢状縫合は内板にのみ一部癒着がみられるところから考えて、壮年から熟年初期にかけての年齢段階にあるものと思われる。

頭蓋全体の大きさ、乳様突起の大きさと形態、乳突上縁の発達程度、眉間から眉弓にかけての形態、下顎のオトガイ部の形態などから判断して、性別は男性と思われるが確実ではない。

頭蓋の諸計測値は表1に示すとおりである。

顔面は幅に比してかなり高い。眉間と眉弓は合して連続した膨らみをなすが、眉弓の発達が

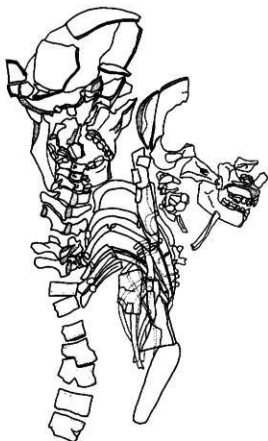


図4 美沢1 JX-4 P-104 出土状態

表1 JX-4 P-104頭蓋計測値

(計測法は主としてMartin (1957)によるが、顔面の平坦度計測はYamaguchi (1973)による。単位はmm。)

26. 正中矢状前頭弧長	130	61. 上顎歯槽幅	61
29. 正中矢状前頭弦長	116	61:60. 上顎歯槽示数	(110.9)
29:26. 矢状前頭示数	89.2	62. 口蓋長	44
46. 中顔幅	101	63. 口蓋幅	35
48. 上顎高	(67)	63:62. 口蓋示数	79.5
48:46. 上顎示数(Virchow)	(66.3)	67. 前下顎幅	51
51. 眼窩幅(右)	45	69. オトガイ高	(31)
52. 眼窩高(右)	37	69-1. 下顎体高	31
52:51. 眼窩示数(右)	82.2		
54. 鼻幅	24	顔面平坦度計測	
55. 鼻高	50	顔上顎弦(Zma-Zma)	100.3
54:55. 鼻示数	48.0	スプナザーレからの垂線	24.4
60. 上顎歯槽長	(55)	顔上顎平坦示数	24.3

より著明である。前頭縫合は存在しない。眼窩上縁外側部ではいわゆる眼窩上三角が明瞭である。左右とも眼窩上縁に孔の形成はなく、切痕のみが認められる。上顎骨前頭突起は後方ではほぼ矢状位をとるが、マキシロフロンターレよりも内側部ではほぼ前頭位になり、さらにその内側で鼻骨に接する付近で再び矢状位をとる。鼻骨は右側が欠けるが、鼻骨最小幅は8 mm 前後に推定され、幅は広くはない。しかし、左右の鼻骨が正中で角度をなして接するため、水平湾曲はかなり強かったと思われる。眼窩は幅も高さもかなり大きく、眼窩示数は中型となり、形は正方形に近い。梨状孔は幅狭く、鼻示数は狹型に近い中型となる。頬骨は頑強で外側への張り出しが強い。上顎骨歯槽突起は比較的高く、しかも幅狭く、前歯槽部が全体として前方へ突出する。上顎骨頬骨突起下縁には上方へ向かう陥凹が認められる。

側面観では眉間の突出はブローカのIIないしIII度で、鼻前頭縫合の陥入は特に強くはない。側頭筋線の走向は破損のため不明であるが、乳突上稜、乳突上溝はかなり強い。外耳孔は円形を呈し、骨瘤はみられない。

口蓋には軽度の口蓋隆起が存在し、左に内側口蓋管の形成がある。右にもその傾向が認められるが、管をなしていたかどうかは破損のため不明。左側頭骨鼓室部には3×1.5 mm 程の大きさのフシケ孔と思われる裂開が存在する。左右とも卵円孔や棘孔に異常はなく、左頸静脈孔に骨性二分もない。

下顎は、オトガイ三角部では中央の隆起と外側の結節が同程度に発達する。下顎底縁の走向はほぼ直線的。左右とも軽度の下顎隆起が認められる。下顎枝の筋粗面はかなり強い。右は破損のため不明であるが、左に顎舌骨筋神経管の形成はない。

歯は歯石の沈着をみるが、う蝕は認められない。左上顎第3大臼歯遠心面には径1 mm 程の大きさのエナメル滴が観察される。咬合様式は鉗子状。

左上顎第2切歯の歯槽閉鎖は、ほかの歯が歯槽とともにすべて健全であるので、人為的な抜歯によるものである公算が高い(図5)。

四肢骨では右鎖骨のみがろうじて計測の対象になる。鎖骨中央部周径42 mm、同矢径15 mm、同垂直径10 mm、中央断面示数66.7。これらの諸計測値は縄文人の男性を思わせる。



図5 美沢1JX-4 P-104 成年頭骨、左上顎第2切歯の歯槽閉鎖



図6 美沢1JX-4 P-104 小児頭骨、左上顎骨と下顎骨

小児人骨

第1小臼歯から第2大臼歯までを植立させた左上顎骨と同じく第1小臼歯から第2大臼歯までを植立させた左下顎骨(図6)のほか、後頭骨底部ならびに左外側部、左側頭骨岩様部が採取された。歯は上顎骨および下顎骨に植立したもの以外に下顎第1、第2大臼歯、上顎第1、第2大臼歯と小臼歯や切歯の歯冠も残存する。四肢・軀幹骨では椎骨と肋骨の破片が保存される。

上顎、下顎とも第2大臼歯の萌出が完了するが、第3大臼歯は歯槽中に埋没しているので、思春期前後の年齢が推測される。しかし、歯に基づく年齢に比して上顎骨や下顎骨は相当に小さいようである。

性別は明らかでない。

右上顎骨には外側口蓋管の形成がみられ、左舌下神経管は骨髄によりほぼ完全に二分されている。左下顎枝に顎舌骨筋神経管の形成はない。残存歯にう蝕も認められない。

JX-4 P-106

頭蓋では左上顎骨および頬骨、蝶形骨体と右大翼、左右側頭骨、後頭骨底部と左右外側部が接合した状態で保存される(図7)。歯は上顎左右第1、第2大臼歯と左第2乳臼歯が植立した状態で保存される。四肢骨では長さ13cm程の大腿骨体の破片をはじめとして、脛骨および腓骨々体が残存する。また、右距骨、左踵骨のほか足根骨、指骨も断片的に採取されている。

蝶後頭軟骨結合に癒合がみられず、未成熟個体であることは明らかである。上顎の第2大臼歯の萌出がほぼ完了しているので思春期前後の年齢と考えられる。

性別は不明である。

右は単一であるが、左舌下神経管は骨髄により完全に二分される。顎管は左右とも開存する。左右とも頸静脈孔に異常はなく、フシケ孔も認められない。右は正常であるが、左には内側口蓋管の形成をみる。口蓋隆起は認められない。左右とも眼窩下孔は単一である。上顎歯槽はすべて健全であり、残存歯にう蝕は認められない。左上顎測には軽度だが、反応性の骨増殖像が観察される。

JX-4 P-107

成年と小児の合葬である。

成年骨

頭蓋では前頭骨、頭頂骨の一部、鼻骨、上顎骨前頭突起の上端部が接合した状態で保存される(図8)。そのほか左上顎骨(図9)、左側頭骨(図10)および蝶形骨体の破片が残存する。歯は上顎大臼歯が1個保存される。四肢・軀幹



図7 美沢1 JX-4 P-106 顎骨底面観



図 8

図 8 美沢 1JX-4 P-107 前頭骨と鼻根部



図 9

図 9 美沢 1JX-4 P-107 左上顎骨底面観

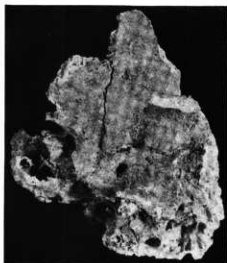


図 10

図 10 美沢 1JX-4 P-107 左側頭骨底面観

骨は椎骨が数点認められるのみである。

冠状縫合に癒着はみられないが、矢状縫合は内、外板ともに癒合が進行しており、上顎大臼歯は咬耗がⅢ度の段階にある。さらに、椎骨の椎間関節面には強い加齢的变化を示すものがあるので、年齢は熟年の域に達していたものと思われる。

眉間から眉弓にかけての隆起が弱く、鼻前頭縫合の陥入も浅く、前頭結節も明瞭で、前頭骨はどちらかといえば女性的特徴を示す。

前頭弧長は 123 mm、同弦長 109 mm、矢状前頭示数 88.6。前頭縫合はない。眼窩上孔は右は破損のため不明であるが、左には存在しない。鼻骨は比較的幅がせまいが、左右のものが正中で角度をなして接するため、水平湾曲はかなり強い。鼻骨最小幅 8.0 mm、鼻背稜からの垂線 3.6 mm、鼻骨平担示数 41.3。左側頭骨では外耳孔はほぼ円形で、骨瘤はない。鼓室部には 3 × 2

mm 程の大きさのフシケ孔が存在する(図 10)。口蓋には正中線のはは全長にわたって強度の口蓋隆起が認められる(図 9)。左に内開口蓋管の形成はない。蝶形骨では床突起に異常はみられない。残存歯にう蝕は認められない。頸椎の 1 個には左の上下の椎間関節面に強度の関節症の像が認められる。

小児骨

頭蓋では左右頭頂骨と後頭骨の一部を含む破片、蝶形骨体および左側頭骨が保存される。歯は乳臼歯と思われる歯冠 1 個と、ほとんど咬耗のない大臼歯の歯冠が 2 個残る。四肢・軀幹骨では椎骨と寛骨の破片が保存される。

蝶後頭軟骨結合に癒着はなく、椎体の上、下面の骨端にも癒合はみられない。また、腸骨と坐骨間にも骨癒合がみられないので、年齢は思春期以前と推測される。

性別は明らかでない。

左側頭骨鼓室部には径 1 mm 程の大きさのフシケ孔が認められる。残存歯にう蝕はみられない。

JX-4 P-108

後頭骨底部、蝶形骨体および左大翼、左側頭骨からなる頭蓋底の破片が残存する(図 11)。鼻骨と左上顎骨前頭突起の上端部を含む小破片も認められる。

蝶後頭軟骨結合が完全に骨化するので明らかに成年骨である。

性別は不明である。

鼻骨は比較的幅がせまいが、左右のものが正中で角度をなして接するため、水平湾曲は弱くはならない。鼻骨最小幅 7.0 mm、鼻背稜からの垂線 2.6 mm、鼻骨平坦示数 37.1。左側頭骨では外耳孔はほぼ円形をなし、外耳道骨瘤はない。鼓室部には最大径 1.5 mm 程の大きさのフシケ孔が存在する。左側の卵円孔、棘孔に異常はないが、翼棘孔と翼大翼孔が形成される傾向が認められる。左の舌下神経管は単一。左の頸静脈孔にも異常はみられない。左の床突起にも骨橋などの変異は認められない。



図 11 美沢 JX-4 P-108 頭蓋底部

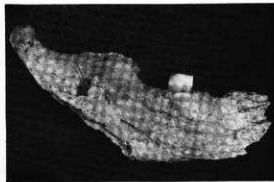


図 12 美沢 JX-4 P-110 成年骨左上顎骨内面

JX-4 P-109

頭蓋では第2小臼歯と第1大臼歯の歯槽を含む右上顎骨の一部のほかは、頭蓋冠の細片が残るのみである。歯は大臼歯が5個、小臼歯が1個確認される。このほか大臼歯と小臼歯の歯冠も残存する。

第3大臼歯と同定される歯の歯根が完成しているので、年令は成年と考えて良いと思われる。ただ、咬耗は概して弱く、I度の段階である。

性別は不明である。

残存歯にう蝕は認められない。

JX-4 P-110

少なくとも3個体分の骨格が同定される。

成年頭骨

左側頭骨と蝶形骨大翼の一部を含む破片、蝶形骨体と小翼からなる破片、左の下顎骨の破片(図12)が同定される。そのほか頭蓋冠の破片も残存する。歯は左下顎第3大臼歯が植立した状態で保存されるほか、上顎大臼歯1個と部位不明の大臼歯3個が遊離して残存する。

頭蓋冠の縫合に癒着傾向が強いこと、大臼歯の咬耗がIII度に達していることから判断して、年令は熟年程度と考えられる。

左側頭蓋の乳突上縁が著しく強く発達するほか、下顎枝の筋粗面も強いので、性別はおそらく男性と思われる。

左外耳孔は長軸がほぼ垂直な楕円形をなし、外耳道骨瘤やフシケ孔は存在しない。左の卵円孔、棘孔に異常はなく、翼棘孔などの形態変異も認められない。左右とも蝶形骨の床突起間に骨橋はみられない。左下顎枝では、下顎小舌が後方に延長して長さ約15mmの顎舌骨筋神経管を形成する(図12)。残存歯にう蝕は認められない。

小児頭骨

第2切歯から第1大臼歯までを植立した左下顎骨の破片、第2、第3大臼歯を植立した左上顎骨の破片が保存される。歯は上顎骨と下顎骨に植立したもの以外に上顎第1大臼歯が遊離して保存される。

残存歯はいずれも永久歯であるが、咬耗はほとんど認められない。左上顎の第2大臼歯はほぼ萌出が完了するが、第3大臼歯はまだ歯槽内に埋没するので、年令は思春期前後と推測される。

性別は不明である。

左上顎骨には内側口蓋管の形成がある。口蓋隆起はない。左上顎第2大臼歯の遠心面には、径1mm弱の大きさのエナメル滴が認められる。残存歯にう蝕はみられない。

成年四肢骨

四肢長骨の断片が保存されるのみだが、大きさ、緻密質の厚さから判断して成年のものと考えてさしつかえないと思われる。成年頭骨に付随するものであろう。

若年四肢骨

椎骨7個と四肢長骨の細片が保存される。

椎骨の大きさと化石状態からみて思春期以前の年令と思われ、前記した小児頭骨に付属する可能性は少ない。

JX-4 P-111

蝶形骨体から小翼にかけての破片と左右側頭骨の錐体の部分が保存される。歯は上顎大臼歯が2個、上顎切歯が4個、それに大臼歯、小臼歯、犬歯の歯冠のみが保存される。そのほか乳臼歯が1個認められる。

蝶後頭軟骨結合は未癒合で、歯にはほとんど咬耗が認められない。乳臼歯が残るが、上顎第2大臼歯と思われる歯冠が認められるので、思春期前後の年令かと推測される。

性別は不明である。

左右とも蝶形骨床突起間の骨橋は認められず、残存歯にう蝕もみられない。

JX-4 P-114

頭蓋では後頭骨底部と左右顎部、左右側頭骨錐体のほか、頭蓋冠の細片が保存される。歯は大臼歯々冠が5個残存する。四肢・軀幹骨では環椎と軸椎の一部が保存されるのみである。

蝶後頭軟骨結合が骨化するので成年骨と考えてさしつかえないと思われるが、大臼歯の咬耗は弱く、I度の段階にある。

性別は不明である。

右は単一であるが、左舌下神経管は骨棘によってほぼ完全に二分される。右顎管は著しく良く発達するが、左は破損のため不明。残存歯にう蝕は認められない。

JX-4 P-116

頭蓋では前頭骨の左半部と頭頂骨の一部、左側頭骨と蝶形骨左大翼(図13)、後頭骨左顎部、第1および第2大臼歯を植立した左上顎骨と第1、第2小臼歯および第1大臼歯を植立した下顎骨左半部(図14)、下顎枝の一部を含む右下顎体が保存される。歯は上顎骨と下顎骨に植立したもの以外に大臼歯4個、犬歯1個、切歯2個が遊離して保存される。四肢・軀幹骨では胸椎5



図13 美沢1 JX-4 P-116 左側頭部

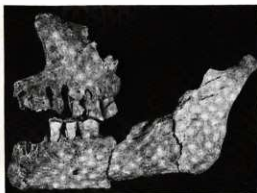


図14 美沢1 JX-4 P-116 左上顎骨と下顎骨

個のほかに椎骨、肋骨、四肢長骨の断片が残存する。

頭蓋諸骨の大きさから判断して明らかに成年骨であるが、大臼歯の咬耗が著しく進んでおりIII度ないしIV度の段階にあるので、年齢は熟年の域に達していたと思われる。

乳様突起の大きさと形態、乳突上稜の発達度からみて、性別は明らかに男性と判定される。

破損があるため確実ではないが、前頭縫合は存在しなかったと思われる。左側に眼窩上孔はない。左上顎には第2切歯々槽に閉鎖が認められる(図14)。その前後の歯槽が健全であることから人為的な抜歯による歯槽閉鎖が疑われるが、全般に歯の咬耗が著しく進んでいるので、病的な歯の脱落が原因しているとも考えられる。口蓋隆起はなく、口蓋管の有無は破損のため不明。左側頭骨では外耳孔はほぼ円形を呈し、骨瘤はない。鼓室部には長径1 mm程の大きさのフシケ孔をみる。左舌下神経管は単一。左下顎枝は咬筋粗面が強く発達し、下顎角の外反も著しい。左に顎舌骨筋神経管はみられない。左右とも下顎隆起が形成される傾向にある。左下顎第2大臼歯々槽と右下顎第1、第2大臼歯々槽に膿瘍の存在を示す痕があるが、残存歯にう蝕は認められない。胸椎には椎間関節に変形性関節症の像を示すものがある。

JX-4 P-117

頭蓋では後頭鱗の右半部、右頭頂骨の大部分が接合した状態で保存される。また、右側頭骨、後頭骨右外側部と底部および蝶形骨体を含む頭蓋底(図15)、第1小臼歯と第1から第3大臼歯までを植立した右上顎骨と第2小臼歯から第3大臼歯までを植立した下顎骨右半部(図16)が残存する。このほか第2大臼歯を伴う左下顎体の破片も認められる。歯は上顎骨と下顎骨に植立したものの以外に、大臼歯、小臼歯、犬歯がそれぞれ1個ずつ遊離して保存される。四肢・軀



図15 美沢1 JX-4 P-117 頭蓋底部



図16 美沢1 JX-4 P-117 右上顎骨と下顎骨

幹骨では上位頸椎の破片と右上腕骨近位端など四肢長骨の断片が残存する。

蝶後頭軟骨結合は完全に骨化するが、主縫合の残存部には内、外板ともに癒着は認められない。歯の咬耗もあまり進んでおらず、I度ないしII度の段階にある。おそらく壮年程度の年齢段階にあったものと思われる。

頭蓋諸骨の大きさ、右側頭骨乳様突起の大きさと形態からみて、明らかに女性骨と判定される。

右上顎骨第2切歯々槽は大部分失われるが、その基部において上顎骨歯槽突起の内、外面がほとんど相接する状態にあるので、この歯槽は閉鎖していた可能性がある。骨口蓋では右に口蓋骨の形成はない。頭蓋底部では右舌下神経管に骨性二分があり、右側頭骨鼓室部には長径5 mm、最大幅2 mmの非常に大きなフシケ孔が認められる(図15)。右頸静脈孔には異常はみられない。右外耳孔はほぼ円形を呈し、外耳道骨瘤はない。右蝶形骨床突起間に骨橋は認められない。右下顎枝は高さに比して著しく幅広く、特に筋突起の発達が良い。下顎枝高44 mm、枝幅33 mm、下顎枝示数75.0。右に顎舌骨筋神経管はない。下顎底縁の走向はほぼ直線の。残存歯にう蝕は認められない。

JX-4 P-120

墓坑底とともにワレタンで包埋したものを研究室内で再発掘した資料である。

頭蓋では前頭骨と頭頂骨の一部、顔面の左半分および後頭骨両側部より前方の頭蓋底部が接合された状態に復元される(図版1-2)。このほか後頭骨の左半部と下顎の破片が遊離して残存する。歯は左上顎第1切歯と左大歯から第2大歯までが歯槽に植立した状態で保存される。下顎では左第1小歯、右第1および第2大歯が歯槽に植立した状態で保存される。そのほか大歯が2個、切歯が1個遊離して残存する。四肢・軀幹骨は椎骨と上肢骨の細片のほか、左寛骨、左右大腿骨および脛骨がパラフィンで固定されて採取されたが、いずれも変形が著しく、人類学的な計測に耐える状態ではない。蝶後頭軟骨結合は完全に癒合し、矢状縫合と冠状縫合の残存部では内板は完全に癒着している。歯の咬耗は進んでおり、平均してIII度の段階にある。これらのことから、年齢は熟年程度と推測される。

乳様突起の大きさは中等であるが、乳突上縁が強く発達し、乳突上溝も明瞭である。そのほか眉間の隆起度、後頭骨項平面のレリーフの強さなどを考えると、この頭骨は男性のものである可能性が高い。また、左寛骨の大坐骨切痕の形態も男性的特徴を示している。

顔面部の主な計測値は次のとおりである。顔長98 mm、上顔高60 mm、眼窩高(左)31 mm、鼻高47 mm、鼻骨最小幅7.4 mm、鼻背稜から



図17 美沢1 JX-4 P-120 左上顎第2切歯の歯槽閉鎖

の垂線 3.0 mm、鼻骨平坦指数 40.5。

前頭縫合は存在しない。眉間と眉弓は合してかなり強い膨隆を示す。眉間の突出度はブローカのⅢないしⅣ度の段階にあり、鼻前頭縫合の陥入も深い。上顎骨前頭突起の向きは矢状位と前頭位のほぼ中間である。鼻骨は幅広くはないが、左右のものが正中で角度をなして接するため、水平輪郭はかなり強く前方へ突出する。左の眼窩上縁に孔の形成はない。眼窩は著しく低く、形はほぼ矩形をなし、長軸もほぼ水平である。上顎骨歯槽突起は低く、上顔高も著しく低い。左眼窩下孔は単一。

左上顎第2切歯々槽は完全に閉鎖するが、その際、左上顎第1切歯と犬歯は互いに接近し、かつ第1切歯は唇側面が近心側に、犬歯は唇側面が遠心側に捻転している(図17)。左側では第1切歯と犬歯から第1大臼歯までが歯槽を含めてすべて健全であるので、この第2切歯の歯槽閉鎖は人為的な抜歯によるものである公算が大である。右上顎骨では歯槽の大部分が破損するが、わずかに残る歯槽内側縁の形状から判断する限り、前歯部にその様な歯槽閉鎖があったとは考えられない。

口蓋にはごく軽度の口蓋隆起があり、左右とも内側口蓋管が形成される。左側ではさらに外側口蓋管も形成される傾向にある。頭蓋底部では大後頭孔前縁に異常はなく、頸靜脈孔、卵円孔にも異常は認められない。翼棘孔などの形態変異もみられない。左側頭骨鼓室部には数個の小孔がみられるが、その位置と形状からみてフッシュケ孔とは認め難く、自然の腐蝕によるものと思われる。左下顎窩には病的な骨増殖が認められる。舌下神経管は左は単一であるが、右は骨橋により完全に二分される。外耳孔は楕円形を呈し、骨瘤は存在しない。

残存歯に歯石の沈着はあるが、う蝕は認められない。

昭和55年度発掘資料

美々4遺跡

縄文後期と考えられるBP-40、BP-114の土壌墓と後期末葉の周墳墓BS-3より出土した人骨である。

BP-40

頭骨のみが採取された。

左側頭骨、蝶形骨左大翼、左頭頂骨および後頭鱗の左半部が接合できる状態に復原される(図18)。このほか後頭骨底部から左右顆部にかけた破片、蝶形骨体、右側頭骨岩様部および蝶形骨右大翼の一部、前頭骨の左眼窩周辺部、左上顎骨、左下顎枝(図19)が遊離して保存される。歯は左上顎第2小臼歯と第1大臼歯が上顎骨に植立した状態で保存される。

頭蓋全体の大きさ、歯の咬耗の程度(Ⅲ度)からみて明らかに成年骨である。

乳様突起が小さく先端が内向するところからみて、性別はおそらく女性であろう。

左眼窩上縁に孔の形成はない。左に副眼窩下孔も存在しない。左右とも卵円孔、棘孔に異常はなく、翼棘孔などの形態変異も存在しない。右は正常であるが、左に径0.5 mm程の大きさ

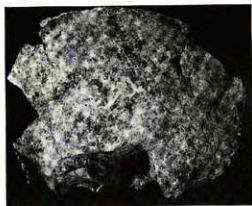


図18 美々4 BP-40 頭骨左側面観



図19 美々4 BP-40 左下顎枝内面

のフシケ孔を認める。左右とも外耳孔は楕円形を呈し、骨瘤を認めない。蝶形骨床突起に異常はない。左は単一であるが、右舌下神経管は骨橋により完全に二分される。左下顎枝は高さに比してかなり幅が広い。下顎枝高 59 mm、枝幅 36 mm、下顎枝示数 61.0。筋粗面も良く発達し、内面には顎舌骨前神経管の形成がある（図19）。残存歯にう蝕はみられない。

BP-114

成年の2体合葬である。

第1号頭骨

左右上顎骨、右顎骨および大後頭孔より前方の頭蓋底部が接合した状態で保存される（図20）。上顎骨には右大歯より右第3大臼歯までと、左第2および第3大臼歯が植立している。下顎は右第1切歯から右第2小臼歯までと、左の第1切歯から第3大臼歯までを伴う下顎体が保存される。歯は上顎骨と下顎骨に植立するもの以外に大臼歯4個、小臼歯2個、大歯1個、切歯2個が遊離して保存される。

蝶後頭軟骨結合は完全に骨化し、上顎、下顎とも第3大臼歯が萌出するので、成年であることは確実である。しかし、歯の咬耗は概して弱く、平均してⅠ度の段階にあるので、年齢は壮年程度であったと思われる。

乳様突起など性別の判定に有効な部位が破損するので性別を明らかにすることができないが、下顎オトガイ部の形態は中央の隆起が強く女性的である。

頭蓋の計測値は次のとおりである。顔長 96 mm、口蓋長 45 mm、口蓋幅 35 mm、口蓋示数 77.8、オトガイ高 30 mm、下顎体高 29 mm。

上顎歯槽部には歯槽性の突顎がかなり顕著に

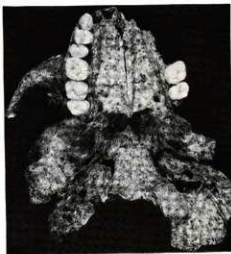


図20 美々4 BP-114 頭骨底面観

認められる。左に内側口蓋管の形成があり、右にもその傾向を認める。中等度の口蓋隆起も認められる。左右とも咽孔、棘孔に異常はないが、左側では翼棘孔が形成される傾向が観察される。右側では長径4mm、幅2mm程の、左側では長径2mm、幅1.5mm程の大きさのフシケ孔が認められる。左の舌下神経管は単一。蝶形骨床突起に異常は認められない。残存歯にう蝕はみられない。

第2号頭骨

後頭骨底部と左顆部、左側頭骨錐体および左下顎枝の破片が保存される。歯は下顎大臼歯の歯冠が2個残存する。

蝶後頭軟骨結合が完全に骨化するので成年骨と考えてさしつかえないと思われる。

性別は明らかでない。

左舌下神経管は単一。残存歯にう蝕は認められない。

四肢骨

左大腸骨々体上半部、右大腸骨遠位端および右脛骨近位端が保存される。第1号および第2号頭骨のいずれに属するものであるかは明らかでない。

左大腸骨々体は上部がかなり扁平で、体上部最大径28mm、同最小径20mm、体上部横断示数71.4。体中央部では柱状性が明瞭で、体中央部矢状径27mm、同横径23mm、体中央部横断示数117.4。

BS-3 P-14

左側頭骨と頭蓋冠の破片が残るのみである。

側頭骨岩様部の大きさから判断して成年骨とみなしてさしつかえないと思われる。

乳様突起の大きさと形態からみて、性別は男性と思われる。

左外耳孔は楕円形を呈し、骨瘤はみられない。フシケ孔も存在しない。

美々5遺跡

縄文後期と思われるMP-36土壌墓より出土した人骨である。

MP-36

少なくとも成年骨2個体分が同定される。頭蓋では左右側頭骨錐体が2対保存される。このほか右側頭骨乳突部から鱗部にかけての破片、左側頭骨鱗部から蝶形骨大翼にいたる破片、右下顎枝の破片および頭蓋冠の破片が残存する。歯は咬耗がⅢ度に達する大臼歯のほか、前歯2個が同定される。四肢・経幹骨は左上腕骨遠位端と足指の左第1基節骨のほか、四肢長骨や椎骨、肋骨の断片が保存される。

これらはいずれも大きさと化石状態からみて、明らかに成年骨と判定される。

性別は不明である。

右側頭骨鼓室部が1例観察されるが、これにはフシケ孔は認められない。

このほか、まったく咬耗のない未萌出かあるいは萌出直後と思われる右下顎第1大臼歯々冠

が存在するので、別に若年個体が埋葬されていたものと思われる。

なお、この墓墳からは、総重量 50 g あまりの焼骨片が検出されている。これらの骨片はいづれも熱を受けて収縮しているが、環椎前弓の破片、椎体および椎弓の破片、左肩甲骨の破片、左手の舟状骨および月状骨、左第 2 中手骨、指の末節骨が同定され、明らかに人骨と判定される(図 21)。

末節骨の骨端が癒合するので、年齢は思春期以後と考えると良いと思われるが、性別は明らかでない。

この焼骨には頭骨片や四肢長骨片がみあたらないので一個体分を構成しているとは思われないが、前記した成人骨の一部であるのか、あるいはまったく別個体のものであるのかは明らかでない。



図 21 美々 5 MP-36 の焼骨

人骨所見まとめ

年齢・性別

ここに報告した人骨群の年齢別・性別の一覧は表 2 に示したとおりである。

新生児期や幼児期の人骨がまったくみられないが、これは人骨が脆弱なために長年月の保存に耐えられなかったということも原因しているように思われる。また、成年男性骨が比較的多く見受けられるのも、一般に頑強な骨格を有する成年男性骨がよく保存されるという骨の保存上の問題とも関係しているかもしれない。したがって、この表から遺跡全体の年齢別・性別の構成を復原するには十分な注意を払う必要があると思われる。

頭骨の特徴

ここでは、人骨資料の大部分を占める縄文後期末葉の美沢 1 遺跡周堤墓より出土した人骨群を中心に、頭骨の 2、3 の形態的特徴を簡単にまとめてみることにする。

まず鼻骨の形態であるが、一般に本州の縄文時代人では鼻骨が幅広いことが特徴の一つになっている。たとえば津雲貝塚(清野・宮本、1926)では、鼻骨最小幅は男、女性を込みにした場合、変異幅は 7 mm から 12 mm にわたり、平均は 9.1 mm である。ところが美沢 1 遺跡の場合、鼻骨最小幅は 4 例が計測可能であったが、変異幅は 7 mm から 8 mm で平均は 7.6 mm となり、鼻骨の幅は決して広いとはいえない。それにもかかわらず、この鼻骨は左右のものが正中で角度をなして接するため、鼻骨の水平湾曲はかなり強く前方へ突出することになる。このような鼻骨の形態は、この人骨群に共通する特徴であると思われる。

次に下顎枝の広さについてみれば、津雲貝塚では男、女性を込みにした場合、下顎枝示数の

表2 美沢川流域の遺跡群出土人骨年齢・性別一覧

遺 跡 名	年 令	性 別	発掘年度	遺 跡 名	年 令	性 別	発掘年度
美々4 遺跡				JX-3 P-119	成年	?	昭53
BP-40	成年	女性	昭55	JX-3 P-127	成年	男性?	"
BP-114	{ 成年	女性?	"	JX-4 P-101	成年	?	"
	{ 成年	?	"	JX-4 P-104	{ 成年	男性?	"
BS-3 P-14	成年	男性	"		{ 小児	?	"
美々5 遺跡				JX-4 P-106	小児~青年	?	"
BP-1	成年	?	昭53	JX-4 P-107	{ 成年	女性?	"
BP-15	成年	?	"		{ 小児	?	"
MP-36	{ 成年	?	昭55	JX-4 P-108	成年	?	"
	{ 成年	?	"	JX-4 P-109	成年	?	"
	{ 青年	?	"	JX-4 P-110	{ 成年	男性	"
美沢1 遺跡					{ 小児~青年	?	"
KX-1 P-106	青年~成年	?	昭53		{ 小児	?	"
KX-1 P-109	成年	男性	"	JX-4 P-111	小児~青年	?	"
JX-2 P-104	成年	男性	"	JX-4 P-114	成年	?	"
JX-3 P-104	{ ?	?	"	JX-4 P-116	成年	男性	"
	{ 成年	?	"	JX-4 P-117	成年	女性	"
JX-3 P-111	成年	男性	"	JX-4 P-120	成年	男性	"

変異幅は46.0から66.0で、平均は55.9である。筆者の調査した縄文晩期の宮城県宮戸島里浜貝塚(百々, 1981)では、男、女性7例の変異幅は52.5から72.0で、平均は62.2であった。美沢1遺跡では2例の下顎枝が計測可能であったが、下顎枝示数はJX-3 P-111 頭骨が82.0、JX-4 P-117 頭骨が75.0で、いずれも著しく幅広い下顎枝であるといえることができる。まだ詳細な比較検討はなされていないが、一般に北海道の縄文人の下顎枝は、本州のものに比して幅広いものが多いようである。

顔面部が比較的良好な状態で保存されるものは、美沢1遺跡のJX-4 P-104 男性頭骨とJX-4 P-120 男性頭骨のみである(図版1)。JX-4 P-104 頭骨の場合は上顔高や眼窩高が比較的高く、眉間や眼窩などの形態も、どちらかといえば釧路町高砂貝塚人骨に代表される道南地方の縄文人的な特徴を備えている。これに対してJX-4 P-120 頭骨の場合は、上顔高、眼窩高とも著しく低く、眼窩は矩形を呈し、眉間は強く突出し、鼻前頭縫合が深く陥凹するなど、どちらかといえば釧路市緑ヶ岡遺跡人骨に代表されるような、道東から道北地方の縄文人に共通すると思われる特徴が優勢である。山口(1964, 1974, 1980など)が再三指摘するような、縄文時代をとおしてほぼ石狩一苫小牧低地帯を境界として相対峙する道南と道東北の二大文化圏のそれぞれに固有な人類学的特徴が、美沢1遺跡のように両文化圏の接点にある地域で

混存して認められることは、はなはだ興味のもたれるところである。しかし、なにぶん資料があまりにも不完全であり、しかも1例のみの対比で確実性に乏しいので、この問題は今後の資料の増加を待って改めて検討してみたい。

形態小変異の出現状態

美沢1遺跡の周堤墓から出土した人骨群では、舌下神経管二分が14個中5個(35.7%)、内側口蓋管が9個中5個(55.6%)、顎舌骨筋神経管が6個中2個(33.3%)、口蓋隆起が6例中3例(50.0%)に認められている。また、上顎大臼歯にエナメル滴を有する個体も3例認められる。これらの形態小変異は、いづれも近世アイヌに比較的多い形質であることが注目される(児玉, 1940; Dodo, 1974)。

これに対して、近世アイヌには比較的確な形質である側頭骨鼓室部の裂開(フッシュケ孔)が非常に多く認められるのも本人骨群の特徴の一つに数えることができる。すなわち、美沢1遺跡人骨群では14個中8個(57.1%)にフッシュケ孔が認められ、しかもJX-4 P-117頭骨にみられるようにきわめて大きな裂開が多い。この形質はOssenberg(1970)が提唱する骨形成不全の形質であるが、前述したとおり、舌下神経管二分、顎舌骨筋神経管、口蓋隆起のような骨過形成の形質も高頻度で出現しているところからみて、このフッシュケ孔が栄養状態の不良などの骨形成不全を引き起こす外的な原因によってもたらされたとみなすよりもむしろ、本人骨群の遺伝的な特徴を表していると考えた方が良いと思われる。ある特定の形態小変異が比較的小さな地域集団に高頻度で出現する傾向は、しばしば認められるようである。たとえば宮戸島里浜貝塚では、前頭縫合やインカ骨のような縫合の変異がきわめて高率に出現することが観察されている(百々, 1981)。

う歯

美沢1遺跡人骨群にはう歯が1本も認められなかったのも、重要な所見と思われる。遊離歯が多く保存状態も一定しないので正確な統計はとれなかったが、かりにう歯が存在したとしても、それはきわめて低率であったことは確実である。

現代人に比すればはるかに少ないとはいえ、本州の縄文人にしばしばう歯が認められることは良く知られており、佐倉(1964)によれば、一人平均のう歯数は1~2本、または3本に近い数値になるという。筆者が調べた宮戸島里浜貝塚では、男、女性8例中実に5例にう歯の存在が確認されている。これに対して近世アイヌでは、一人平均のう歯数は0.3~0.4本で、本州のどの時代の資料と比較してもさらに小さい値であるという(佐倉、同上)。

したがって、美沢1人骨群でう歯がまったく認められないか、あるいはあってもきわめて低率であるということは、近世アイヌとの密接な関連を示唆する特徴とみなすことができるように思われる。同様なことが他の北海道の縄文人集団にもあてはまるかどうか、今後詳細な検討を加えてみる必要があろう。

抜歯

美沢1遺跡 JX-4 P-104頭骨とJX-4 P-120頭骨には、左上顎第2切歯の歯槽閉鎖が

認められた。JX-4 P-120 頭骨については下顎歯の所見が得られなかったが、JX-4 P-104 頭骨の場合は、左上顎第2切歯以外の歯がすべて歯槽ともども健全であるので、この切歯の人為的な抜歯を疑わせるに充分であった。

北海道においては、上顎第2切歯1本のみの歯槽閉鎖は大洞C₂式土器を伴った虻田町高砂貝塚第21号女性人骨（未報告）と縄文晩期と考えられる島牧村栄磯岩陰遺跡出土女性人骨（峰山ら、1973）に知られており、ともに道南地方に上顎第2切歯の偏側性抜歯の風習が存在したことを示す資料とみなされてきた（山口、1974；山口・百々、1980）。最近になって、道東地方の別海町共春遺跡よりヌサマイ式土器を伴って発見された成年男性頭骨に、左上顎第2切歯のみの歯槽閉鎖が確認されたが、これも風習による抜歯の疑いが濃いといわれている（平本、1980）。

これらの類例を参考にすれば、JX-4 P-104 頭骨の左上顎第2切歯の歯槽閉鎖を非対称型式の風習の抜歯と考えて何らさしつかえないように思われる。また、JX-4 P-120 頭骨の左上顎第2切歯の歯槽閉鎖も同様に考えてさしつかえないと思われるし、断片的な資料であるが、JX-4 P-116 頭骨と JX-4 P-117 頭骨の上顎第2切歯の歯槽閉鎖もまた、風習の抜歯によるものである疑いが濃厚となる。

もともと片側の上顎第2切歯のみの抜歯は、松本（1920、1922）が宮城県南方町青島貝塚と鳴瀬町川下り響貝塚において最初に確認したものであり、東北地方や関東地方では縄文中期末から後期初頭にかけてみられる抜歯様式であるという（山内、1937；鈴木ら、1957）。

したがって、東北地方や関東地方では縄文中期末から後期にかけてみられた上顎第2切歯1本のみの非対称的な抜歯風習が、後期末葉から晩期にかけて、決して頻繁におこなわれたものではないにしても、北海道内に広くいきわたっていた可能性はきわめて高いといえる。

引用文献

- Dodo, Y., 1974 : Non-metrical cranial traits in the Hokkaido Ainu and the northern Japanese of recent times. *J. Anthropol. Soc. Nippon*, 82 : 31-51.
- 百々幸雄、1981 : 宮戸島里浜貝塚出土の縄文時代人頭蓋について、人類誌、89（印刷中）。
- 平本嘉助、1980 : 北海道野付郡別海町共春遺跡出土の縄文時代人骨（抄）。人類誌、88 : 178。
- 清野謙次・宮本博人、1926 : 津雲貝塚人々骨の人類学的研究、第2部 頭蓋骨の研究。人類誌 41 : 95-140、151-208
- 児玉作左衛門、1940 : アイヌの頭蓋学および骨学。人類学・先史学講座、18巻、雄山閣。
- Martin, R. & K. Saller, 1957 : *Lehrbuch der Anthropologie*. Bd. I. G. Fischer, Stuttgart.
- 松本彦七郎、1920 : 二、三石器時代遺跡における抜歯風習の有無および様式について。人類誌、35 : 61-83。
- 、1922 : 二、三石器時代古式遺跡における抜歯風習について。人類誌、37 : 243-254。
- 峰山巖・桐谷賢一・西本豊弘・百々幸雄・上野秀一・金子浩昌、1973 : 栄磯岩陰遺跡発掘報告。北海道島牧村教育委員会。

Ossenberg, N. S., 1970 : The influence of artificial cranial deformation on discontinuous morphological traits. *Am. J. Phys. Anthropol.*, 33 : 357-372.

佐倉朔、1964 : 日本人における齧歯頻度の時代的推移。人類誌、71 : 153-177.

鈴木尚・佐倉朔・佐野一、1957 : 堀之内貝塚人骨。人類誌、65 : 238-270.

山口敏、1964 : 網路緑ヶ岡人骨について。郷土の科学、43 : 28-30.

Yamaguchi, B., 1973 : Facial flatness measurements of the Ainu and Japanese crania. *Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo*, 16 : 161-171.

山口敏、1974 : 北海道の先史人類 第四紀研究、12 : 257-264

——百々幸雄、1980 : 北海道の先史人類の系譜。郷土と科学編集委員会編、北海道5万年史、183-190.

山内清男、1937 : 日本先史時代における抜歯風習の系統。先史考古学、1 : 53-60.

THE
JOURNAL
OF
THE
ROYAL
ANTHROPOLOGICAL
INSTITUTE
OF GREAT
BRITAIN
AND IRELAND
VOLUME
LXXV
PART I
1905

北海道埋蔵文化財センター調査報告第3集

美沢川流域の遺跡群 IV

——新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書——

昭和56年3月31日 発行

編集・発行 財団法人北海道埋蔵文化財センター

064 札幌市中央区南15条西17丁目

TEL.(011)561-0067

印刷 刷 高 速 印 刷 セ ン タ ー

札幌市中央区北4条西3丁目 北洋駅前ビル6F

TEL.(011)271-5101

國立中央圖書館藏

第 100 號

中華民國二十九年一月一日

中華民國二十九年一月一日

中華民國二十九年一月一日

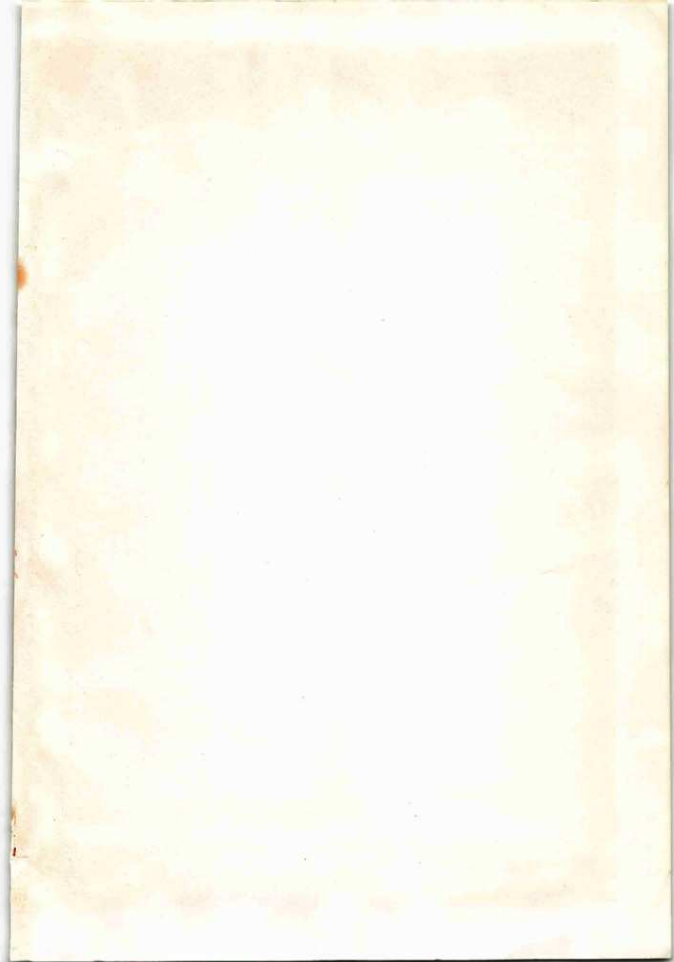
中華民國二十九年一月一日

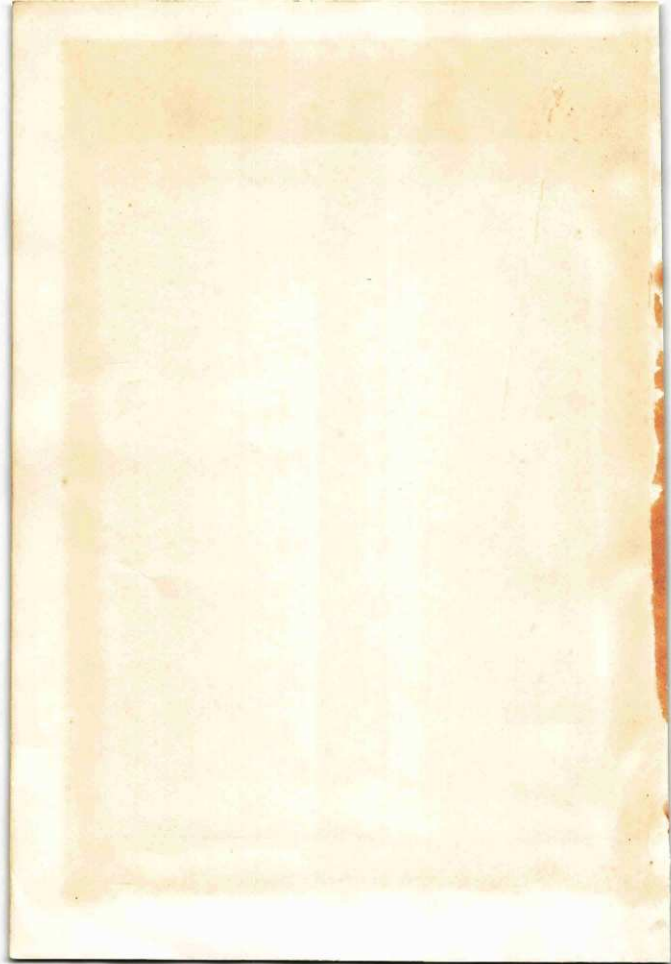
中華民國二十九年一月一日

中華民國二十九年一月一日

中華民國二十九年一月一日

中華民國二十九年一月一日





美沢川流域の遺跡群 IV 正誤表

ページ	行	誤	正																		
7	30	低地にあるように…	低地にあるものと																		
10	図 3																				
43	表 1・左側下より 8 段目	II A 1 a	II A 1-																		
#	# 7 段目	II A 1-	II A-																		
51	15	a-Z 類	a-2 類																		
58	4	後期末集晩期	後期末集～晩期																		
68	遺物の表	分 類	分 類																		
71	遺物の表	計 15 点	計 5 点																		
89	最下段	BH-56	BH-56																		
102	石器の表	13 WA 2 (535.0) #	13 WA 2 (535.0) # Gr. Mud.																		
146	右下・層位	(ベンガラ含む)	(ベンガラ含む)																		
158	石器の表	石器 E ₁ -63-38-1	石 器																		
164	土製品・石製品等の表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>分 類</th><th>大 小</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td>8×7</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td>6.5×…</td></tr> </tbody> </table>	番号	分 類	大 小	1		8×7	2		6.5×…	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>分 類</th><th>大 小</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>小 玉</td><td>8×7</td></tr> <tr> <td>2</td><td>#</td><td>6.5×…</td></tr> </tbody> </table>	番号	分 類	大 小	1	小 玉	8×7	2	#	6.5×…
番号	分 類	大 小																			
1		8×7																			
2		6.5×…																			
番号	分 類	大 小																			
1	小 玉	8×7																			
2	#	6.5×…																			
168	下段石器の表	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>1</td><td>IA・3 a</td></tr> <tr> <td>2</td><td>IA・3 b</td></tr> </tbody> </table>	1	IA・3 a	2	IA・3 b	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>1</td><td>IA 3 a</td></tr> <tr> <td>2</td><td>IA 3 b</td></tr> </tbody> </table>	1	IA 3 a	2	IA 3 b										
1	IA・3 a																				
2	IA・3 b																				
1	IA 3 a																				
2	IA 3 b																				
214	表の右側の下から 1・2 段	#	# をとる																		
260	28	…平坦部から…	…平坦部から…																		
364	表 1 右側下から 5 段目	2,345	2,343																		
366	18	皿型石製品	皿形石製品																		
460 (4)	23	図版 1-1	図版 1-2																		
469 03	18	図版 1-2	図版 1-1																		

表 2-1-1 主要设备的数量及规格

序号	设备名称	规格	数量
1	电动机	Y 100L2-4	1
2	电动机	Y 100L2-4	1
3	电动机	Y 100L2-4	1
4	电动机	Y 100L2-4	1
5	电动机	Y 100L2-4	1
6	电动机	Y 100L2-4	1
7	电动机	Y 100L2-4	1
8	电动机	Y 100L2-4	1
9	电动机	Y 100L2-4	1
10	电动机	Y 100L2-4	1
11	电动机	Y 100L2-4	1
12	电动机	Y 100L2-4	1
13	电动机	Y 100L2-4	1
14	电动机	Y 100L2-4	1
15	电动机	Y 100L2-4	1
16	电动机	Y 100L2-4	1
17	电动机	Y 100L2-4	1
18	电动机	Y 100L2-4	1
19	电动机	Y 100L2-4	1
20	电动机	Y 100L2-4	1
21	电动机	Y 100L2-4	1
22	电动机	Y 100L2-4	1
23	电动机	Y 100L2-4	1
24	电动机	Y 100L2-4	1
25	电动机	Y 100L2-4	1
26	电动机	Y 100L2-4	1
27	电动机	Y 100L2-4	1
28	电动机	Y 100L2-4	1
29	电动机	Y 100L2-4	1
30	电动机	Y 100L2-4	1
31	电动机	Y 100L2-4	1
32	电动机	Y 100L2-4	1
33	电动机	Y 100L2-4	1
34	电动机	Y 100L2-4	1
35	电动机	Y 100L2-4	1
36	电动机	Y 100L2-4	1
37	电动机	Y 100L2-4	1
38	电动机	Y 100L2-4	1
39	电动机	Y 100L2-4	1
40	电动机	Y 100L2-4	1
41	电动机	Y 100L2-4	1
42	电动机	Y 100L2-4	1
43	电动机	Y 100L2-4	1
44	电动机	Y 100L2-4	1
45	电动机	Y 100L2-4	1
46	电动机	Y 100L2-4	1
47	电动机	Y 100L2-4	1
48	电动机	Y 100L2-4	1
49	电动机	Y 100L2-4	1
50	电动机	Y 100L2-4	1
51	电动机	Y 100L2-4	1
52	电动机	Y 100L2-4	1
53	电动机	Y 100L2-4	1
54	电动机	Y 100L2-4	1
55	电动机	Y 100L2-4	1
56	电动机	Y 100L2-4	1
57	电动机	Y 100L2-4	1
58	电动机	Y 100L2-4	1
59	电动机	Y 100L2-4	1
60	电动机	Y 100L2-4	1
61	电动机	Y 100L2-4	1
62	电动机	Y 100L2-4	1
63	电动机	Y 100L2-4	1
64	电动机	Y 100L2-4	1
65	电动机	Y 100L2-4	1
66	电动机	Y 100L2-4	1
67	电动机	Y 100L2-4	1
68	电动机	Y 100L2-4	1
69	电动机	Y 100L2-4	1
70	电动机	Y 100L2-4	1
71	电动机	Y 100L2-4	1
72	电动机	Y 100L2-4	1
73	电动机	Y 100L2-4	1
74	电动机	Y 100L2-4	1
75	电动机	Y 100L2-4	1
76	电动机	Y 100L2-4	1
77	电动机	Y 100L2-4	1
78	电动机	Y 100L2-4	1
79	电动机	Y 100L2-4	1
80	电动机	Y 100L2-4	1
81	电动机	Y 100L2-4	1
82	电动机	Y 100L2-4	1
83	电动机	Y 100L2-4	1
84	电动机	Y 100L2-4	1
85	电动机	Y 100L2-4	1
86	电动机	Y 100L2-4	1
87	电动机	Y 100L2-4	1
88	电动机	Y 100L2-4	1
89	电动机	Y 100L2-4	1
90	电动机	Y 100L2-4	1
91	电动机	Y 100L2-4	1
92	电动机	Y 100L2-4	1
93	电动机	Y 100L2-4	1
94	电动机	Y 100L2-4	1
95	电动机	Y 100L2-4	1
96	电动机	Y 100L2-4	1
97	电动机	Y 100L2-4	1
98	电动机	Y 100L2-4	1
99	电动机	Y 100L2-4	1
100	电动机	Y 100L2-4	1